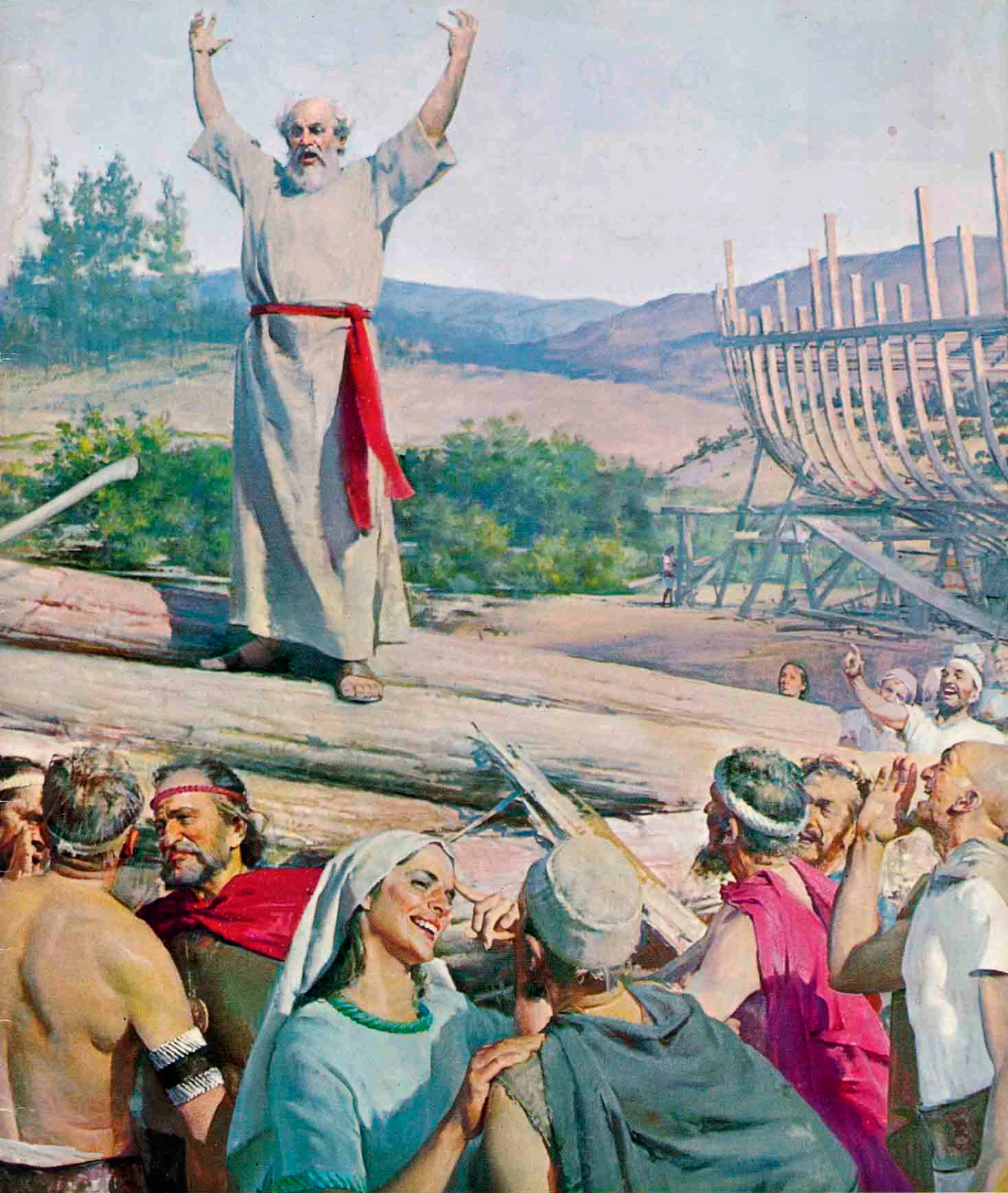
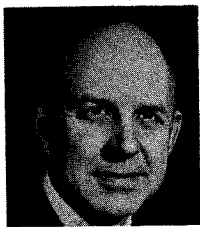






心の糧

十二使徒評議会補助

セオドア M. バートン

天の王国における昇栄を保証するのは単なる記録のみではない。昇栄は地上での正しい生活、徳、愛、従順、神の与えたもうすべての律法に従うことにより勝ち得られる。

事実、聖典には、このように述べられている。「われ汝らに一つの誠命を与う。すなわち、汝ら須らくすべての悪を捨て去り、すべての善に固く就くべし。また、須らく神の口より出ずるあらゆる言によりて生くべし。」(教義と聖約98:11)

しかしながら、自分の名前が、地上における神の家族の記録に記されているかどうか、また大切な福音の儀式を受けたことが、教会の記録に正しく記されているかどうかを調べるのは、自らの責任である。

自己の救いと昇栄は、正しい生活をする 것과、記録された福音の要件を満たすことの二つにかかっている。危ぶまれるのは、他人の祝福ではなく、自分自身の祝福である。

自己の責任は、正しい生活をし、自分の正しい記録を直ちにやることである。後になって、自分の記録のあやまりに怒ったり、権利を主張して記録を修正する機会はないのである。記録による証明ができないために、自分の将来の祝福が危うくなるとすれば、自らへりくだり、自分と家族の記録が正しく記され、保管されていることを確かめるために、必要なことは何でもするにちがいない。

も く じ

予言者のことば

バプテスマの門.....	大管長 デビド O. マッケイ.....	337
人物評価.....	ロジャー ウィンシップ スチュアート.....	339
おとな——学ぶべき人々.....	ハロルド グレン クラーク.....	343

管理監督会ページ

什分の一について.....	ジョン H. バンデンバーグ.....	346
耐えぬいた英国伝道部.....	アンドレ K. アナスタシオン.....	348
改めたい母親の習慣.....	フローレンス ピノック.....	351

日曜学校

レッスンの準備.....	レックス D. パインガー.....	352
報いある健康の法則.....	ウィリス D. ウイン.....	355

M I A

友はMIAでできる.....		357
----------------	--	-----

若人のページ

権能ですって? 何をする権能ですか.....		358
人の悪しきくわだて.....	ジョン H. バンデンバーグ.....	359
大会説教.....		361
伝道部長メッセージ.....		385
ローカルニュース.....		386
最も実践し難い教え.....	リチャード L. エバンズ...裏表紙	

子供のページ

おもしろいえをかきましよう.....	ロバート L. フェアロール.....	81
末日の十二使徒たち.....		82
ボールはね.....	スィリーン S. ディビス.....	84

今月の表紙

今月の表紙は訪問者センターにある壁画の一部で、ノアが人々に洪水の警告と悔い改めを叫んでいる様子がよくうかがえる。(創世記6～9章参照) (ヘンリーアンダーセン作)



バプテスマ

の 門

大管長 デビッド O. マッケイ

予 言者ジョセフ・スミスは次のように述べた。「バプテスマは神に対するしるし（サイン）である。……人が神の御許に救われ、神の王国に入るために神が定めたもうた方法は、イエス・キリストを信ずる信仰、悔い改め、罪の赦しを得るためのバプテスマだけであって、天にも地にもその他の道は無効である。バプテスマの後に、聖霊の賜が約束される。」（予言者ジョセフ・スミスの教え P. 198）

バプテスマは福音の第一原則と儀式の一つである。それは教会の定められた礼式、一つの儀式であると明確に定義されている。信仰と悔い改めが原則であるという意味において、厳密に分類すると、バプテスマは原則とは見なされないかもしれない。しかしながら、それは神の力によって制定された律法である故に原則なのである。

バプテスマは霊的成長の基となる諸原則をつねに思い起こ

イエスは「すべての正しいことを成就する」(マタイ 3:15) ためにヨハネによりバプテスマをお受けになった。

させる。この儀式に関連しているものは、誠実、謙遜、潔白である。誠実は「徳のある高貴な家族の母であり」謙遜と潔白は、「人が地と万物の上を高く飛ぶ二つの翼」である。

己れにこの聖なる儀式を受けたいと望む人はみな、これらの三つの徳を持つべきである。その人は悔いる心を持って、誠実に造り主の御前に臨み、弱点と誤りを認め、新しい生活をする望みを表わさなければならない。その人は奉仕への利己的な目的を抱いてはならない。彼は神の羊の群に入って、神の民と言われ、「他人の苦難を軽くするために助ける」ことを心から望まねばならない。このようにしてのみ、永遠の原則である真の悔い改めが明らかに示されるのである。

「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。」と救い主は教えられた。心の清くない者は、たとえ百回バプテスマを受けても、神に近づくことはできない。

謙遜は人の意志によって表わされる。それは人を従順へと導き、見栄、外聞、名誉、利得などのあらゆる欲を追いやってくれる。神の戒めの一つに従おうとする純粋な望みが、価値のある行動をしようとする意志によって表わされる。その謙遜さは、徳のある人の心の中にもみあるのではなく、さらにその儀式の執行の中に見いだされるのである。

聖典にある歴史上のあらゆるバプテスマは、これを証拠立てている。例をあげると、ヨルダン川におけるイエスのバプテスマ、ピリポによるカンダケ女王の宦官、パウロとシラスによる獄吏、ペテロによるコルネリオとその仲間、アルマによるヒーラムとその他のバプテスマなどがある。これらすべての例の特徴は謙遜と神聖さであるように思われる。バプテスマに画一的な準備期間があったり、大げさな儀式や不敬な礼式があったという証拠はないのである。人生の誠実と潔白を代表するような、主イエス・キリストを信ずる信仰、罪を悔い改める精神や神の民と親しく交わりたいという望みが、バプテスマへの準備の唯一の必要条件であった。

イエスは「すべての正しいことを成就する」(マタイ 3:15) ためにヨハネによりバプテスマをお受けになった。「しかし、パリサイ人と律法学者たちとは彼からバプテスマを受けないで、自分たちに対する神のみこころを無にした。」(ルカ

7:30)

ニコデモに向いイエスは言われた。「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ 3:5)

教会の会員全体に対してペテロはこう書き送った。「あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。キリストに合うバプテスマを受けたあなたがたは、皆キリストを着たのである。」(ガラテヤ 3:26~27) 「この水はバプテスマを象徴するものであって、今やあなたがたをも救うのである。それはイエス・キリストの復活によるのである。」(1ペテロ 3:21)

われわれは、次のような三つの例を挙げて、バプテスマの儀式の三つの段階的な目的を、はっきりと述べてきた。

(1) 神御自身により定められ、義の永遠の原則に関連する儀式である。すなわち、律法に一致する故に、人の救いに欠くことのできないものである。

(2) 入会の儀式——キリストの羊の群に会員を導き入れる門である。

(3) 古い人を、あらゆる弱さと汚れと共に埋葬し、新しい生活に入ることを表わす、美しくも荘厳な象徴である。

バプテスマの儀式は神の律法である。誠実、潔白、謙遜をもって、これに従うことにより、聖なる導き手である慰め主の約束された祝福が必然的にもたらされる。そして、「儀式を変え、律法を犯す」ものたちは、その慰め主を決して知ることができない。人々はバプテスマの儀式を、あざけり笑い、その効力を疑うかもしれないが、それは依然として変わらず簡素であって、最も美しい象徴の一つとして知られる。そればかりでなく、人の救いに役立つ最も大切な律法の一つなのである。そこでバプテスマを受ける時、他のあらゆる事柄におけると同様に、すべての人は、次のように言われたお方に従わなければならない。

「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであらう。」(ヨハネ 8:12)

人物評価

ロジャー・ウインシップ スチュアート



静かにすうっとエレベータのドアが開いた。ボブ・ブリッジスは片手で赤毛をかきあげて深呼吸をし、それから八階の廊下へゆっくりと歩き出した。

T・J・レイフィールド商会の二重ガラスのドアの前で大学四年生の彼は、一瞬立止まった。清潔なグレイのジャケットのボタンをかけた。それから前のように、神経質な興奮した態度で、クロムとガラスにかこまれた社長室に入った。

ところが、様子は以前と全く同じというわけではなかった。ほかに応募者が見当らないこの大きな応接室は違って見えた。この時ボブの目にうつったのはただ一人、友人ラリー・クラウンだけだった。

ラリーの黒い目が彼を見上げて言った。「おい、ボブ」「おはようラリー、素敵な日だね」

ラリーはため息をついた。「最後の勝負だね、幸運を祈るよ」

ボブは部屋を横切り、衝動的に握手の手を突き出して言った。「おはよう、素敵な日ですね」

ブロンドの髪をした、前と同じ美人秘書が同じように（同一人物なのだから当然なのかもしれないが）暖かく、親しい笑顔で彼らの所へあいさつにやって来た。ちがっていたのは彼女が次のように言ったことだった。「5分間限りですよ」

「べてん師め」とラリーがまぜっかえした。

「5分だって、レイフィールド社長が我々になった5分ずつしかくれないと言うのかい？」とボブは、息をきらしながら言った。

秘書はほほえみながら言った。「レイフィールド社長は今朝はばかに忙がしくて、スケジュールが一杯なのです」

ラリーは詰め寄って言った。「で、でも何かの間違いですよ、きっと。これが最後の面接のはずですよ」

「その通りですよ。ブリッジスさん、どうぞおかけになって下さい。「レイフィールド社長が少しの間あなた方とお会いになります。五分間で充分だとお考えになっていらっしゃるのです。」マーシュ嬢はこう弁解して、信じられないというふうにお互いを見つめ合っている二人を残して引き下った。

ボブは椅子にどっかと腰を下した。この途方もないT・J・レイフィールドなる人物は一体何者なのだろうかとは彼は思った。「彼は、主としてレイフィールド小型計算機を基盤として事業に成功した。おそらく、近い将来にこのオートメーション時代にまだ生産されていないなものかを完成するだろう。だから何だと言うのだ、もし彼が……」

ラリーの声がボブの考えを中断した。「彼はぼくたちのうちのどちらを採用するつもりだろうか。それともどちらも駄目なのだろうか。君はどう思う？ 彼は5分という少しの時間で自己宣伝ができてるのだろうか。」

ボブは頭をふった。「全くわけがわからない。」

「彼はなぜわざわざぼくたちを呼んだのだろうか？」

「全くだ、彼がそんなに時間に追われているのなら、この最後の面接なんかはぶけば良かったのと思わないかい？」

ラリーは口を開いたが、あわてて閉じた。マーシュ嬢がほほえみながら再びやって来たのだ。

「レイフィールド社長がこれからあなた方にお会いになります」彼女はボブを見て言った。「ブリッジスさん、最初あなたです」

この四角いあごの50歳（といっても40そこそこにはしか見えないが）になった頑健そうな実業家は、エネルギーと自信にあふれていた。彼は時間を無駄にしなかった。しかし、ここで行なわれたことは、普通の面接と共通した点が少しもなかった。それは9語か10語の独り言だった。

個室のドアを開けた時レイフィールド社長はすでに立っていて、「ボブ君、いらっしゃい」と手をさしのべながら、こっちへやって来た。彼の握手は人に安心感を与えるように強かった。「ここにかけなさい」

大きな人にしては驚くほどの素早さで身軽に動き、彼はどっしりした机の後ろの皮の椅子にかけた。彼の様子にはくつろいだところがなかった。彼はきちんと椅子にかけ、その鋭い目は人を刺し通すようだった。

「君も、ラリー・クラウンも全く大変な難関を突破して来ましたね」

ボブは苦笑した。

「いや大変だったでしょう。我々が新入社員を青年幹部のポストに迎えて養成するために青年を募集した時、49人の応募者がいました。最初に20人がまず除かれました。君とラリー君が、いくつかの面接や調査の壁をのり越えて来たことを私は喜んでますよ」

レイフィールド氏は机の上の紙に目をやりながら、休まずに続けた。「今では、君たち二人に選ばれました。最後の決定をしなければなりません。しかしその前に、これまでの中で最も難しいテストをやってもらわねばなりません。」

彼の好奇心を恨みながらボブは何も言わずに待った。「すぐ指示を出します」と将来の雇主は続けた。「もしも君が選ばれた一人となった場合、あの友人がそのことについてどう感じるかを君は知っておかねばなりません」

ボブはうなずいた。するとこの実業家は立上り、床を歩き始めた。

「言うまでもなく我々は新しい革命的な時代に生きています。時代は変わったのです。組織的方法は急激に改善されています。たとえば、我々が応募者全員を評価するにあたって、どんなに計算機を頼りにしているかを君が知れば、きっとびっくりするでしょう」



歩みを止めて、レイフィールド社長は3～4メートル先から言った。「しかし、すべてが変わったわけではありません。基本的な価値は残っています。残念ながら、最近、容赦ない企業間での裏切り行為や産業スパイについて多くのことを耳にします。これは企業間だけでなく他の部門でも同じことが言えるでしょう。しかしこのことは真実の姿の一面ではあるでしょうが、あくまで単なる一面にすぎないのです。」

彼は知性的な人間なのだとボブは思った。

彼はここにおもしろ半分に分を呼んだのでもなく、5分間演説をさせてそれを審査するために呼んだのでもない。一体どうしようと言うのだろうか。

大声でボブは言った。「私は何人かの実業家と話したことがあります。彼らは皆レイフィールド社長よりずっと皮肉屋でした。」

「皮肉屋？」とレイフィールド氏の目が輝いた。「きっとそうでしょう、ボブ君、私が話した人たちもそうだった」

彼は再び歩き出した。「どう思われようと、私は今も古風な誠実さとか、人間同志の信頼といったものを信じています。私は、ある人たちは信頼できる人たちだと確信しています。この世界には今なお、誠実さがあるのです。君が探し求めればそれは見つかります。誠実さというものが産業においても根本的な役目を果たしているからです。」

ボブは注意深く耳を傾けながらも、社長が貴重な5分を使い果たしてしまいそうだった。これから社長は何をしようというのだろうか。

「昔からの諺にもある正直は損にはならないという言葉は、ある人たちが考えているように時代おくれのものではないのです。私のこの会社はなぜいつも信頼に値する人間を探していると思いますか。それは我々が彼らを必要としているからです。新入社員は新しい方式で、すみやかに効果的に問題を解決する方法を教えることができます。しかし、人間の性格は別問題です。」この実業家はボブをさっと一べつして自分の椅子へ戻った。と同時に、話す内容も不意に変わった。

「さてボブ君、君の願書と君が受けたテストによって、我々は君自身についてかなりよくわかりました。そして君を採用することはわが社の利益になるということもわかりました。ラリー・クラウソンについてももちろん同じことが言えます。ここで君にまったく別の問題に取り組んでもらいたいと思います。ラリーの人物評価をやって下さい。」

「ラリーののですって？」とボブは驚いて聞き返した。

「そうです。しかし、性格的短所の評価でなければなりません。君のライバルがT. J. レイフィールド商会の新入社員にふさわしくないという点に限定してその理由をあげて下さい。」

ボブはがっくりとあごを落した。そして社長をにらんで言

った。「ちょっと待って下さい。あなたはぼくに……」

「辛い指示であることは私にもわかっています。しかしこれが一方的な指示だと思わないで下さい。間もなくラリーをここに呼んで、君に関して同様の指示を彼にも与えます。」

ボブは頭を横に振ったが、この年上の紳士は手をあげて続けた。「君たち二人は長年の親友だからお互いの欠点や弱点を知っていますね。それらについて書いて下さい。我々が君に教えてもらう必要があるからだけではなく、君の違った面や、人の素質を判断する君の能力を知るためでもあるのです」

ボブはますますむずかしい顔つきになった。

「質問してもいいですか？」

「いや、残念ながら、もう時間です」実業家は立上り「別の部屋へ案内しましょう。そこで書いて下さい。時間は15分です。早く書き終っても、私が紙を取りに行くまで、そこで待っていて下さい。」

案内された小さな部屋の中で、ボブは最初の2分間はぶつぶつ独り言を言いながら床の上を歩きまわった。これが最終的決定をなす時のあの有名な「除草」方式なのか、こんなやり方は大嫌いだ。T. J. レイフィールド社長はさっき、古風な誠実と信頼について演説をぶったばかりなのに。

窓の前に立止まると、街のはるか彼方にいくつかの大学の建物が見えた。アルムニ教会の高い尖塔が丘の上にあった。その下に白い柱石に支えられたケニオン・ホール正面がはっきりと見えた。そして木立の間から経営学部の建物が見えていた。

経営学部のことを考えるとデルビー教授が心に浮かんだ。

ボブはデルビー教授の房々した灰色の髪やその他のすべてを思い出した。この老練な教授は教授会のほかの人たちよりも優れていた。決して他人を敬遠せず、忙しい中であって、仲間同志の泣きごとを聞いたり、大学や個人の問題に解決の手をさしのべていた。彼は相談相手であり、案内者であり、友人であった。

教授にこのことを言ってみたらどうだろう。T. J. レイフィールドに対する評価を教授は改めなくてはならなくなるだろう。

デルビー教授は、ボブとラリーにこの会社を受けることをすすめたうちの一人だった。教授は彼らの名前を卒業予定者として覚えているだけではなく、レイフィールド商会が卒業後の就職口として、仲間と競争して受けてみる価値のあるものだとして教えてくれた。

「人生の好機」と教授は呼んだ。そして、ベテランの教授は二人の面接を彼らよりも熱心に関心をもって見守っていた。二人にとって都合のいいことに、教授はどちらをもえこひいきしていなかったで、二人のうちのどちらでも、デルビー門下生から最後の勝利者が出てほしいと願っていた。

ボブはため息をついて窓から離れ、机の方へ歩いていった。机の上には、何枚かの紙と先のとがった二本の黄色い鉛筆のほかは何もなかった。ボブは椅子にかけて自分のボールペンを取り出し、しかめつらをして、いたずら書きを始めた。

ここで負けるなんておいしいことだ。とボブは独り言を言った。今までぼくは、自分がどんなに勝ちたいと思っているかに気がつかずにいたのだ。抽選で負けるというのならいくらか慰めもあるだろうに。ぼくの古い良い友だち、ラリー、就職のために二人が引き離されてしまうことになったら、どんなに彼は打ちひしがれることだろう！

ボブはいちめんにいたずら書きした紙を引き裂き、しわくちゃに丸めくずかごへ投げ込んだ。

とうとう彼は本気になって書き始めた。

ブロンドの美人秘書がいつもの微笑を浮べてボブが書いた人物評価の紙を取りに来た。そして彼は再び広々とした応接室に案内された。ほとんど同時にラリー・クラウソンが入って来た。どちらも言葉を交さなかったが彼らの目が一瞬あった。それからラリーは部屋を横切って、皮の長椅子にすわっているライバルであるボブの横に来てすわった。

一方では、大きなデスクでレイフィールド社長が人物評価を読むのに熱中しているようだった。ボブは社長がなぜ二人を呼んだのかと不思議に思った。なぜ彼は、選ばれた者にそのことを通告し、他の一人をひそかに帰らせなかったのだろうか。

社長は目を上げて表情を変えずに言った。

「あなた方が書いたものを声を出して読んだ方がいいと思います。短かい方から読みましょう」

ボブは不安そうに身動きした。そして、彼がさっき書いたばかりの言葉が読みあげられるのを聞いて、ほおがさっと赤くなった。

「私はラリー・クラウソンの性格的短所を批評するようには言われた。私は彼が好きだ。彼は、T. J. レイフィールド商会の新入社員の候補者である。もしこれが、ラリーの長所をのべるようにとの要求であったなら、喜んで従うことができるのだが。というのも、長いつき合いを通して、彼の美点や才能をよく知っており、彼の性格が素晴らしいものであることを知っているからである。

我々は同じ仕事を争うことになってしまったが、ラリーと私の間柄は単なる知合いというのではなく、親友なのである。彼の友人として、ラリーの否定的な面を探しあげること

はとてもできるものではない。与えられた指示通りにやらなかったことで、私の就職の機会はほど遠くなってしまったことであろう。このことを私は心から残念に思う。しかし私の勝利がもし、ほんのわずかでも友人を傷つけることによって獲得されたものであるとするなら、後悔の念ははるかに大きいものとなるだろう。」

机の上にその紙を置いて、レイフィールド社長はあっさりと批評した。「以上です。従順なるロバート・ブリッジスとサインしてあります」

部屋はしーんとした。社長は二番目の紙を取り上げて言った。「では、もう一つを読みましょう。注意すべきことは……いや、聞けば自分でわかるでしょう。」

再び彼は声に出して読んだ。ラリー・クラウソンの提出物の注意すべきこととは何であるかがすぐわかった。異った言いまわしをしていたとは言え、それはボブが書いたものをまるで写したようにそっくりだった。

二人は共に社長の指示を拒絶したのだった。その理由は二人共同だった。そして彼らは、社長も読んだように、競争相手の性格の短所を書かないということで資格を失うものと考えていた。

「我々が君たち二人をずっと別々にしておいたことを知らない人は、君たちがこれを一緒に書いたと思うに違いない。」とレイフィールド社長は微笑を浮べて言った。

「一つの観点から言えば…」と社長は考え深げに続けた。

「君たちは二人とも間違っておく測をしています。つまり他方をこきおろすことをしなかったで、自分は不合格になると思い込んでいることです。実際の所、組織のある所には誠実だと思われる者はいないし、自分のせっぱつまった時に友人を助けるような信頼できる人間はないという意見を私は固持していました。」

ゆっくりと息をついで実業家は椅子から立ち上った。「君たちが、競争相手という立場にある友人を裏切ることを拒んだということで、私は君たち二人をわが社の新入社員として喜んで迎えようと決心しました。」

それから、入社を許された二人が立去る時になってレイフィールド社長は、ひとこと言った。「もし君たち二人が、デルビー教授がいつも口にしておられる言葉、『友人とは何かと問われた時ジノは答えた、『もう一人の私だ』』という言葉で文を結んだとしても私はびっくりしなかったことでしよう」

ボブとラリーは驚いて顔をみあわせた。ボブが言った「社長がそれを御存知だとはい少しもしりませんでした」

中年のその実業家は笑いながら言った、「ところが知っていて当然なんです。そう、昔、私もデルビー門下生の一人だったのです。」



おとな——学すべき人々

ハロルド グレン クラーク

今年、世界中で数百万というおとなが、何かを学ぶために、学校へ入ることであろう。学校へ再び戻る人々は、みな我々の関心と呼ぶ人たちである。無知を克服して、人生の砂漠に花を咲かせようとの強い望みに動かされて決意する人も多いに違いない。また眼前に開かれた世界に驚異の目をみはり、知りたいと切に思って学び始める人もいるであろう。

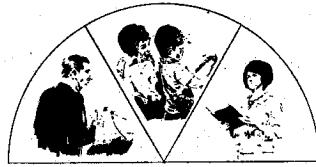
学生としての彼らは、共通にこれらのものを持っている。まず第一に、すぐに知りたいという知識欲、あるいはすぐに解決したいという人生の問題。二番目に、自ら進んで学窓へ戻ろうという気持。三番目に、学んだ時によみがえってくる数々のおとなとしての経験。

彼らは学ぶ人である。卒業証書を目的に学ぼうという人々ではない。彼らは、成績とか賞にこだわらず、発見や、学問、教育を受けることに大きな喜びを持って勉強をする。

生涯にわたって学ぼうというなみなみなならぬ意欲は、知識

が世にあふれていることにもいくぶん影響されている。専門的な知識は急速に豊富に世に流れ出ているため、人が同じ所にとどまっていながら新鮮な知識を有することは困難になっている。立派な理論の数多くが、テキストに載る以前に消え去ってしまい、良い計画の多くが製図板の上にあるうちに時代遅れになる。ハイマン G. リックオーバー将軍がそのことを言っている。「文明はすでに、心そのもののの中に新しい未開の地があるというところまで来てしまった。人は、昔荒地を征服したように、知識を征服せねばならない」このことは、おとなになっても学ぶ末日聖徒にとって、どういうことを意味しているのだろうか。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、予言者であり、指導者であるジョセフ・スミスに表わされている、発見と冒険の態度を受けつぐものである。教会の初期に、主は彼とその友人たちに、「互いにこの王国の教義を教えよ」と仰せになった。主は、教会員が率先して学び、「互いに教える」こと



を望まれたのである。教会員が熱心に教えあうならば、恵みが伴うという主の御言葉を聞いた時、年若い予言者は胸おどったに違いない。祈りと断食の精神で彼らが教えたことは、「神の王国につけるすべてのこと」であった。地質学、歴史、音楽、言語、民、文化および「諸国民の葛藤」も、神の王国に関することであった。（教義と聖約88：77～80）

予言者の塾やその他で、聖徒たちは最もよき書より、信仰と研究によって知恵を得た。それらの経験は、学ぶに際して大きな勇気を必要とした。なぜならば、イエス・キリストの福音そのものの中に、それ以前は単に言葉だけに過ぎなかったものを明らかにする思想や概念が含まれていたからである。

生命や光の源として、言語や感情や人やものを明らかにし生気を与える数々の思想を発見し学ぶことは、勇気を必要とする。思想は真理や光となり得る。思想が光であり真理であるならば、それは神の栄光たる英知である。 そうだとすれば、ジョセフ・スミスが真実の学問を、偉大な冒険、人生で主として追求すべきものと考えていたことに何ら不思議はない。

教会員がまず初めに興味をもって発見するのは、この世界に善と悪の知識があるということである。そのことによって、何が善で何が悪であるか、という思想を応用してゆく人生がひらける。

最も良き書とは何であろうか。世界には偽りと真理とが存在しているが、人を葬る知識は何で、どこにあるのであろうか、またどれがそうであろうか。そして人を救う知識は何でどこにあり、どれなのであろうか。どうしたら、「知るだけで、真理の知識にならない、ものを避けることができるのであろう。」

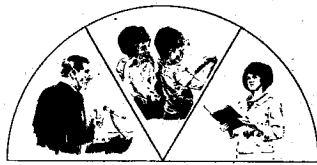
デビッド O. マッケイ大管長は、「人類の不幸の多くは、誤った価値判断によって、もたらされる」と言った。学問は価値あるものを求めることである。無益なものしか生みださない思想を判別できる偉大な真実を発見する時、それを学ぶ人の喜びと感激はいかばかりであろう。偉大な真理を知ったその人は、価値ある目標を設定できる。真理をしっかりと握った彼は、ロバート フロストの言った言葉の意味をより明確に理解できる。「人生にあって変化だと考えるもののほと

んどは、好むと好まざるとにかかわらず恩恵を受けて真理に影響され変わるものである」。彼は学問を、人生における偉大な思想とは何であり、それをどう考えるかを決定するための方法だと見ている。数々の思想が並ぶ市場で、学問する人が悪から善を選んでそれらを決定するのである。一人一人が何を選ぶかはわからない。それは、人と環境の創造者が計画されたことである。それでなくては、人は試されない。学問上の大きな冒険をするところに、人格が形造られるのである。

学問における第二の冒険は、ジョセフ・スミスの述べた教えに示されている。「われらのこの世に於て達する（研究と応用によって自分のものとする）英知の一切は、何にてもよみがえりの時われらと共によみがえるべし。」（教義と聖約130：18）。まことの学問は決して無益ではない。

主はさらにこの教えについて、熱心な研究と従順によってこの世で他の人より多くの知識と英知とを得る人は、来たるべき世においてもそれだけの利を得ると言っておられる。すなわち、基礎となる知識を得て、それを生活に应用する人は、知識も英知も得ない人よりも、豊かな喜びとしあわせと能力を、来たるべき世で受けるのである。

予言者は、「人は無智にして救われること不可能なり」と言った。（教義と聖約131：6）最大の無智とは、きのうもきょうも変わらず真理である救いの原則を知らないことである。いったん身についた英知の原則は、永遠にその人と共にある。自由、信仰、バプテスマ、従順、犠牲、義務、権威、忍耐、結婚、誓約、キリストの贖罪、ゆるし、創造、愛、そして神、これらの知識を知ってそれに従う人は、永遠に続く力の原則を備えた人である。それらを応用するまわりの状況は、変っても、原則そのものは決して変ることなく、永遠に、隠されたもの、知られざる事柄の扉を開いてくれる。原則は常にそれを持つ者に应用することをうながし、結びつけ、再編成し、組立てなおすことをうながすので、そこに含まれるすべてのものは永遠に新しく興味深い事柄である。神について学び、神を愛してそのいましめを守る人々のために、神が備えられたものを、見た目はいまだなく、聞いた耳はいまだないと神の御子が言われたことは不思議ではない。



このことは、原則を学ぶだけでは不充分であることを教えている。原則は、永遠に変わりゆく環境に対して、永遠に応用し続けなくてはならない。ある作家が、「正しい道にいるだけでは充分でない。そこに座っているだけならば、車にひかれてしまう」と言った。偉大な原則を、進歩しつつ新しい環境に応用して行く時に、学問の冒険は決して終ることがない。彼は常に言葉に言葉を重ね、思想に思想を積みあげ、ここで少し、あそこで少しと学んで行く。一人一人が、知識を知恵と理解に転じて増すという冒険に現在と永遠を費すならば、愚かな末日聖徒は一人もいないはずである。

謙遜な信仰ある末日聖徒にとって、素晴らしいことは、学ぶ資料が限りなく備えられていることであろう。事実研究し探求する自分の能力が限られる時には決して知ることのできない、大切な事柄がある。人は永遠の父なる神と、御子イエス・キリストを信じる信仰を加えなくてはならない。信仰は学問の形をとっている。その方法は、主御自身によって教えられ、力ある教師、神会を構成する聖霊によって働く。モロナイは、「そして聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかがあなたたちに解る」と言った。(モロナイ10:5) 聖なる教師の力は、信仰と良き業と、権威ある者の按手礼を通してやってくる。聖霊は全教会員の変らぬ伴侶、教師となれるのである。学ぶ人が聖霊を指図するのではない。謙遜を通して人が聖霊に導かれるのである。

学ぶ過程にあって、人は聖霊によって、自分の努力の位置と聖霊の占めたもう位置とを知ることができる。それは学問の冒険のうちで最たるものであって、最高の動機を成すものである。学問する末日聖徒は、聖霊によってこのような調和を保つ。

「科学だけに従う者は、越えて見ることのできない壁に突きあたる。なぜ我々が存在し、この世での使命は何であるかを学者の権威をもって、完全に物語ってくれる人がいるならば、その人は、大勢の人間がますます自分だけに頼って考えるようになっていく世界に、納得できるようにそのことを語る義務がある。力あるものとするためには、勧告を変えなくてはならない。今はもはや、三世紀の昔ではないからであ

る。そうして、信仰というものの核心に触れる時、科学は沈黙せねばならない。

しかし科学のその沈黙は、蔑視の沈黙ではなく、謙遜の沈黙である。信念は事実より大いなるものであろう。明確に過ぎる信仰は、おそらく大いなる人生の時に対して、不十分さを露呈する信仰である。次代について深く考える若人は、科学に頼らねばならぬ。なぜならば、科学は多くを教え、望ませるからである。しかし、科学が適用されないところには、頼ってはならない」(バンネーバー プッシュ博士、「科学は躊躇する」フォーチュン誌1965年5月号)

聖霊は、学問の冒険をする時に、指示と目的と調和を与える。世界中にわたって教えられている学問の多くが、神への信仰といわゆる人生の真実が、人間の自由な精神をはばみ沈滞させるかのような印象を与えている。議論や予測は良い道具である。しかし、学ぶ人々にはよく「マヒした分析」の害を被るのである。そして、不確かで捕捉しがたい事柄を、あたかも信頼に足るアプローチのようにして、学問の大いなる冒険への足がかりであると教えられることも多い。

しかし、人間のかかげるかばそいランプでは照らすことのできないところを、教え、知らせ、照らし、確認する聖霊の「みたま」は、なんと報いの大きいことであろうか。聖霊の力と結びついた努力によって偉大な学問の冒険を為す時どのような学者や政治家や詩人や予言者が生まれることであろうか。

主は、「世の始めより今日に至るまで」啓示されたことのない知識を、聖霊のたまものによって、教会員に教えると、ジョセフ・スミスに約束したもうた。そして主はさらに、人は「神の命じたまえる水路を流るるミズーリの流を止め……全能の神が末日聖徒の頭上にいと高き所より知識を注ぎたまうを止むる」こともできようと言われた。(教義と聖約121:26, 33)

真に学問を求める末日聖徒の行く手には、学問の大いなる冒険が待ちうけているのである。

管理監督

ジョン H. バンデンバーグ

什分の一について

「地と、それに満ちるもの、世界と、その中に住む者とは主のものである」(詩篇24:1) 私達が所有しているもの、または、そう願うものはすべて神からの祝福として私達に与えられている。モルモン経で、ベンジャミン王はこの大切なことを教えている。「ごらん、私たちはみな物もらいではないか。みな神と言う同じお方に依り頼んで、食も衣も金銀もあらゆる宝も一切の持物を受けているではないか」(モーサヤ 4:19) この地上の借地人としての私達に、神は私達の利益の1割を要求されている。これが什分の一である。

什分の一は古い時代の律法であった。アブラハムが、サレムの王メルケゼデクに会った時のことであるが、「彼(メルケゼデク)はアブラハムを祝福して言った、『願わくは天地の主なるいと高き神が、アブラハムを祝福されるように。願わくはあなたの敵をあなたの手に渡されたいと高き神があがめられるように』。アブラハムは彼にすべての物の什分の一を贈った」(創世記14:19-20)。

アブラハムが父の家を出て、母の家族から妻をめとるためにハランへ向かった時、あるところで夜を過ごし、主と契約

を交わした。「ヤコブは誓いを立てて言った、『神がわたしと共にいまし、わたしの行くこの道でわたしを守り、食べるパンと着る着物を賜い、安らかに父の家に帰らせてくださるなら、主をわたしの神といたしましょう。またわたしが柱に立てたこの石を神の家といたしましょう。そしてあなたがくださるすべての物の什分の一を、わたしは必ずあなたにささげます。』」(創世記 28:20-22)

マラキ書の中にこの律法の本質がつかめるような質問と、偉大な約束が記されている。「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。什分の一と、ささげ物をもってである。あなたがたは、のろいをもって、のろわれる。あなたがたすべての国民は、わたしの物を盗んでいるからである。わたしの宮に食物のあるように、什分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は云われる」(マラキ 3:8-10)

今日も昔と同じように主は民に什分の一の律法を与えられた。ジョセフ F. スミス大管長は言った、「什分の一の律法は、それによって人々が自分を立証できる試みである。この原則を守らない人は、誰であっても、シオンの繁栄には無関係な人として知られるのである。同様に、教会員としての義務を守らなかった人、また、この世にある神の王国の発展のために何ら力をつくさなかった人として知られるようになるのである。このような人は、地上の人々に福音を広めることに何ら手助けをしないばかりか、福音の祝福と儀式を受ける資格を得ることを何もしていないことになるのである」

(福音の教義 P. 226 英文)

什分の一の律法は祝福として与えられている。この律法は教会の会員が利己的にならないように、また、従順さを身につけるために役立っているし、何よりもそれは、この地上に神の王国を建設するための実際的な方法である。自由な意志による献金を通じて、私達は他人の福祉にもっと貢献できるし、神への忠誠を再び確認することになる。什分の一の原則は、まことに私達の信仰の尺度である。私達が人間にとって高価な物と思われがちな物を自由な意志で捧げるには、信仰を必要とする。あらゆる男女は、もし人生で成功をおさめ、喜びを見出したいと思うなら、ぜひ什分の一の律法の教えるところに耳を傾けなければならない。

什分の一は、教会の予言者、大管長の靈感のもとに必要なところへと分配される。教会堂の建築にも、この什分の一の

財源から一部支払われる。この財源は、教会の学校、神殿、セミナーの維持のために、貧困者を助けるために、その他宣教活動のためにつかわれている。

全教会員は、一年に一度督監と会って、自分の什分の一の記録を確認する権利があるし、それはまた義務でもある。このことは、その人が什分の一を完全に支払っているかどうかのべる機会になる。主は、私達がいろいろないましめに忠実であれば、祝福を受けると言われている、什分の一の支払いに忠実で正直な人々に対しては、主は祝福を約束されている。

古代のイスラエルで大飢きんがあった時、ひとりのやもめがザレパテの町の門でたきぎを拾っていた。予言者エリヤはその時ちょうど町に着き、やもめに声をかけて言った、「器に水を少し持ってきて、わたしに飲ませてください。……手に一口のパンを持ってきてください」

やもめは、たぶん、このような願いを聞いてびっくりしたことであろう。彼女はエリヤに説明した、「ただ、かめに一握りの粉と、びんに少しの油があるだけです。今わたしはたきぎ二、三本を拾い、うちへ帰って、わたしと子供のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです」

エリヤは、やもめが持っている物を分け与えてくれたら、彼女は祝福されると約束をした。彼女はエリヤが言った通りにしたので彼女とその家は祝福された。このことから、次のことが明らかである。すなわち、このやもめは主を愛しており、予言者の示した通り自分の義務に忠実であろうとした。たとえそれが自分の持てる物すべてを捧げることになっても。

もし私達が同じような状況におかれたら、一体どのように反応するであろうか。自分の持っている最後のほんの一かけらの食物を予言者に差し出すであろうか。この女の人とはまさしくその通りにした。そしてその忠実さの結果として主は彼女を祝福された。その時以来、飢きんが終るまで、かめの粉はつきることがなかった。なぜなら、「彼女は行ってエリヤが言った通りにした……」(列王紀上 17:15) からである。

1831年9月11日、オハイオ州カートランドで主は予言者ジョセフ・スミスに啓示したもうた。

「見よ、人の子の来るまで今より後を『今日』と称えられる。誠に『今日』は犠牲の日、わが民の『什分の一』を捧ぐる日なり。この『什分の一』を納めたる者は人の子の来る時火に焼かるることなし」(教義と聖約 64:23)

私は若い男女諸君が教義と聖約の119章をよく読むことをお勧めする。そこには什分の一を支払う際の私達の義務、すなわち神に対する私達の愛の霊的な試みが述べられている。



第二次世界大戦に

耐えぬいた英国伝道部

アンドレ K. アナスタシオン



1 937年7月にヒーバー J. グラント大管長は、ほかの教会の役員たちと共に、ランカシャーのロホデールで開かれた英国伝道百年記念大会に出席し、その席上で「シオンの全宣教師は、英国諸島より立去るであろう」との予言的声明を発表した。

1939年9月3日、大英帝国はナチ・ドイツに対して宣戦布告をした。英国と米国政府間の共同条約により、戦争に直接関与しない全アメリカ合衆国民は、英国諸島から立去らねばならなかった。これは、我々アメリカ人宣教師全員にも影響を与えた。

1939年の末までに約130人の宣教師が英国の地を離れた。伝道開始以来102年たって初めて、英国伝道部はシオンから、ただ一人の宣教師も送られなくなった。そして、グラント大管長の予言は二年半の中に文字通り成就したのである。

伝道部長を退いたヒュー B. ブラウン長老は、米国へ帰るに先立ち、私と二人の副伝道部長ジェームス P. ヒルとジェームス R. カニングhamに英国伝道部を管理する責任を与えた。我々の任命は、大管長会からの海外電報によって、正式に承認された。私は伝道部のために全時間を捧げて働いていた。

第二次世界大戦の戦火は間もなく我々を激しく襲った。重要な攻撃目標となっているロンドンは日夜爆撃を受け、膨大な財産や生命が失われた。しかし我々は聖徒たちと共に残り、主は我々に祝福を与えたもうた。

我々の伝道部には、実に多くの問題があった。我々は68の支部に対して非専任宣教師を出すよう協力を求めた。そして最初の年の暮までに、17才から75才までの約400人の非専任宣教師が生まれた。彼らは一週間に平均五時間、支部の仕事を助け、また福音を宣べ伝えるために捧げた。

その上、12人の英国人の専任宣教師も召された。彼らは二人一組になって、各支部に約四週間滞在し、日曜日ごとに福音の教義を説き、それから他支部へと移動した。このようにして、我々は伝道部の全支部を管理することができたのである。

しかし、戦争が行なわれている間、専任宣教師の数は全く不足していた。グラスゴーで開催されたスコットランド地方部大会の最後の会において、宣教師の問題が述べられている時、私は中年過ぎのご夫婦とその娘さんが一緒に、私の前列の右の方に坐っているのに気がついた。その娘さんはその時話されていることを、指話法を用いて両親に伝えていた。

最後の会も終わった時、この若いイザベラ・マクドナルド嬢は、少しためらいがちに私に近づき、そして言った。「伝道部長さん、両親は私を喜んで伝道に出したいと思っていますのですが、私たちには経済的な力がないのです」

「マクドナルド姉妹、私が両親のお気持ちと、あなたの宣教師になりたいという信仰を喜んでい、と、ご両親に伝えて下さい。

主はあなたの進むべき道を開いて下さるでしょう。日曜日の夕方にはロンドンに帰り、火曜日にあなたに手紙を書きましょう。」と私は答えた。

火曜日の朝私は机に向い、私が目を通すのを待っているおびただしい数の手紙を開封し始めた。そのうちの一通を開いた時、こう書いてあった。「親愛なる伝道部長、私は一人の宣教師を六ヶ月間援助したいと思います。最初の一ヶ月分の小切手を同封します。」この手紙は支部の会員で、フランスのどこかに配置された英国陸軍の将校からのものであった。私は直ちに一通の手紙を書き、その小切手と共にマクドナルド姉妹へ送った。そして彼女は、やがて、立派に伝道を行なったのである。

私は旅行のビザを受取ってから、地方部を訪問するためにアイルランドへ行った。ベルファストについた朝は、市は、激しい敵軍の空襲の後でまだけぼついていた。家や店は全部破

壊されていた。この市の住民たちは痛手を受けていた。私はその一週間をすべて会員を訪問することに費した。

安息日に我々は、ベルファストで年次地方部大会を開催した。午後になって我々は、労働会館の最上階で会を開いた。約40人程の小さな集会ではあったが、このような恐怖にみちた空襲の後で、これまで以上に団結していた。専任宣教師の責任と必要性が再び我々の問題となり、私は立上って右の方を見ると、聖徒たちの間にジョアン・タグガート姉妹がいた。

「タグガート姉妹、あなたに伝道をしていただきたいと思っているのですが、あなたは喜んで主のために六ヶ月間奉仕したいと思いますか？」

彼女は立上った。「伝道部長、私は喜んで伝道したいと思います。でも、私には自分の生活を支える経済力がないのです。私の母は未亡人です、私のただ一人の弟は英国海軍に入っています。彼のお給料はとても少ないので、母も私も働かなければなりません。」

「タグガート姉妹、あなたのお答えを聞いて、嬉しく思います。私はお金については心配しません。主が道をそなえて下さって、あなたの伝道に必要なお金が与えられることを約束したいと思います。」

「私は喜んで伝道に出ます。」

それから私は左の方を見て言った。「バナティン姉妹、あなたに短期間の伝道をしていただきたいのですが、この戦争中、教会の仕事を助けるために喜んで働いて下さいますか？」

「はい。喜んで。でも伝道部長さんもお存知のように、家にいる私たち5人の娘と弟は、未亡人の母親と私たち自身の生活を支えるために働かねばならないのです。」

「主があなたに祝福と助けを与えて下さり、その道を開いて下さるでしょう。」

閉会の讃美歌を歌っている時に私の心に一つの疑問が浮んだ。どこからそのお金が来るのだろうか？

讃美歌を歌い、閉会の祈りが終わった時、ダブリン支部の一会員が私の所にやって来た。

「伝道部長さん、六ヶ月間私がタグガート姉妹の御世話ができれば幸いです。」彼女が小切手を書いている時に、テーブルの傍に立っていた一人の兄弟が言った。「バナティン姉妹の伝道が実現するように、私が援助しましょう。」

最後の集会是別の会館で開かれ、もっと多くの参加者があった。会が終って一人のアメリカ陸軍の将校が私に言った。「伝道部長、主のみたまをこんなに強く感じたのは、久しぶりです。私にも一人、宣教師の援助をさせていただけないでしょうか？」彼の援助は喜んで受け入れられ、もう一人の宣教師が召された。

英国伝道部の財政上の責任を一任された私に、「もうこれ以上、お金は入らないかもしれないから、慎重に使うように」という忠告と共に、米国へ引揚げるブラウン伝道部長は総額200ポンド(800ドル)程のお金を残して行った。月間報

告によると、什分の一と断食献金の収入が、いくつかの支部から請求される額よりも少ない場合がしばしばあった。そこで私は、どうやって借金を払うかがいつも気がかりであった。什分の一の律法と、断食献金を、より強い信仰をもって忠実に守るように、全会員たちを励ましてほしいと、各支部の支部長に書き送った手紙も効果がなかった。そして、私は、できる限り節約したとしても、伝道部の資金が長くは持ちこたえられないことを思って心配した。私に与えられたブラウン長老の忠告が、心の中に重く残っていて、教会本部に経済的な援助を求める手紙を書きたくはなかった。いくつかの支部を閉鎖するという事は、想像もできなかった。

「何か別の方法があるに違いない。経済的な問題をすべて解決するような何かよい方法があるに違いない」と私は考えた。その時、私は主の御言葉を思い出した。「求めよさらば与えられ、たたけよ、さらば開かれん」

何度も何度も私は主に祈り、知恵を求めた。ある日の断食の後、私は妻に心配事がたくさんあるので、次の日も断食をするつもりだと話した。妻はとても心配そうに私を見つめて言った。「明日は食事をして、その次の日に断食をした方がいいですよ」私は妻の忠告に従い、それから1日おきに通算35日間の断食を続けた。私はこれを、ほかの理由ではなく、ただ我々伝道部の経済状態を解決するために主の導きを求めて、心からの謙遜さをもってなした。

断食と祈りの日々が終わった後、私はこの35日間にお金のことについては、什分の一に関しても断食献金に関しても全く何ら靈感を受けなかった、と二人の副伝道部長に話した。ただ、この間に現われ、今もなお引き続いている強い印象といえば、聖餐会に関するものであり、この回復された福音の聖なる儀式の中に、我々の経済問題に対する答えと解決があるという証を得たのであった。

年次地方部大会の前に、我々は朝早く、聖餐会と証会を行なった。そして私は再び同じ靈感と証を持った。パンと水が祝福され、各会員に配られた後、私は、何のために我々が聖餐にあづかったかを考えていた。我々は天父なる神に、パンと水を祝福して下さるように願い、そして我々が御子のみ名をわが身に受け、つねに御子を忘れず、また我々に与えられた戒めを守り続けるということを、順次神に誓約したのであった。それから私は我々がなした誓約を賢明に良心的に果たしているかどうか、また、方法通りに我々は聖餐会にあずかっているかどうかと考えた。我々は、この答えは各個人の心の中にのみ、あることを悟った。聖典の言葉によって、聖餐は受ける資格のない者が受けた場合には呪われるということ、また、我々が常に主と交わした誓約に対して、また神聖な義務に対して忠実であるように、そして我々の働きと行ないが主の前に正しい信仰を証明するものであるように、聖餐会においては、静かに頭をたれ、我々の行動と精神を自身の心に問うべきであることに気づいた。このようにして、我々は主の祝福を受ける事ができるのである。

「我々はだれ一人として偽りの証をのべたいとは思はないでしょう。」

私の考えでは故意に、あるいは不注意からか主への什分の一のお返しを怠ったり、知恵の言葉や、安息日の精神を無視することは、我々が偽りの証を立てることになると思います。聖餐式に与り神に従うと証した人が主の戒めを無視することはできません。」と私は話した。

それからは私はみたまに導かれて次の約束をした。「あなた方は、什分の一と献金により、主の再降臨の時にシオンを受けつぐ者として、あなた方は百倍にも増して報われるでしょう。」

私の訴えから得た感動が大きかったので、会員の何人かは聖餐に与るのを、少しの間やめていた程だった。彼らは理解したのだ。しかし間もなく、ほとんどの会員が、再び聖餐に与るようになったのを知って、我々は喜んだ。支部長たちには、まだ聖餐を差控えている会員たちにはその理由を聞かずに、彼らに愛と親切を示し、そしてたびたび彼らを訪問するように、との忠告がなされた。聖餐を祝福するように召された者たちは特に、はっきりした声で、一語一語を明確にしかも敬けんに聖餐の祈りをするように強調された。なぜなら、聖餐の祈りは各個人の証ともいうべきものであり、また全教会員と神との間に立てられた誓約でもあるからである。

英国の聖徒たちは、私の訴えを素直に心に受け入れ、信仰を持ち続け、努力を続けたことは明らかであった。月間報告の収入は最も勇気づけられるものであり、私が教会本部に、経済援助を求める手紙を書く必要はなくなったのである。

それは、ブラウン副管長が再び英国に帰ることができ、英国伝道部の責任を再び受ける四年半ほど前の事であった。その時までには、英国伝道部には、地元の神権指導者の下に78の支部と、14の地方部があった。第二次世界大戦中、500人以上の地方部宣教師が働いた。加えて105人の英国人の専任宣教師が立派な奉仕をなした。ある者は6ヶ月間、労力と金銭の奉仕をなし、またある者は1年間、長い人は2年間、そしてある長老は3年半の奉仕をした。宣教師と会員たちによって、すばらしい祝福と、信仰を育てた体験について証がのべられた。

英国伝道部は、戦争のさ中に繁栄し発展した。戦前の記録とほとんど同数のバプテスマがあった。そして最後に、伝道部の記録がブラウン長老に手渡された時、伝道部には80,000ドルもの剰余資金があった。そして英国にも神殿を建てたいという願いが、その当時(1944年)ささやかにあった。(14年後サリー州に神殿が建立され、1958年9月7日デビッド・O・マッケイ大管長によって献堂されたのである。)

我々は主に助けを求めた。そして我々は、伝道部の、そして個人の多くの問題を、主の戒めに従うことによって、いかに解決すべきか、また第二次世界大戦のきびしさを断って、信仰の中にいかに生くべきかについて英知、すなわち真理の光を受けたのであった。

改めたい母親の習慣

フローレンス ピノック



一 の世界にはだれ一人として完全な人はいません。そこで日々私たちに与えられるチャレンジは、現在の私たちよりも、もっと良い者になることを目指して努力することです。母親の仕事は絶え間のないものです。すべての事をなすに当って、その中に私たち一人一人が進歩する方法があります。次の記事は「母親」と呼ばれているすべての女性のために書かれたものです。

1. 母親は自分が本来一人の人間、それも特別な人間であることを忘れているではありませんか？

母親は、毎日の生活と家族の世話に奮闘して自分自身を完全に忘れていることがしばしばあります。母親は本当に理解され、身近に感じられ、重んじられてはいません。母親とはあんなものだというただの習慣的な存在にみられています。いつも変わらず、進んで奉仕していることが母親を地味な存在にしています。生活と奉仕は相互的なものです。母親は、家族の者が母親のために働く特権を取り上げてはなりません。自分自身を尊重すれば、人から、もっと尊重されるようになります。そして母親は、本来の特別な人間となるために、自尊心を持ち、それを持ち続けるだけの時間を作る必要があります。

2. 自分が妻であるということを忘れてはいませんか？

女性の中には、最初の子供が生れると妻であることを忘れてしまう人がいます。それから母親は完全に母性本能のとりことなります。そして夫は、少しでも自分の方に注意を向けさせるつもりでも彼女が母親になったのだからと納得しなければなりません。妻が夫にこんな気持を抱かせるとしたら、この妻は大きな過ちを犯しています。なぜなら、夫にとって妻であり、愛する者であるということは、人生における最大の特権の一つだからです。

夫というものは、子供が母親を必要としているのと同じように、妻を必要としているのです。そして女性は両者にとってよき存在となることができるのです。

3. エプロンのひもをきつく結び過ぎてはいませんか？

固い結び目を作っている母親がいます。そういう母親の子供たちの生活は、本当に子供らしいものではなく、母親の生活の延長に過ぎないものになっています。母親の仕事は、子供を押えつけることではなく、母として世話をすることにあるのです。

4. 子供と共に生活しているのではなく、子供のために生活してはいませんか？

両親は自分の息子や娘を所有しているわけではありません。この子供たちは、天父なる神からごく短い期間貸し与えられているのです。自分の子供たちを成長させるのは、母親の特権であり、義務なのです。毎日一歩ずつ、子供たちが歩けるように教えます。子供たちに代って母親が歩いてやることはできません。子供が生れたその時から、独立心のある人間にさせるのが母親のしごとです。自主的で、正直で、親切な大人に成長し、この家族社会をくり返す用意が子供たちの生活の中にできているのを見たら、母親はどんなに誇らしい気持を持つことでしょうか。その時が来た時、母親は深く息をついて、体を後にそらして腰をのばし、子供や孫たちと楽しく過すの

です。

5. 小さな子供に多くを期待しすぎてはいませんか？ 子供は小さな大人ではないのです。

子供に大人のように行動することを期待すべきではありません。経験が行動を左右するのです。そして子供はいま経験をつんでいるのですから、年齢にふさわしい行動をするようにとのみ期待すべきです。母親が絶えず、子供にとって不可能なことを期待するならば子供は自信というものをまったく失ってしまいます。

6. 家庭外のことにあまり熱中しすぎていませんか？

母親が家庭以外のことにあまり熱中すると、その代償は高くつきます。子供は常に世話をしてくれる母親の保護を必要としているのです。家族の心が一つで、平安かどうかは、母親が自分の家族のために払う注意と思いやりと愛の大きさに直接比例しています。母親の愛情がうすいと悲惨な結果を招くことになります。

7. 子供たちが従うべき行ないをはっきりと教えていないのではありませんか？

母親が手本を示すことは何にもまさる強い力を持っています。子供は母親がいかに行動し反応するかによっていつも影響を受けています。子供は明確な手本を必要としています。子は親のかがみという言葉がありますが、母親の責任というものは、こういうものなのです。

8. 自分の娘や息子に紳士淑女になりなさいと教えていないのではありませんか？

自分の子供に淑女らしく、紳士らしくふるまってほしいと思うなら、母親が親切に上品に礼儀正しく、ていねいに、優雅にふるまわねばなりません。もし母親がいつも淑女であるなら、その娘もまた淑女となり、息子は、淑女をどう扱うかを学び、そしていつも紳士でいることでしょう。

9. ユーモアのセンスを失ってはいませんか？

母親は家庭のバランスをとるハンドルの役目をしています。ですからいつも快活でなければなりません。非常に多忙な毎日の生活の中から、緊張が生じやすいものです。そして母親はユーモアのセンスを失いがちになります。母親が生活に変化をつけるのです。太陽の輝きも明るさも母親が発散すべきものです。そうすれば、生活があまりにも固苦しくなることもなく、また生きていることの楽しさを失うこともないでしょう。

10. 疲れ切ってしまうまで働いてはいませんか？

母親の仕事は際限のないものだというのは真実ですが、疲れ切った母親というものは、ほとんど価値のないものです。単調な骨折り仕事というのは快い言葉ではありません。そしてもし母親が自分の一生を奴隷のようにあくせく働いて過すなら、その言葉はいまわしいものとなります。家族、愛、快活さ、ユーモア、協力といった言葉が、単調な骨折り仕事を洗い流してくれます。これらの言葉が持っているそれぞれの意味を良く考えて毎日の生活に適用するように努力しましょう。この努力がなされたなら、生活は楽しく、そして母親は素晴らしいものになるに違いありません。

日曜学校

レッスンの準備

第1部

レックス D. パインガー



教 会の教師として、あなたは自分の重要な責任を十分に知り、福音を教えるというチャレンジに応じるために絶えず主の助けを求めなければなりません。次の提案を靈感と証を受けるための助けにしてください。

計画をする時の注意

1. レッスンを計画するためにきまった時間と場所をとっておく。聖典、テキスト、教師用手引き、聖徒の道、紙、鉛筆などの必要品を手近かに準備しておく。

2. 祈る。一番の計画者である主に相談しつつ、

計画を始める。これは主の福音であり、あなたはその子供たちに教えているのである。レッスンの資料を計画したり、発表したりするときに助けを請う祈りは、「みたま」により教えるための第一条件である。

3. 主題を書き留める。主題はレッスンを教える根底である。レッスンを一つの主題に定めることにより、それに焦点をあて、教師と生徒の両方が同じ方向に向かうことができる。そしてその主題にそって教えるための副題を書きいれて、レッスンのアウトラインができる。

主題を決めるために祈りをもってレッスンのテキ

ストを読む。そのレッスン全体の目的を心に留めておくことである。生徒の生活にどの教えをとり入れてほしいのか、おもな原則を捜し、それを文章に書く。

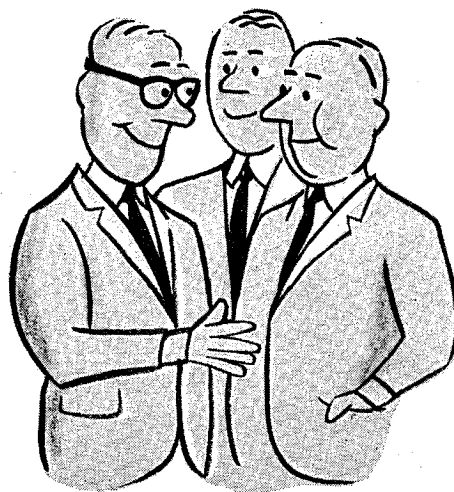
4. レッソンの目的を明確にする。レッスンの目的は、生徒が主題を理解した時にどうふるまうかを述べることである。レッスンの二回目を読み、各生徒がその主題を理解したことを示すためにどんなことが実践できるか、その方法を考える。「生徒はこ

ることができるであろうか。

- c 応用：各生徒が(1)授業中に、(2)レッスン後にその主題を応用するために、私は何をすることができるだろうか。

あなたの行なうレッスン活動を書き出す。

6. 評価する：生徒は、自分がレッスンの要求していることを満たしているかどうかを知る必要がある。あなたが述べたことを自分で行なっていたかどうかを知らねばならない。「生徒が主題を把握し



の福音の原則に従うことを示すために何ができるか」を考える。生徒が知っていることについて、あるいは知っていることに従って何かをするように導くことがあなたの目的であることをいつも忘れてはならない。レッスンの目的を書き留める。

5. レッスン活動の計画を立てる。レッスンの目的を決めたら、次のことに答えてみること。

- a 説明：生徒に主題を説明するために、私は何をすることができるだろうか。（後にあげる教材の項を参照）

- b 話しあい：主題について生徒が(1)生徒間で話しあう、(2)教師と話しあうために、私は何をす

たかどうかはどのようにして知ることができるか」を考えてみる。このような評価は、生徒に聖句調べをチャレンジしたり、レッスンの結びの時にレッスンの内容に基づいた質問をしたりして、口頭や筆記で授業中にも試することができる。授業のあとでは、特別なことをしたり、次の日曜日までに進歩の記録を用意したり、記録表を使って、主題の応用について評価し考えるように生徒に勧める。評価の方法を選び、それを書き留めておく。

7. 宿題を出す：適切な宿題により、生徒は教えられた福音の原則を生活に取り入れる。このことを考えなさい。「生徒に(a)今日の主題を実行に移さ

せ(実践), (b)来週のレッスンを準備させる(読書, 実践)のために, 私は何が出来るだろうか」。

各生徒に与える宿題を書く。

8. 教材を見つける : レッスンの内容を2度読んだ後, 主題と副題とを効果的に説明するために, あるいはその主題と副題についてのクラス討論を活発にするために, 必要な教材を決める。

a 視覚教材: 絵, 実物教材, 図表, スライド写真, 映画等

b 聴覚教材: レコード, テープレコーダー, 生徒の話等

c 人的資料: 教えられる福音の原則を生活の実

際面に示す人生経験をもつ人が誰かいるだろうか。生徒たちはその人に好意をいだくであろうか。

教材を作るか手に入れるかしない: 聖徒の道や教会の他の雑誌を捜したり, 教材係やワード部の図書係に尋ねてみたり, 近くの専門家を訪問したりしなさい。

3項から7項まではよいレッスン計画に絶対必要なことです。あなたの計画にこれらを取り入れたとき, あなたはレッスンの準備にもっと満足できるようになるでしょう。

今月の前奏曲



8月の聖句

大人日曜学校

だれでも, 水と霊とから生まれなければ, 神の国にはいることはできない。

ヨハネ 3:5

子供日曜学校

私は主が命じたもうたことを行って行く。

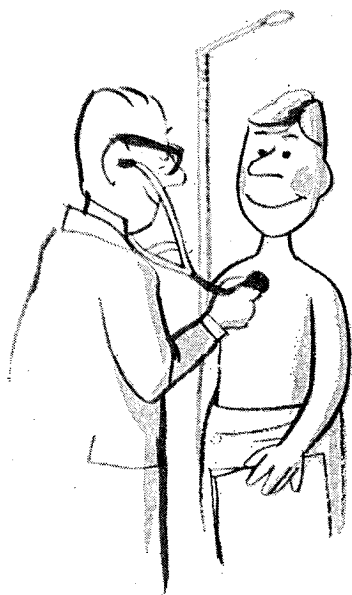
I ニーファイ 3:7

毎日の計画的な運動は.....

報いある健康の法則

.....である

ウィリス D. ウィン



私たちは、オートメーションにより仕事から逃れようと努めて、緊張を減らす大切な肉体の活動をおろそかにしている。肉体の活動は人体に有益な結果をもたらすということを、私たちはずっと以前から知っていた。しかし現代の問題と要求により、私たちは、健康の法則としての運動に特別な注意を払わなければならないのである。

肉体の健康

「肉体の健康」という言葉は幾つかの面において考えられる。病気にかからず、肉体の状態が調整されていて調子が良ければ、人は肉体的に健康であると感じるかも知れない。

健康についてのもっと深い考えには、上にあげた普通の健康や気分の良さと共に、次のような他の要素が含まれる。活気をもって行動し、熱意と活力をもって義務と責任を果たすための力を生み出す源、社会的活動、市民活動、娯楽活動にとりくもうという熱心な気持、時々身にふりかかってくる緊急事態に応じる肉体的、精神的な備えである。

健康は与えられるものではない。アルコール、たばこ、熱

教

会で、私たちはたばこやアルコールや熱い飲料の有害な影響にはずいぶん注意を払っている。しかし、もし実践したなら精神的、肉体的に良いものをもたらすその他の健康の法則には、しばしば注意を怠っている。

職業、活動、趣味の追求、娯楽の楽しみ、毎日の家事雑用において、人の手をわずらわす仕事がオートメーションに変わってきている。運動水準の低下に伴って、社会には緊張を引き起こす要素がふえている。

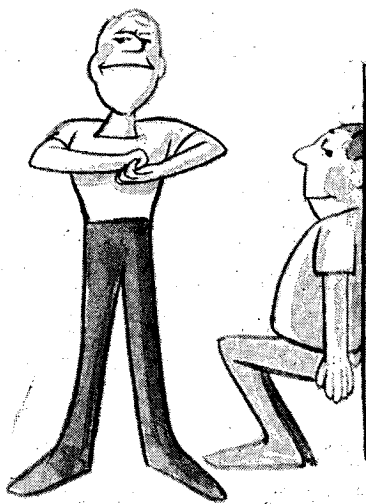
ジョセフ・スミスの友人の話によると、1838年、予言者がギリシヤ語とラテン語を勉強している時、「彼は勉強に疲れると、自分の運動のために、子供たちとゲームをしたものでした。それから、また前のように勉強をしていました。」

「ウィリアム M. オールレッド長老は、かつて予言者が、次の話を引用して、子供たちと遊ぶことは理にかなっていると言うのを、聞いたことがあると言っています。」

「ある予言者が何か楽しそうに、木陰に座しているところへ、1人の狩人が弓矢を持ってやって来て、休んでいる予言者を見てとがめました。予言者は狩人に、弓はいつも張りつめていますかと尋ねました。狩人は、いいえと答えました。予言者が、なぜですかと尋ねると、いつも弓を張っていたら、弾力性がなくなってしまうと言いました。予言者は、心も同じことで、いつも心を張りつめていたくはないのですよ、と言いました。」

(1934年ユタ州ソルト・レーク市、デゼルト・ニュースプレス発行、エドウィン F. パリー編集、

「予言者ジョセフ・スミスの物語」P. 28, 29, 31より)



い飲料を慎んだり、適度の食事をしてさえいれば自然に得られるものでもない。むしろ信仰のように、培わねばならないものである。十分に身体に注意し、正しい食事を取り、肉体の働きをよく理解して、規則的な運動をすることによって、その健康が得られるのである。

運動の型

健康は個人的なことなので、運動は個人の好みと条件に基づいて勧めなくてはならない。健康を得るための運動には幾つかの型がある。

1. 抵抗性運動

これらの運動は1つの筋肉を他の筋肉に、あるいはいくつかの筋肉を抵抗性のある物に対抗させるものである。6秒から10秒間静かな収縮を行なうこの運動は筋肉を強く大きく発達させるのに役立つ。体格は立派になるが、それ自体で健康が増進されることはほとんどない。

2. バランス運動

この運動は、体の動き、すなわち関節と筋肉の一連の動きを必要とする。柔軟体操、重量上げ、ゴルフクラブの振り、蹄鉄投げは典型的なバランス運動である。それらは力、柔軟性、平衡感覚、筋肉の共同作用を発達させるのに良く、長時間充分に行なうならば耐久力を発達させることができる。

3. 集中運動

短時間に強い力を、肉体に要求する活動は、この型に分類される。水泳、ランニング、自転車レースのようなものは、典型的な集中運動である。肉体的に多くのものが要求されるので、これらの運動は体の状態の良い人のためのものである。

4. 持続運動あるいは「エアロビクス」

この呼び名はケネス・クーパー博士による。これらの運動は、成人のほとんどの必要とされる、循環器系統を強める運動である。散歩、水泳、スキー、サイクリング、ハンドボール、ゴルフカートに乗らないで行なうゴルフは、少しずつ始めて規則的に一定期間続けるならば、持久力を強めて肉体の健康を促進する。

トレーニング計画の効果

肉体の健康から得られるものは何であろうか。

アメリカ心臓協会は次のように言っている。

「仕事で肉体労働をする人は、事務をする人よりも心臓発作にかかる傾向が少ない。そしてもし彼らが心臓発作にかかったとしても、人生の後期に起こり勝ちでそれほど重くない……。

規則的な運動は、心臓発作の危険を減らすと同様に、即効的な利益をももたらす。

血液の循環は体の全体をよい状態にする。肺、心臓、他の諸器官及び筋肉のすべては、さらに効果的に働きあう。

あなたはもっと丈夫になり、疲れにくくなる。

毎日に対する意気込みが生まれ、緊張と過労に対する抵抗力は強くなる。運動は、積み重なった緊張によいはけ口を与え、休息と睡眠はくつろぎを与える。

あなたの体重を正常に保つことは容易である。ひどい太りすぎは心臓発作の危険を引き起こす。

より良い姿勢とさっぱりした姿は、外見をひきたてるものである。心臓病の危険要素の一つであるコレステロールの量を少なくできる」

医師、生理学者、心臓学者、心理学者による研究発表では規則的な運動をしている人たちは、さらに長く働くことができ疾患についてもさらに抵抗力を増し、緊張と心配が少なくなり、日常生活にあってもっと生産的になるであろうということとを常に指摘している。

どのように始めるか

健康調整の計画を始めるにあたり、次のことに従いなさい。

1. 健康診断を受けて、あなたの計画を医者と話合いなさい。医者の考え、勧告、注意を求める。（毎年の健康診断を健康の1つの目安にするべきである）

2. 計画と目標を立てる。あらゆる年齢層や好みに合った多くの運動のプログラムがある。

3. 運動の予定表を作り少なくとも週の内3日、1日30分から1時間の予定を立てる。

4. 過度の運動とけがとを避けるために、ゆっくり始めてしだいに強くして行く。あなたの現在の状態は、形をなすまで二、三カ月の時間をかけることである。

5. 堅実に行なうこと。目標を達成するためには時間と努力がいることを知って単なる思いつきや近道を避けることである。

6. 楽しいやり方を見出すこと。単なる「運動」はつまらない単調な仕事となってしまうかもしれないからである。

7. 継続すること、その報いは、努力するだけの価値あるものである。

8. 散歩、ハイキング、スキー、水泳、ボーリング、園芸のような、家族みんなで行なう活動を計画しなさい。

私たちには智慧の言葉に従うことにより「走れども疲れず、歩けども気を失うことなからん」という約束が与えられているが、肉体の運動はこの約束の実現に大いに力をそえるであろう。



友はMIAでできる

「**捜**せ、そうすれば見いだすであろう」と主は言われた。友を捜す人は、その友をMIAで見出すであろう。忠実、誠実、愛、創造性など、次々にあげられる標準と理想は、MIAの会員に認められる。毎週行なわれるMIAでの交わりは永遠の友情に達するための機会である。

多くの「宣教師便覧」の見返しに、ジョセフ・スミスの言葉が印刷されている。それは「柔和に、冷静に行きなさい。信仰や宗教組織のことで他の人々と争うことなく、十字架につけられたイエス・キリストとその教えを宣べ伝え、確固とした道を求めて歩みなさい。これを私はいましめとして伝える。これを守らないすべての者は頭に迫害が下されるであろう。しかしこれを守る者は常に聖霊に満たされるであろう。私はこれを予言として告げる」という言葉である。

MIAはこの予言を成就する組織の一つである。なぜならMIAのプログラムは、信仰や宗教組織のことで人と争わず、教会員、非教会員とを問わずあらゆる人に開かれており、柔和に冷静に確かな道を求めつつ、毎日の生活における福音の原則を語ることによって十字架につけられたイエス・キリストとその教えを宣べ伝えているからである。MIAのクラスでは、宗教のいかに問わずあらゆる青年男女は業績達成賞を受けることができる。それは、世の中の男女が、体も心も清い人々とまじわる良い機会である。外面の容貌は、心の喜びと汚れない思いからのみ生じる、若人のほほえみと生気を伝える。

MIAでは16歳と17歳の少女たちはローレルの誓いを守ることを宣言する。「人生の出発点に立っているローレルの私は

捜せば自分のものになる偉大な宝を目の前に見えています」

12歳と13歳のビーハイブの少女たちはいっしょに声をそろえて「私は女の子だということを大切に考えます」という言葉を繰り返す。

14歳と15歳のマイア・メイドはシンボルとしてバラの清純さを持ち、それを毎日の生活に実践する。

18歳から25歳までのグリーナーには、正直、忠実、純潔で愛あふれる人々が集められる。

12歳と13歳のスカウトは「名誉にかけて行なおう」との言葉によって、為すべき仕事を熱心に果たす。

14歳から18歳までのエクスプローラとエンサインは、探求し指導性を身につけ、良いしもべとなることを目標にかかげ、それに向かってまい進する。

Mメンは、「生涯を通じて人類に最良の貢献ができるように、私自身を純潔に保つため、積極的に悪に対抗するため、謙遜さと男らしさの模範を示すため、真のスポーツマンシップに従うために、最善の努力を払うことを心から誓います」との誓いをする。

上の誓いと行動の原則を堅く守る人々のまわりには、永遠の友情を固め、素晴らしい経験と喜びのある人生を送るための機会が多く約束されている。これらの友情の素地はMIAにある。それは福音の原則を日常生活に応用することを若人に教えるMIA活動の教室に、あるいはMIAの主催するさまざまな行動の中にある。彼らは、「イエス・キリストについて宣べ伝え」、これを実践する時に、教師や仲間の中から、自分たちの真実の友を見出すのである。

権能ですって？

何をする権能ですか



競 技が終ってからのことでした。二人の青年が、飲物を待ちながら話し合っていました。二人の話の内容は、普通耳にすることとは異質のことに思われました。

「神権の権能ですって。どんな意味でおっしゃっているのですか。確かにぼくは祭司の職に按手聖任されていますし、聖餐の祝福の手助けをしています。でも、権能と言われても……。ぼくは権能をもっているのですか。一体、何をする権能をですか。」と、若い方の青年が言いました。

もう一人の青年は、考え深そうな感じの人で、微笑を浮かべながら言いました。「ぼくが伝道に出る前には、ちょうど君のように考えたものだった。ぼくも理解できてなかった。ある日、一人の婦人が病気の子供を連れてやって来た。その人は、ぼくに何かを期待しているようすだった。ぼくはといえば、とにかく一生懸命お祈りをしたんだ。一体何をしたらよいのか確信を得なかったし神様に助けて欲しかった。その時ぼくは気がついたんだよ。その人は自分で神に祈ろうと思えば、いくらでもお祈りはできたんだ。それなのにここに来ているということは、他でもない、神権の助けが欲しかったんだと。それで、ぼくは両手を子供の頭においた。神はその子をいやされた。この時以来、ぼくは神権とは、すなわち権能だということを知ったんだ。神権とは、若い人達を訓練するための別名なんかではないんだ。神権をもつ人は、神と協力して、非常に偉大な事柄を為しとげることができるんだ。神は、ぼく達がこのように力をつくしている時に、特別な方法で祝福を与えて下さるんだ。今は、はっきりとこのことを知っている。そして、このことは、ぼくがいかに生きていくかということに非常に多くの影響を与えているんだよ。」

あなたの場合、あなたが持っている神権はどうですか。あなたの生活に影響を与えることができる重要な事柄を考えたことがありますか。次にそのためのチェックリストをあげておきます。

(1) あなたの友人が事故で大けがをしました。あなたは、その場に居合わせました。一体、あなたは何かができるでしょうか。

(2) あなたの所属しているチームがステーク部内の競技に参加するためにバスでかけます。みんなは乗り込みました。一体、あなたは何かができるでしょうか。

(3) 学校で、あなたと同じ委員会に所属している女の子が、教会についてもっと知りたいと言いました。一体あなたは、何かができるでしょうか。

(4) あなたのお父さんは教会の会員ではありません。しかし、妹さんが重大な決意をするのにあなたの助けを必要としています。一体、あなたは何かができるでしょうか。

人々の 悪しきくわだて

管理監督 ジョン H. バンデンバーグ



試 合で対戦する前に相手方のようすを偵察するのは、スポーツではあたり前のことになっています。相手チームの総合的な戦術を分析するこのやり方は、相手方の奮闘を妨げられるような、有力で効果的な防御方法を工夫するために行なわれます。

今日主は、全く同じような方法で、私たちが正義に敵対する者の戦術に備えるようにと要求されています。主は非常に明確な言葉で私たちに警告されました。すなわち「……末の世に於て悪しきを企つる人々の心中に現在存し、また将来在らんとする悪と企図とのために……」（教義と聖約 89：4）と。

これらのくわだてをする人たちの主な目標は、私たちの肉体と力です。サタンは世の初めから、神の子供たちの肉体を

滅ぼし、彼らの思いと行動を支配する力をとることをねらってきています。昔、カインをそそのかしてアベルを殺させた時の動機はこれであり、現在ではこの動機は非常に明白になっています。サタンは非常に賢くふるまっています。肉体を損うような、あるいは、肉体と精神を奴隷にしてしまうような物質の使用を一般化しようとしたり、あるいは適当にこじつけようとしたりしています。このような方法で、サタンはいろいろな場合に成功しています。何百万という人々が、自分の霊の宮居をタバコ、酒、あるいは不道德や破滅へと導くような物を摂取することによって汚しています。

しかし、近頃は、サタンは肉体をねらうだけでなく、人間の力も奪い取ってしまうという当初のやり方に立ち返ったように思われます。19世紀という、ごく近年になってから、薬

を向こう見ずに用いるといった悪しきことが国々にはびこりました。

キリスト教の宣教師から伝えられるところによれば、19世紀末から今世紀初めにかけて、セイロンでは、アヘンのためにたくさんの村が絶滅しようとしていました。このような村に足を踏み入れてみると飢死せんばかりの動物たちが目につき、建物は朽ちて、人が生存しているような徴候はほとんど見当りませんでした。1897年だけでも、18,285ポンドのアヘンがセイロンに輸入されたと報告されています。

他の国で、同じような苦しみを味わったのはインドでした。1899年、英国領インドでは、564,000 エーカーにわたってけし（アヘン）が栽培されておりまして。しかも、この国では当時も、そして現在も大勢の人々が飢えているのです。

中国も、同じように破滅へ導かれるような策略にとらえられた国でした。19世紀の間に、無数の家族が貧乏のどん底であえいでいました。というのは父親たちがアヘンの常用者になっていたからです。この悪習を続けるために自分の妻や娘を売るとは、男たちにとっては珍しいことではなかったようです。

中国では、アヘン常用癖は三代目、四代目、あるいは五代目の子供にさえも現われることがあります。この傾向の非常に強い子供は、6時間毎にアヘンの煙を顔に吹きつけないとひきつけを起こすのです。

このような時代に中国を訪れた人々は、時々、ほとんど死にかけている乞食が食物ではなくてアヘンを求めて寄って来たと報告しています。

今まであげた国の人々は薬を勝手きままに使うことによって、精神も肉体も虜にされてしまったのです。今日では、このような悪しきたくらみが不合理な主張によっておおい隠されていますが、それでも私たちは当時と同じような状況に直面しているのです。くわだてをする人々は、ある種の薬に真実をすっかり歪めてしまうような唱い文句をつけています。たとえば、LSDのような特別な幻想の薬を「心を豊かにする薬」といった風に呼んでいます。しかし事実、個人に与えられた最も貴い恵みであり、権利でもある、自分自身の心を制御し支配する力を奪われてしまうことになるのです。

ある若い男が、友人たちの強い勧めにあってスリルを味わうためにLSDを飲む決心をしました。友人たちからは、すばらしい経験だよ、たぶん美しい色を見ることができるし、ここちよい音楽も聞けるだろうと言われました。けれども、時によっては悲劇的な経験になるということは教えられなかったのです。カリフォルニア、ベントウラの地区弁護士は、この若い男の経験を物語って次のように言っています。「LSDの作用で、彼は狂暴になり、父親と母親を殺そうとしました。両親の悲鳴が隣家の人の耳に入り、ついにこの男はとりおさえられました。今は、彼は精神病院に入院しており、医師は回復するのを期待していないと言っております。この

男は大学生で、成績は優秀ですばらしい男でした。でも、今では彼の人生は破壊されてしまいました」

科学者は、LSDを飲むことはたとえて言えば薬学のロシアルーレットのようなものだと言っています。薬の濫用で何よりも恐ろしいのは、薬を用いる人が、自分の心を支配する力を気まぐれな化学の力にゆずり渡してしまうことです。

LSDが不妊症や暴力と結びついていることから、この薬の使用を公然と主張する人は少なくなってきたようですが、これに代って、いわゆるあまり強くない薬、たとえばマリファナ（インド産の麻で麻酔剤になる）を使うことがすすめられてきています。あまり強力ではないと言っても、本質的には同じことです。マリファナの服用者は自分の精神を、予測しがたいような、時には暴力的な結果を生むような薬に引き渡してしまうのです。いわゆる無害の雑草を提供している人々のたくらみを、見てみましょう。

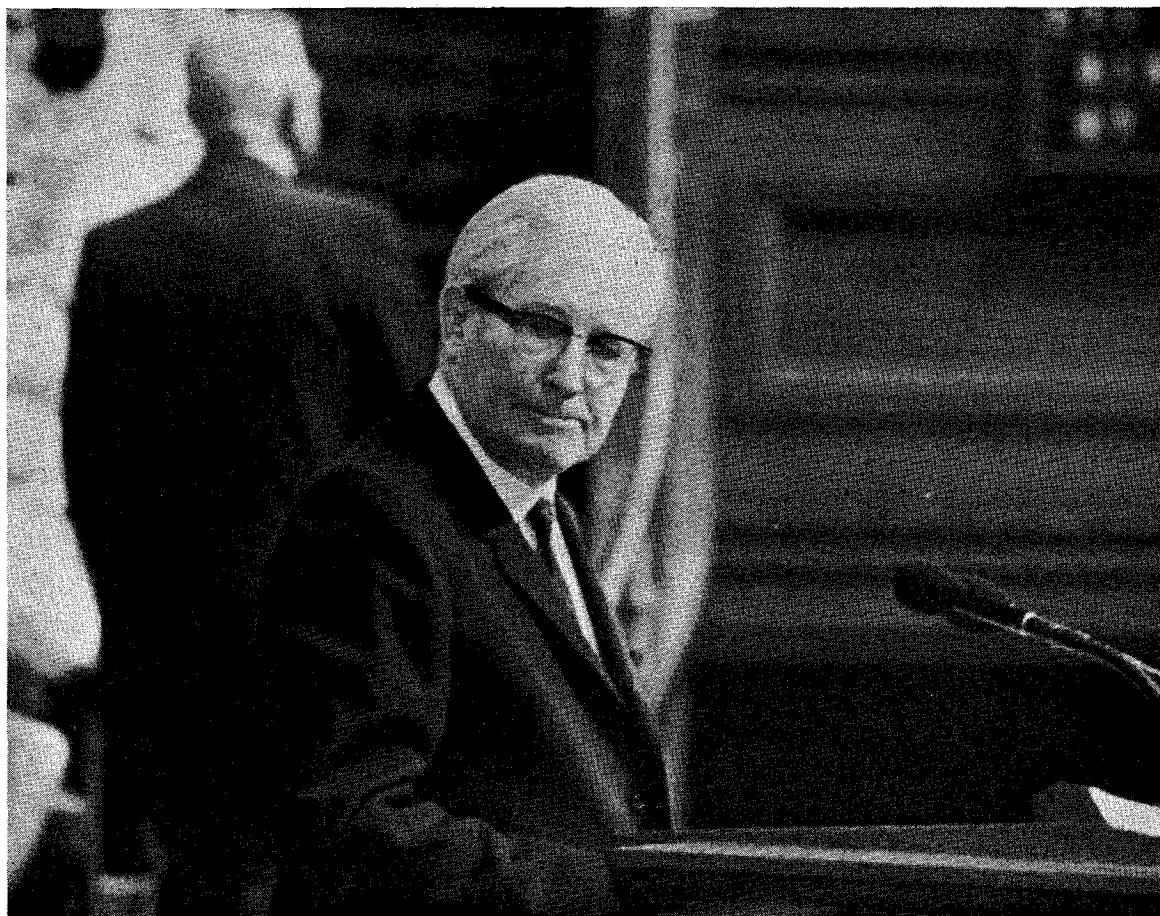
このような人々の動機は、若い人たちをヘロイン、モルヒネ、あるいはアヘンといった薬の相当重症な中毒者にしていくことにあります。

ソルト・レーク市の学区で行なわれた調査結果は、喜ぶべき状態を示しています。つまり、若い人たちの肉体を汚し、精神をとりこにしようというもくろみにだまされた人はほとんどいないのです。

教会の若人たちにとっては、敵のたくらみは非常に明白なことなのでしょう。主は忠告されています。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであらう。なぜなら、神の宮は聖なるものでありそして、あなたがたはその宮なのだからである」（Iコリント 3:16~17）

だれであっても、許可なしに他人の心を侵すことはできません。なぜなら、その人自身が自分を治めるあるじなのですから。人は自分の運命を決定する力をもっているのです。人は自分の造り主である神を信頼することができますし、このようにすることによって自分にとって何が一番よいものなのか知っていますから、今さらそれを試してみる必要はありません。

私たちの肉体と精神は神から与えられた最も高貴なものです。これなくしては人生の目的を達成することができません。このためにこそ、サタンは実に巧妙に人を誘惑し、この神からの恵みをひき渡すようにしむけるのです。神権保持者として、教会の若い女性として、正義のために戦いなさい。あなたの御霊の宮居を汚すもの、あなたの精神を損うものから自分を守りなさい。あなたの方の内一人といえども、この悪しきくわだての虜になってはなりません。あなた方はたくらみを知っています。神と指導者の忠告に忠実であれば、それに打ち勝つことができます。福音の計画に従うことによって、あなたは人生のどの試合でも敵を打ち負かすことができます。



ダニエルの解き明かした石

チャーチ・ニュース編集員
ジャック E. ジェラード

「……その像を撃った石は、大きな山となって全地に満ちました」（ダニエル 2：35）

予言者ダニエルが、ネブカデネザル王の見た夢の中の、粘土の足をもった大きなけだものについて解き明かした時、彼は、石が神の王国で、それは大きくなってついに世界中をつつむと言った。

最近行なわれた第139回年次総大会の記録を見ると、福音は世界中ほとんどの地域に宣べ伝えられて、その石がますます勢いを強めていることがわかる。

大管長会書記のジョセフ・アンダーソンが、土曜日午後の部で年次報告を行ない、1968年の暮れには教会員が2,684,073名になったことを発表した。

アンダーソン兄弟はこの一年間に70,000人以上の改宗があったことを、139年前に教会が組織された時の6名という人数に比べながら指摘した。

1830年4月6日にころがり始めた「石」は勢いを増して、教会員数は10年後に30,000人となり1850年には60,000人になった。

さらに、百年を経て1930年4月6日に開かれた大会の時には、会員数が672,488名を記録し、聖徒たちがソルト・レークの谷に入殖して一世紀のちの1948年には、1,016,170名を数えた。

昨年は教会員の大多数、2,207,876名が完全な組織を持つステーキ部に属し、あとの476,097名が83の伝道部に属していた。

1968年の暮れには、1967年から25ふえてステーキ部は473になった。1948年12月31日現在のステーキ部数170に比べて303という飛躍的な発展である。

1968年には、独立支部とステーキ部内のワード部が合計で4,385を数え、そのうちの3,721が完全な組織を持つワード部である。そのほかに伝道部管轄下に2,112の支部がある。

前年の統計報告によると、448のステーキ部に3,544のワード部があり、そのステーキ部内にある622の独立支部を足して合計は4,166である。

ステーキ部や伝道部における宣教師の働きも同様にめざましい。

男女の宣教師による努力の結果、64,021名の改宗者がバプテスマを受けた。1930年と1948年の報告を見るとよく比較できる。

たとえば、1930年には6,758名の改宗者がバプテスマを受けた。バプテスマ数は1948年に10,471名を記録し、1967年には62,280名が教会に加入した。

それにつけ加えて1968年には、ステーキ部や伝道部で53,482名の子供がバプテスマを受けた。

教会員千人についての死亡率はごくわずかに上昇し、出生率は少し下降した。たとえば千人に対する出生の割合は、1967年に27.55人、1968年には27.49人である。死亡者は1967年が5.05人で1968年には5.17人である。

「主の大いなる恐るべき日」が来る前に死者のための代理の働きが行なわれるという、予言者マラキの予言が成就され

つつあることは、記録に明らかである。

1968年に、死者のための儀式が6,218,750生者のための儀式が54,895、合計で6,273,645の儀式が13の神殿で行なわれた。

4,565,766の儀式が行なわれた1967年に比べると、かなりの増加である。

インスティテュートやセミナリーをふくめて、教会の学校に登録される教会員数も相当数増加した。教会のさまざまな教育機関で学ぶ学生数は215,602名である。

教会が発展していることは、神権者が26,850名ふえたことでも明らかである。

1968年12月の終りには、アロン神権者が339,496名、メルケゼデク神権者が321,394名、合計して660,890名になった。

教会の補助組織を見ても、会員数、登録人数、平均出席数がふえている。

たとえば、扶助協会会員数は311,871名、日曜学校の平均出席者数は878,901名、YWMI A、およびYMMI A登録人数は、それぞれ337,819名、323,745名、プライマリーに出席する子供の人数は460,975名である。

おびやかされる 家庭

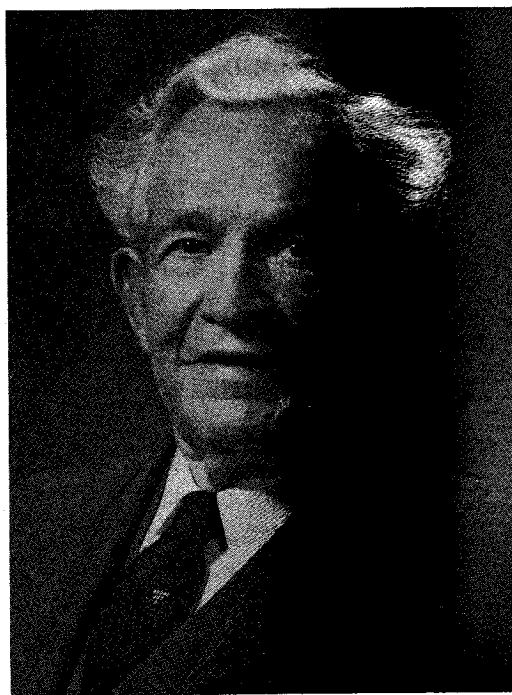
デビッド O. マッケイ大管長

(子息ロバート R. マッケイによる代読)

愛する兄弟姉妹のみなさま、今朝自らの経験を思いまわりを見渡す時に、私の心は強く動かされます。主の祝福と教会員のみなさまの信仰と祈りを、かつてないほどに深く感謝しております。福音の回復と、それに伴って全世界にもたらされる栄光の訪れを、そして、神が生きてましまし、その愛する御子イエス・キリストが世の救い主、贖い主であられること、私たちがその子供であり、不死不滅に復活して御許に再び帰られるよう、主が私たちのために計画を備えたもうたことを、深く感謝しております。

この一年に教会がめざましく発展したことや、一致して献身的な教会幹部、役員たちの働きに、また補助組織の役員、ステーキ部、定員会、ワード部、伝道部、ひいては教会員一人一人の信仰と忠実と奉仕に感謝いたします。そして、とりわけ、私たちがあらゆるものを統べたもう主の御力と導きに信頼し頼れることを感謝いたします。

この歴史的なタバナクルに集っておられる来賓の方々、政府や教育界の指導者のみなさま、十二使徒会地区代表、各地から来られたステーキ部、ワード部、補助組織の役員、教師の方々、またラジオやテレビに見入る会員や友人のみなさま



第139回教会年次総大会によろこそおいで下さいました。心よりの歓迎を申しあげます。

この数ヶ月間、私は、誤った理想と苦悩に満ちた世界における人類の福祉について考えておりました。罪が増し、おきてと秩序が軽んじられ、離婚がふえていく結果、家庭は崩壊します。悪に伴って不道徳がはびこり、人の自由という価値ある原則が、否定されないまでも、おびやかされている今日世界中の人々が、今までにもまして祈りをもって思慮深く熱心に、世の不幸の原因をさがし求め、勇気をもって雄々しく人生のより良き道を選ばねばならないのは今という時であります。

人類が救い主、主なるキリストの教えに思いをめぐらし、これまでも増して多くの人々が態度と行ないを確立すべき時は今であります。大勢の人々が心と生活を変えるのではなくては、世界はますます混乱をきわめて、私たちの文明は分裂の危機に瀕するでしょう。

世の人々の心が神から離れていることは、悲しむべき事実であります。ほとんどの人は神の栄光によらず自己を宣伝したいという気持ちにうながされて日々を生きています。不敬の心は明白に現われています。

世界には敬神の心が必要です。放縦ではなく自己訓練が必要です。キリストと共に「父よ、……わたしの思いではなくみこころが成るようにして下さい」(ルカ 22:42)と言える力が必要なのです。キリストは平和をもたらすために来られました。キリストの道に逆らうことは、争いと論争を激しくするばかりです。主ではなく人間が、おそろしい争いと悲惨を招いているのです。戦争は不正な指導者のよこしまから起こります。自由が勝利をおさめ、平和が来てはじめて私たちは戦争の終結と人々の善意を望めるのです。

それらの事実がはっきりと現われている今日、誠意ある人々はみな、戦争をひき起こした悪を認識して、神の御助けによりその悪を永久に消滅させようと決心しようではありませんか。不法と圧制ではなく、正義と自由が勝利をおさめねばなりません。くり返して申します。人々が心を変えて新しい理想に目覚めるまでは、戦争はなくなりません。

大いなる民を築きあげ永続させるための基となる大切なものは家庭であります。特に民主国家において、国民の知性ある秩序正しい家庭はその国の力です。秩序ある家庭において私たちはこの地上にありながら天国を経験できるのです。赤児が母親に抱かれてはじめて安らぎを覚え、母親のはおずりにはじめて愛情を感じ、母親のやさしさに、この世に愛あることをはじめて知るところは、家庭であります。

私は、第二次世界大戦の時に、40名の若い軍人と共にブルマン式車両に乗りあわせたことを覚えています。彼らは立派な若者でした。話をしている時に一人が私に向かって、「私の父も髪はまっしろです」と言い、言葉をかみしめるようにさらに続けました、「今、年とった父の白い髪がとてもなつかしいです」。彼らは海外へ派遣される前に訓練として野営

しに行く途中でした。彼らは人の自由意志だけでなく、神聖な家庭や愛する人の権利を守るために兵役についたのです。軍隊に入ったあの若者は家庭や家族の人たちを愛していたゆえに、死の危険がせまる敵地へ向かったのです。

現在、米国の家庭を崩壊させる一つの原因は、子供を育てるという責任をおろそかにしながら結婚の喜びを求める人たちがいることであります。家庭に子供を迎える決心をする時には、知恵と深い思慮がなくてはなりません。

若い人たちが、家庭造りは十代の時から始まることを知るのには、大切なことであります。祝福を受けて生まれる子供の健康が、両親の結婚前の行ないに左右されることがしばしばあります。

男性も女性も若い時代に将来の幸不幸の基礎を築くことを印刷物、あるいは説教壇から、また特に家庭のなかで、前にもまして強く警告しなくてはなりません。特に若い男性は自らの身体を清く保つことによって父親の責任をひきうける備えを為し、家庭を築くにふさわしい恥じるところのない者としてその責任を受けられるように、準備をしなくてはなりません。ふさわしくない若者が父親の責任を受けることは、人をだますより悪いことであります。妻や子供の将来は、男性が若い時代をどう過ごすかにかかっているのです。

女性にも、母親であることがいかに神聖なものを教えましょう。人生のうちの創造の働きに携わる時、私たちは神聖な領域に足を踏み入れるのです。ですから、若い女性が、子供を罪と不幸に束縛される世界へ送り出さないために身体を清く美しく保たねばならないことを知ることは大切であります。気高い人格を受け継いで汚れなく出生することは、幼年時代最高の祝福であります。若い時に人生を娯楽の道具として浪費したり、有害な薬や罪深い習慣にふけて、子供に足かせをはめる権利は、どの母親にもありません。民族の母となるべき人たちは、自分のために子供を罪や弱さや欠陥をもってこの世へ送らないように、正しく生活しなくてはなりません。

「おくめんもなく弱さや欠点をさらけ出す手段にとびつく」とシェイクスピアが言ったように若い時代を過ごしてはなりません。

今日の世界における最大の悪は不品行であります。ジョセフ F. スミス大管長が残した言葉をくり返したいと思えます「性的な罪による恐ろしい不幸は、今日の社会を外から内まで醜くかえてしまういまいましいガンである。それは人生の基をだめにし、まだ生まれない者にけがれた死の遺産を伝えるものである」(インプルーヴメント エラ、第20巻 P.739)

不品行な生活をする若者は、女性の両親の信頼を裏切り、若い時に不品行に陥る女性は、未来の夫となるべき人を裏切り、家庭における不幸や疑惑や不和のもとを築いているのであります。これに反対する学者の言葉に心を奪われないで下さい。ただ、純潔は人生で最もほめたたえるべき徳であるという永遠の真理を心にとめて下さい。それは男性の真の雄々

しさ、女性の頭に飾られる冠であります。若い力を内に秘めた男性はそれがまことであることを知っております。それは幸福な家庭に欠かすことのできないものなのです。確固たる教会の標準を守れば、敗北はありません。世にありながら世のものとならないでいることができるのです。なにものにもまさって、純潔を守りなさい。神は私たちに清くあれと命じておられます。「あなたは姦淫してはならない」とシナイ山で主は言われました。(出エジプト 20:14)

墮落の勢いはますます世に広がっています。しかし、若人が正しい思いを抱いて高い理想を求めるならば、彼らはそれに抗することができます。昔から続く真理と誤りとの戦いは激しさを増し、今は誤りが優位に立っているかのように見えます。社会や政治や実業界に、モラルの低落がめだち、敬いと廉直の原則がおざりにされています。

結婚に対する教会の見解は、教義と聖約49章にある次の言葉にはっきりと示されております。「結婚は神の人に定めるところなればなり」(教義と聖約 46:15) この啓示は、1831年、ジョセフ・スミスが若年25才の時に与えられました。その時のことを考えてみる私たちは、ジョセフ・スミスが主の靈感を受けたということの確証を見出すのです。この会場にはステーク部、ワード部、定員会、補助組織の管理役員が幾千人も集まっておられます。その方々に申しあげます。この啓示に言われる通りの結婚に対する気高い概念を擁護し、理想の家庭の標準を低めようとする危険を防ぎなさい。それは私たちの義務であります。

最も気高い最良の人生は、高い理想をいただく人生であると言われています。若い人々が結婚を神により定められたものとして考える以上に高い理想があるでしょうか。そのような標準を心に抱く若人は、交際期間中もその標準に守られてやがては資格ある者として愛を永えに続く完全なものとするために神殿へ入ることができるのです。その標準をいただく彼らは、今と永世とにわたる幸福に大きな影響を与える伴侶の選択に、神よりの導きを求めるでしょう。その標準は彼らを清く善良にします。彼らを天の御父のもとにひきあげます。そのような喜びは、結婚と家庭に対する標準を高く正しく保つ人々の得られるものなのです。

時代の出来事を見れば、結婚の誓約の神聖さが非常におそろかにされていることが明瞭です。前もって通知しなくとも二十四時間中、いつでも結婚式を執行する場所があります。二人が待っているうちに結婚許可証がおりて式も終わります。そのように安易に結婚した夫婦の多くが、失望と悲しみのうちに別れています。言うなれば、そういう場所は不道德を公認する場以外の何ものでもありません。それは、まことの理想からなんとへだたっていることでしょうか。私たちは、急いで秘密に結婚しないようにと、若い恋人たちに力を尽して警告しなければなりません。

また、試験結婚を唱道したり結婚外の関係を友情と同程度に考えるなど、「結婚をいやしめる」有害な印刷物を防ぐこ

とが大切です。

両親であること、特に母親であることは神聖な責任であります。人間の心は、奥底に、親たることをおろそかにできない何かを宿しております。神は、子供や若者を守る責任を負わずにはいられない心を、両親に植えられたのです。

責任を、家庭ではなく学校や教会という外のものに負わせるという傾向が顕著になっているように見受けられます。外における影響は確かに大切であります、しかしそれらのもので、母親や父親の及ぼす影響に代えることはできません。子供を常に見守り、交わり、訓練することは、家庭を完全に保つために必要であります。

子供の性格は大部分12才までに形造られます。子供はその期間に学校で過ごす時間の16倍、教会で過ごす時間の126倍を家庭で過ごします。子供はそれぞれの家庭の姿を身につけています。家庭があるべき姿の時にのみ、子供はあるべき姿に育つのです。植物栽培に秀でた科学者であったルーサー・パーバンクは、子供を育てるためには常に注意が必要であることを特に強調して語りました。こう言っています。

「子供に自尊の心を教えなさい。草木をより良い方法で養うと同じように、子供の自尊心を訓練しなさい。自尊心のある人間は、不正な利益を決して求めません。また特に、くり返すことを忘れてはいけません。いつもいつもくり返して影響を与え、永久にやむことなく感化を与え続けなさい。

常に影響を与え続ければ、ついには消えもせず変わりもしない特性として固定する、それが植物に特性を与えるやり方なのです。だめだと思って失望することはありません。あなたは植物などよりはるかに価値ある子供の心を育てているのです」

すべての子供に与えられなくてはならない三つのことがあります。それは (1)尊敬するに足る名前 (2)安心の気持 (3)進歩の機会、であります。家庭は子供に名前と社会での立場をゆずります。子供は自分の家庭が友だちの家庭と同じように楽しく良い家庭であってほしいと思います。誇りをもって父親を指さしたい、母親からは願う導きを感じ取りたいと望みます。子供が母親の美しさ、やさしさ、清らかさのすべてに接するよう、正しく生きることは母親の務めであります。また父親は、子供がその模範にならって、良い市民、イエス・キリストの教えに真心から従う者となるよう、正しく生活せねばなりません。

子供には、家庭を、外の世界の悪と危険から守られる場所であると感じる権利があります。そのためには、家族の一致が必要です。

互いに思いやりのあるしあわせな両親、希望をもって一つの理想に向かい、自己を捨て、真心をつくして子供を愛する両親を、子供たちは必要としております。すなわち、円熟した人格をもち、洞察力を備えて、子供に物質ではない進歩のためになる健全な精神の富を用意できる両親を、子供たちは必要としているのであります。

離婚は、これらのものをほとんど子供から奪い去ってしまいます。最近私は、両親が離婚したという、八才の誕生日がまちかい少年から悲しみの手紙を受け取りました。引用してみます。「デビッド O. マッケイ大管長さま、ぼくにはお母さんとお父さんのことで問題があります。お母さんとお父さんは離婚しましたが、ぼくたち（兄弟や姉妹たち）はまたいっしょに生活したいのです。どうしたらよいか教えてください。ぼくはあなたがだいすきです」この子にとって、離婚は何という悲劇でしょうか。子供をどんなに不幸にしたことでしょうか。

アメリカ合衆国で年々ふえつつある離婚率は、国家の状態をおびやかす問題であります。合衆国全体、あるいはこのユタ州での離婚率の上昇は容易ならぬ問題であります。

古代、近代の聖典によれば、キリストの教えられた結婚の理想は、固く結びついた家庭であり、離婚をひき起こす状態は神聖な教えを冒とくするものであります。不信仰とその他の特別な状態を除いて、教会は離婚をいまいめています。教会幹部は、教会員の間に離婚の数が増えていることを憂慮しております。

主の家で結婚の神聖な誓約を交わした男性が、若く美しい女性に迷ったがゆえに妻や家庭と別れるならば、彼は誓約に反逆する者であります。たとえ国家がその男に離婚証明書を発行しても、彼は二度めの結婚を神殿で行なうにふさわしくないと、私は考えます。

夫にまことを尽さず、わがままな望みゆえに家庭をこわす女性も、主の家で交わした誓約にそむく者であります。結婚の絆を断つことは、人生で最も悲しむべき経験です。互いの愛の中に太陽のごとき暖かさを感じてよりそってきた夫婦がその光のなかに誤解と不一致の暗い雲を見ることは、実に大きな悲劇であります。それに続く暗黒のなかで、互いにみつめあう愛の輝きは消え、それを再び取り戻そうと努めてももはや無駄です。

ロマンチックな一時の喜びを求めたり独善的な目的のために、また、やがて直面する困難や誤解を予想もせずに行なう契約として結婚を考えることは、厳しく非難されるべき罪悪であります。両親が別れたために子供が不幸になる場合はなおさら罪悪であります。結婚はよく知られている数々の目的を満たすための神聖な関係であり、その目的の第一には子供たちを育てるということです。結婚に対する軽薄な態度、恐ろしい「フリーセックス」の考え、手軽に離婚できる場所、それらは多くの家庭を難破させる岩礁であります。

家庭の崩壊を減らすためには、今日の世を風びする結婚についての低い概念が、イエス・キリストの教えたもうた気高い概念に変わらなくてはなりません。結婚を神聖な責任、永遠の誓約と考えましょう。

結婚には責任が伴うこと、ただ喜びだけに終わる約束ではないことを知るように、若い男女に結婚の理想と責任を教えなさい。男女間の清い愛は地上で最も高貴なものであること

と、子供を養い育てることは人間に与えられたあらゆる義務のうちで最も尊い義務であることを教えなさい。子供が家庭生活の神聖さとそれに伴う責任を知ってみならうことのできる、模範的な家庭を築くことは、両親の義務であります。

結婚は相互の奉仕であり、受けると同時に与えるものであること、それぞれが自分の力のすべてを捧げてつくすものであることを、二人が結婚の祭壇にぬかづく以前に知るならば、破綻する結婚は少なくなることでしょう。ハリエット・ピーチャー・ストウは賢明な言葉を記しています。「はじめに、人生を犠牲と労働の求められるものと知って雄々しく決意しなくては、まことの家庭を造ることができない。そうする人のみが、天国に最も近い場所を地上に造りあげるための力を神より与えられるのである」

結婚の誓約を永遠にながらえさせるために大切なもう一つのこととは、神殿における結婚であります。神殿結婚を受ける前に、二人はまず監督から推薦書をもらわねばなりません。二人で個人的に監督のところへ行き、監督は責任において、二人が受けようとしている責任の神聖さについて前にあげたことを強調して教えます。彼らはそこで、神権によって、結婚の責任を受ける前に、その義務の神聖さを教えられます。さらに彼らは、神の祭壇の前に純潔と聖さをもって愛と誓約を結び固める準備ができているか否かを確認されます。

最後に、幸福な結婚のもととなる一つの原則があります。それはまことの教会員の間で教えられ実践されている純潔の標準であります。末日聖徒イエス・キリスト教会には、ただ一つの道徳標準しかありません。男性にも女性とまったく同じ純潔が求められています。清い女性を伴い、監督に神殿へ入るための推薦を願い出る男性は、女性に望むと同じ清さを望まれています。

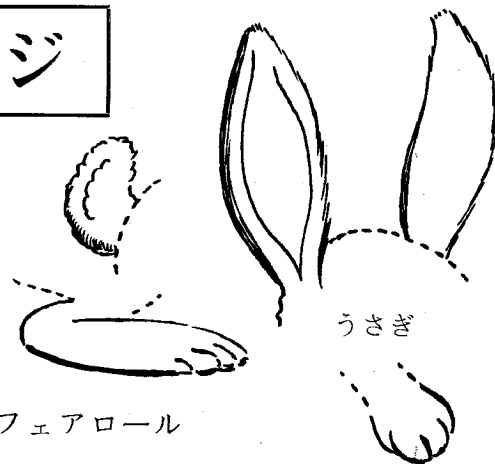
離婚率の増加という大きな問題を正しく解決するためには私たちがイエスを導き手とすることです。イエスは、「結婚は神の定めたるところなり」と言いたもうて、結婚関係が神聖であることを教えておられます。（教義と聖約49：15）最も特殊な状態を除いて、二人は別れるべきではありません。キリストの教会では、個人や社会の進歩のために家庭が非常に大切であると教えられています。「断つことのできない絆でつながれ、どんな言葉にも崩れることのない愛によって結ばれている人たちは、いかに幸福なことでしょうか」聖なる神権の権威によって結び固められる結婚は、家族の関係と同様に、今も永世にも続きます。「だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない」のであります。（マルコ10：9）

私たちが、家庭と結婚の誓約を、より厳粛に真心と祈りをもって考えられるよう、イエス・キリストの御名によって神の祝福を祈り求めます。アーメン。

子供のページ

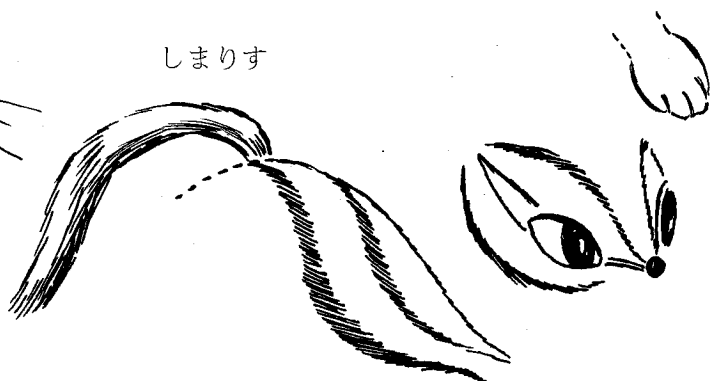
おもしろいえを
かきましょう

ロバート L. フェアロール



うさぎ

しまりす

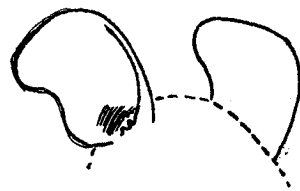


はじめに、りすのチャッピーちゃんをかくと、おともだちの
どうぶつを ぜんぶ かくことが できます。

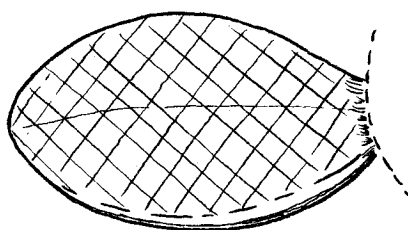
ひだりの えのように、ほねぐみを かいてみましょう。それ
から、このせんを つかって えを かきましょう。つぎに、ほ
かの どうぶつの えを かくために、しっぽや みみや あし
のような こまかいところを かえてみましょう。えを みせる
ために、かいたえを いろのついたかみに はりましょう。



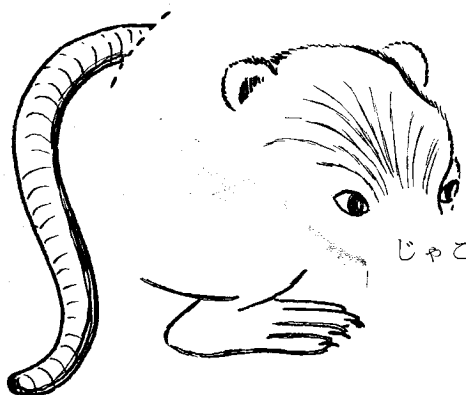
きねずみ



ビーバー



じゃこうねづみ



それぞれの十二使徒の絵には番号がついています。この番号の順に十二使徒が選ばれました。

1968年4月の総大会での説教からの文がありますが、それぞれに番号がついています。だれがそのことばを言ったのか知りたいときは、文と絵の番号を合わせてみて下さい。

「私たちが主の教えのとおり生活し、主の手本を見習い、永遠の生命に通じる主の道に従うことができますように…」(12)

「私は神様が生きてましまして、天と地における最高の力を持っていらっしゃることを知っています。全人類の救い主イエス・キリストの神性を証いたします」(10)

「福音の聖なる儀式を行うべくつかわされている神のまことのしもべはすべて、知っていると話し、見たと証しています」(8)

「キリストの福音は、私たちが正しい道に進むために持つランプであります」(6)

「どんな政治組織も、神への信仰と道徳律(きまり)が存在するという信念の上に確立されなければ、自由を維持することはできないのです」(4)

末日の十二使徒たち

「この教会の指導者の声に耳をかたむけよ。そして正しく彼らの後に従え。もしあなた方が学問だけではなくに、信仰によっても学びたいのならば」(2)

「私はここに集っている人々がすべて、男であれ女であれ、予言者の証を忘れない様にねがっています」(11)

「祈りは、人をけんそんにするものであります」(1)

「信仰を持ちなさい。働き、学び、そして備えをしなさい」(9)

「神は人間に悔改めを許したまい、これを証する我々に、責任にふさわしい力を与えたもうのです」(7)

「主は、主の律法を愛し、その中に生きるすべての者を祝福されるであろう」(3)

「私たちがよろこんで認めるか否かにかかわらず、私たちにとって大切なことは、神に従うことです」(5)

救い主が地上にお住みになられた時、主は十二人を十二使徒として召されました。ここに、今日主の十二使徒として召されている十二人の絵があります。あなたはこれらの人たちの名前を知っているでしょうか。絵の下のあいているところに、それぞれの人の名前を書けますか。



1 ジョセフ フィールドینگ
スミス



5 マーク E. ピーターセン



9 リチャード L. エバンズ



2 ハロルド B. リー



3 スペンサー W. キンボール



4 エズラ タフト ベンソン



6 デルバート L. スティプレー



7 マリオン G. ロムニー



8 リグランド リチャーズ



10 ハワード W. ハンター



11 ゴードン B. ヒンクレイ



12 トーマス S. モンソン

ボールはね

スィリーン S. デイビス

ボールはね、空まで高くはずむんだよ
みんなが幸福で、歌を歌いたいと思う時にね、
小さなボールはどこへでも持って行けるんだ
みんなのポケットの中に押しこんでね
大きなボールは砂浜で遊ぶんだよ
大きな波がきた時には、背中にかくすんだよ
ボールはね、子犬が後を追うんだよ
みんなが緑のしばふの中にボールを投げる時にね、

きれいな赤と青と黄のしまもようのボールはみんな
の一番好きな友だちの誕生日にあげるんだよ

そっと軽い音をたててチリンチリンとなるボールは
こんど生まれた弟や妹やいとこにあげるんだよ

ボールは急な丘をころがりおちるんだよ
そして誰もが後を追いかけて走るんだよ

ボールは石のかべにぶつけると大きな音をたてるん
だよ

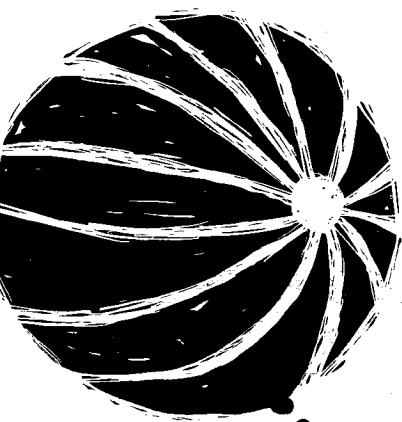
地面にぶつけると静かな音をたてるんだよ

ボールはお腹の上でころがるんだよ
くもやタコのようにして歩くんだよ

ボールは屋根の上に高くあがるんだよ
もう一度下におりてくるまで、皆はじっとまってい
るんだよ

みんなはボールについて
一人でにボールがはずむのをみつめるんだよ

そしてだれかが悲しそうな時にも
誰も遊び相手のいない時にも
その人はみんなにわらいかけようになるんだよ
そしてみんなの後を追いかけて一緒に走るんだよ
そして大きな声で笑い
そしてクスクス笑い
みんなの新しい友だちになるんだよ
だってボールはみんなの一番のお友だちなんだもの



徳を以て

汝の想を飾るべし

デビッド O. マッケイ大管長

(子息デビッド・ローレンス・マッケイによる代読)

愛する神権者のみなさま、よくおいで下さいました。みなさまに、私たちに与えられている偉大な召しについて再びお話できますことを感謝いたします。今夕、開会にあたり各地に集まっておられる大勢の神権者のことを考えるにつけて、その素晴らしい人々の持つ力に圧倒される感がいたします。

今晚神をほめたたえるために集まった幾千という神権者たちが行なうことのできる善きことについて、胸のふくらむ思いがしております。

「世の広き畑には、いやしき地あり
われ其処に主のため、はたらき果てん
主の愛を知りては、すべてをゆだねて
心の誠つくさん み心のままに
主よ、みむねのまま行かん
海、山、野を越え
主よ、みむねのまま言わん
みむねに添いまして」

(讃美歌第100番)

今夕この歌を聞いたみなさまが、あすはきのうよりも良くその歌詞を实践しようと聖い誓いをなされますように。善を行なおうとの決意に伴う五つの徳が、私の心に浮かんでまいります。それをあげてみます。

第一は信仰であります。父なる神を信じる信仰、その御子を信じる信仰、私たちの隣人を信じる信仰であります。

第二は正直であります。幼な児のように誠実なこと、正直は隣人に関わるもので、あらゆる人格の基をなすものです。もし一日中隣人と不正直に交わりながらその一日の終りに祈りを捧げる人がいるならば、「ハムレット」で王が言うように、あなたの言葉は飛ぶが、その心はあとに残るのであります。しかし、正直に交わるならば、主はあなたの言葉を聞きあなたの心からなる思いに答えたもうのです。

第三は忠誠であります。忠誠は素晴らしい原則です。知人の多くは忠誠をつくさないでしょうが、真の友人は忠誠をつ

くします。神権に忠誠をつくしなさい。妻や子供や友に忠誠をつくしなさい。

神権をいただいている男性にこのことを注意いたします。サタンは、一番の弱点につけこんであなたを誘惑しよう、従えようとしています。主に対する奉仕をひきうける前にその弱点によって自らが弱くなる時には、弱点がさらに加えられます。サタンに抵抗しなさい。そうすればあなたは強くなります。サタンは他の点であなたを試みるでしょう。サタンに抵抗しなさい。そうすれば、サタンは弱くなっていき、あなたは強くなります。そしてついにあなたは、何事が起ころうともはっきりこう言えるようになるのです。「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」。(欽定訳ルカ4:8)

私がこう申しあげるのは、神権を受けて大切な責任をいただいている人の中にも、弱点をサタンに試みられている人々があるために、心を痛める教会員が多いからであります。主と誓約を交わしたことを忘れ、徳と分別とを離れる人は、良くない行ないに迷って妻の心を痛めるでしょう。

私たちは家庭の幸福に関して、地上の何ものよりも神聖な誓約を結んでおります。私の声を聞いているあなたの方の中にも、その誓約がいかに神聖であるかを忘れていて人々があるのです。十二使徒の兄弟たち、教会幹部、ステーク部役員の方々が、各地において若い人々に神殿へ行って結婚するよう勧めています。しかし、その誓約を受ける準備ができないうちは、神殿へ行ってはなりません。

神殿結婚は、この世で最もうるわしいことの一つであります。その二人は、人間の魂のうちに存する最も神聖な愛によって、その場へ導かれます。男性は、雪のように清く、陽の光のように汚れなく、母となるにふさわしい乙女、自分の子供の母親となるべき花嫁を、正しく誇らかに見つめます。若い長老の心のなかに、家庭の頭として信頼する女性が、聖衣をつけて誇らかに住まうことは素晴らしいことです。

彼女は、自らが母親たるにふさわしいと同じように、男性が父親たるにふさわしいと信頼します。また、聖なる神権を身にまとして、花嫁とすべての人に自らの価値をあかしする男性を信頼します。

二人は共に主の家に立ち、主のみ前で、お互いやすべての人に対してその日に交わす誓約に忠実であることを、あかしし、誓います。この結婚は、人に与えられる最高の理想であります。神聖なこの誓約が神聖なままで守られるならば、心を痛める妻や夫がはるかに少なくなるでめいしょう。誓約は神聖であります。神殿で結婚した男性には、聖歌隊や扶助協会や管理会などで教会の責任をもって働く若い姉妹たちに目をとめる権利がありません。あなたは妻に誠実であるという誓約を交しているのです。

神権を持つ兄弟たち、その誓約を忠実に守りなさい。

私は、今晚この会に集まった大勢の神権者のみなさまに神の家で交した誓約を忠実に守るよう、乞ひ願います。職場や教会で毎日顔をあわせるためにより魅力的に思える人たちといっしょにいたいと思って、妻をおろそかにする権利を、あなた方は持っていません。人ごとのように思えるかもしれませんが、しかし私はあなたに申しあげます。涙にくれる婦人が私のもとへ来て言いました。「どうか、お祈りをして下さい。夫が私のもとへ戻るようにと、お祈りして下さい」。その問題についておそらく彼女には罪がないことと思います。そのご婦人は自分にもいくらか罪があるとおっしゃいましたが、私はその夫に罪があると思います。なぜならば、彼は神権者であって、誓約を破る権利はないからであります。

神の「みたま」は、他人の家族を破壊するのに手を貸している人には働きかけません。

「人生最大の闘いは、静かな魂の内部で行なわれる闘いがあります。」

親愛なる神権者のみなさま、もう一度、静かに座って自らをみつめて下さい。私にもあなた方にも、毎日、自分との闘いがあります。自分と闘い抜きなさい。そして、まず家族に対する自分の義務を知って、選ぶべき道を決めなさい。家族に不幸をもたらすような状態と、そのような人々を避けなさい。次に、あなたの属する定員会に対して、どんな責任があるかを考えなさい。為すべきどんな責任を負っているかを考え、それを行なえる強さが自分にあるかどうかを考えなさい。また三番目は、その静かな時間に、教会に対する義務を考えなさい。四番目には、隣人に対する責任を考えなさい。

「人生最大の闘いは、静かな魂の内部で行なわれる闘いである」ということを忘れずに、自分の義務がどこにあるかを考えなさい。

あなたがどのような奉仕に召される時にも、このことを指標として覚えていなさい。

「あなたがどのような奉仕に召される時にも、このことを指標として覚えていなさい。」

この言葉は、人を傷つけたり罪悪を行なうことではなく、道徳的に法を守って努力することを言うのです。前にお話したことがあります、私は何年も前、その言葉に感銘を受けました。私が伝道に出たばかりの頃、同僚のピーター G. ジョンストン長老とスコットランドのスターリング城のまわりを歩いていた時でした。その日一日中トラクトをしても冷たくあしらわれるばかりで、ホームシックにもかかっていた私は落胆していました。

私たちが義務を怠って城のまわりを散歩してから再び町へ戻ると、建ちかけの建物がありました。驚いたことに、歩道を歩いていた私の目に、その建物の正面ドアの上の石に刻まれた文字が映りました。私はジョンストン兄弟に、「そばへ行ってあの文字の言葉が見たい」と言いました。

道路を半分もゆかないうちに、その言葉が読めました。そこには「あなたがどのような奉仕に召される時にも、自分の持場をよく努めよ」と刻んでありました。

私は同僚のところへ戻って、その言葉を見て最初に心に浮んだ人はだれだと思いかと聞きました。それは私の母校であるユタ大学の管理人でした。私は授業を教える教授に対してとまったく同じに、深い尊敬を、その管理人に抱いていました。彼は自分の持場をよくつとめていました。彼自身の母校でもあった大学のためにどんなにいっしょうけんめい授業を手伝い、フットボールの服を用意してくれたかを思い出しました。今日にいたるまで、私は彼の謙遜さに深い尊敬を抱いています。あなたはなにものですか。あなたは神の神権を持つ者、どのような召しにあっても神を代表する神聖な権威を持つ者であります。

私は人々と交わることを楽しみとしています。友人と共にいることが好きです。そして、年をとるにつれて、キリストの兄弟愛をもって交わることへの感謝が強くなって行きます。今晚、その気持ちを以前にも増して深く、真心から感じます。

今晚述べられる教えの上に神が祝福を垂れたもうよう、主に仕え、そのいましめを守ろうという固い決意をもって大会の場を去ることができるよう、互いに守りあって、隣人や教会幹部、地方の幹部役員、ステークス部役員、一般の人々を悪く言うことなく、教会を擁護し正しく生活できるように、祈り願います。悪を語るのを避けましょう。悪口や噂話を避けましょう。悪いことを語る人々の心には毒があります。悪口は言われる人よりも言う人の方をもっと損じます。

アメリカ合衆国においては、憲法が個人の自由を保障しています。自由を奪おうとする共産主義者の計画を主がくじきたもうよう、祈りましょう。

私は、三年前の大会の神権会の席上で共産主義に関してお話したことについて、今ここで少し申しあげたいと思います。その神権大会で、憲法を学ぶようにと話したのち、それ

をくつがえそうとする。共産主義を警戒するようにと、こう申しました。

「あらゆる人は政治上自由な見解を持つ権利があると信じそれを尊重する教会は、中立の立場を固く維持しなくてはならない。我々は、憲法のもとに保障されている教会員の選挙の自由をいささかも妨げるつもりはない。主は『この目的のためにわが挙げたる賢き人々の手によりて』この憲法を制したと言っておられる。(教義と聖約 101:80)。また、予言者ジョセフ・スミスは、その原則について、『憲法を永久に確立せしめたまえ』とカートランド神殿献堂の時に祈った。アメリカのこの原則を守ることや、連邦、州の法律のもとにある政体の確立や、それらによって守られる人間の権利について、教会はその信じるところに従っていかなる貢献をも惜しまない。

しかしながら、共産主義の問題に関する、教会の立場は決して変わっていない。共産主義は、平和と栄えとおびやかしの地に生きる人類の間に広まりゆく神のみわざをおびやかす、最も大きなサタンの力であると我々は考える。(インプルーヴメント・エラ1966年6月 P.477)

監督やステーク部長は、さきほど述べたように厳正に中立の立場を保たねばなりませんから、教会員は共産主義の危険を知るためと言って彼らを運動に誘ったり、彼らの地位を通して支持をうながしてはいけません。また、共産主義を奉じる運動によって教会員に考えを押しつけ、会員の間に分裂を引き起こしてはなりません。監督やステーク部長や、教会の指導者たちは、先頭に立ってそのような特定の運動を他の教会員に強いてはなりません。

自由の保障される社会をくつがえそうという、社会的、教育的、政治的な影響力をよく知って警戒することは、教会員の権利であり、義務であります。しかし、私たち教会員の間に分裂をきたすようなやり方でそれを行なうならば、私たちの目的そのもののまでが破壊されてしまうでしょう。

さまざまな問題について異った考え方を持つあらゆる国々から、教会の改宗者が生まれていることを、決して忘れてはなりません。あらゆる国々に住むすべての教会員にキリストの教義を教えて、どの国籍にあろうとも、あらゆる偽りの思想を防ぐことができる力を与えることは、私たちの責任であります。

来年度のメルケゼデク神権テキストには、自由、宗教と国家、共産主義の危険など、福音の深い真理を学ぶために大切な事柄についてのレッスンが含まれています。

それらのレッスンを学ぶ神権者は、全人類を救おうという主の計画に逆って義に対立する数々の力を、もっとよく知るようになるでしょう。

大きな混乱と社会が激変する、この時代にあって、神権を持つ私たち指導者や教会員は、パウロの言った訓戒をいつも

忘れないようにしましょう。

「兄弟たちよ。わたしもまた、あなたがたの所に行ったとき、神のあかしを宣べ伝えるのに、すぐれた言葉や知恵を用いなかった。

なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである」(Iコリント2:1~2)

私たちが真理を守ることを、いえ、それよりもさらに、真理に従って生き、家庭の中で真理をあかしするのを神は助けてまいります。私たちは両親にどのような恩を受けているか、はかり知れません。父親、母親であるあなた方面親は、それと同じ影響を子供に与えていますか。神さまは、最後まで真理に忠実に、必要ならばイエス・キリストの福音に従って死をも恐れなだけの影響を子供たちに及ぼす力を、あなた方に与えておられます。その福音は、世の贖い主、愛する御子イエス・キリストと共に予言者ジョセフ・スミスに現わったもうた、私たちの父なる神を讃美する福音であります。御二方はこの神権時代に御自身を啓示したまい、そのみわざは確立されて、もはや決して取り去られたり他の人々の手に渡ったりはしないのです。

サタンは依然として勝利をねらい、その手下たちは今日、いまだかつてなかったほどの力を得ております。合理的なように見えて、しかしその実、罪悪であるイデオロギーの状態、厳しい状態にであう時の備えを為しなさい。それらの力に対抗するために、私たちは、授けられている聖なる「みたま」のささやきに頼らなくてはなりません。「みたま」は真実であります。

神はこの教会を導いておられます。教会に誠をもって従い忠実でありなさい。家族に誠をもち忠実でありなさい。子供たちを守りなさい。独善ではなく模範たる父親として親切に子供を導きなさい。あなたの生活や家庭で神権を行使することによって、教会に寄与しなさい。

終りにあたって、私が軍隊で働く人々の犠牲をいつも心にとめていることを、みなさまに知っていただきたいと思います。彼らが誘惑に対抗する力を得、模範的な生活を通して人々に証を伝えることができますように。

神は日々彼らの訪れを受け入れる人々を求めて働く宣教師を祝福しておられます。宣教師たちが悪の手に対抗して、神の王国建設のために働くことの僕となり得ますように。主のみわざを推し進めるあなた方すべてに祝福がありますように。そして、このみわざがますます広まって、その神聖な目的が達せられますように。兄弟たち、あなたの召しに忠実でありなさい。そうすれば、主はあなたを祝福し、高め強めて下さいます。

この偉大なみわざがまことであることを。イエス・キリストの御名によって証しいたします。アーメン。

勇気ある若者と真の雄々しさが 求められる時代

デビッド O. マッケイ 大管長

(子息ロバート R. マッケイによる代読)

愛する兄弟姉妹のみなさま、この教会年次大会の閉会に際して、私の心は、この三日間に開かれた集会の中にあった兄弟愛と素晴らしいスピリットとに対する感謝にあふれております。

この場におられる方も各地で聞き入る方も、出席したすべての人々は、より良い人間になろう、前より良い市民、国民になろうという決意と望みを抱いて大会を去ることでしょう。私は、それらの人々の思いに感銘を受けております。

しかしながら、この大会に集った方々には、人々の間でより良い生活をするという責任がさらに加えられたのであります。私たちは個人として、高貴な思いを心に抱かなくてはなりません。いやしい思いや低俗な望みを抱いてはなりません。もしそうであるなら、それらの思いは私たちの表ににじみ出て、他の人たちに影響するでしょう。高貴な思想や望みを心に育むならば、私たちが人に会い交わる時にそれらの思いはそのままにじみ出ます。

あらゆる人はみな、自分の人となりを放射しています。すべての人はそれを受けています。救い主はそのことを知っておいででした。救い主が人の前に出られる時は、それが過去を持つサマリヤの女であっても、石で打たれようとしている女や、政治家のニコデモや、らい病患者であっても、いつもその人から放射されるものを感じとっておられました。キリストが一人一人から放射されるものに気づかれたように、あなた方も私も人から放射されるその人となりをかなり感じ取っています。私たちは、自分の人となりと自分の放射するもので、まわりの人々に影響を与えているのです。

個人だけではなく、家庭についてもそのことが言えます。家庭における行ないやそこでかわす言葉から出るもので、家庭は私たちの人となりを外に放射しています。教会員である男性は、家庭において汚ない言葉でののしったり、妻や子供

に怒りの言葉をあびせる権利を持っていません。神権を受け内なる「みたま」に忠実な者としてのあなたは、召しと責任において、それらのことを許されません。感情やきげんをコントロールし、言葉に気をつけなさい。あなたは自分の人格によって理想の家庭作りに貢献するのです。なぜならば、それらのことによって家庭はあるべき姿に作りあげられるのであり、その姿は隣人に放射されるからであります。どんな困難にあおうとも、平和と調和を作り出すためにできることを行ないなさい。

まことの己れに忠実な人は真理に逆らって偽りを言いません。すべての人の心には神聖なものが存在しております。内なる神性に忠誠を尽す人は、主と隣人に対して誠実を尽す人であり、正しいと知っていることに不誠実な人は揺れ動く弱い人であり、その人は神聖な存在からはずれて光を失い、悲しみや災いにあうでしょう。

私たちは、イエス・キリストの福音を持って、悪と罪に対抗して立ちあがると世に宣言しております。

私たちは人を喜ばすために主張をやめるでしょうか。心からの奉仕でなく口先だけの奉仕を望んで、その主張をやめるでしょうか。いいえ、違います。私たちは己れに忠実に、私たちの内に存在する聖なるものに忠実に、与えられた真理に忠実に立ちあがります。私たちは、まわりをかこむ悪に、悲惨と絶望の暗やみへ教会の若人を連れ去ることを許してはならないことを知らねばなりません。私たちを誘惑しようとする人々の間に入ることは、死に自らをまかすことです。

私たちは、人が二元の存在であることを知っています。人間は動物が持っていると同様な欲求、感情を持つ肉の存在であります。しかしそれと同時に、人間は霊的な存在でもあり、動物本能に打ち勝つことが霊的な分野で進歩することであると知っております。霊性の実在を否定して肉体の欲や感情だ

けに従う人は、動物の世界に生きているのです。人は霊的な存在者であります。真実の生命とは、肉体の中に住まう霊であります。人は神の子であって、神の子たるべく崇高な者となることを望みあこがれる心を内に宿しているのです。人を低落させることなく、その尊厳さを高めることが今大会で強調されてきました。

世界を動かしてきた人は、みな、ペテロ、ヤコブ、パウロなどの古代の使徒たちのように良心を忠実に固く守った人々であります。ニューヨーク州パルマイラの宗教指導者たちが聖なる森で神と御子を見、み声を聞いたということのために少年ジョセフ・スミスを迫害した時、ジョセフ・スミスは胸のうちに主イエスに対する証を抱いて言いました。「私は示現を受けたのであるからそれが事実であることを身を以て知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれを打ち消すことはできなかった。また敢て打ち消そうともしなかった。……」(ジョセフ・スミスの著 2:25)

ジョセフ・スミスは最後まで自らの証に忠実でした。伊利ノイ州カーセージで殉教する前に、彼は共にいた人々に言いました。「われは、今はふり場に引かるる子羊の如く行く。されど、わが心は夏の朝の如くに穏かなり。わが良心は神に對しましたすべての人に対しいささかの咎めもなし」。(教会歴史記録第6巻 P.555) ジョセフ・スミスは、自らの証に忠実に、真に男らしく生きました。彼は真実の勇氣を持っていました。

それが、真理を守る際に真の教会員の持つべき雄々しさです。それが、同じ真理をもって教会の若人を導く召しに働く時に、私たち全員が必要とする雄々しさなのです。私たちが国の歴史、世界の歴史の中のこの危機の時代に存在する偽りや悪と闘う時に必要とするものは、その真理であります。

真の雄々しさと行ないを示して神によしとされるその一つが、私たちの理想を守り抜く勇氣であります。今は、現代の病弊の万能薬として登場する感わしの理論に流されることなく、あわてずにしっかりと錨につながっていないときではない時です。時代は、道德の標準を高く掲げる勇氣ある若者を必要としております。そこに、私たちは最も真実な勇氣を見出すのです。

最も偉大な英雄は、書物でよく読むように戦場で見出されるところではありません。家庭の中にも英雄を見出します。それは、若人の力を正しく生かし、その精神を弱めると言うことには敢然と対抗しそれを非難する青年男女であります。

この狂気のような時代に対して、教会はどのような警告を発しているのでしょうか。それは富める人も貧しい人も、強い人も弱い人も、学問のある人もない人も、あらゆる人に対する言葉であります。教会は、神が宇宙を統べたもうただ一人の御方であるばかりでなく、いかにいやしい者でも一人一人をいつも見守り導く愛の神、正義の神にましまして、私たちの御父であると、宣言しております。教会は完全な組織によって、すべての人々に奉仕し導きを与えています。それは卓

越して社会的な宗教であります。世から人を取り去るのではなく、神権定員会や補助組織を通して、社会の中に生きる人間をより完全な神に似る者と為し、彼らによって社会の問題を解決せしめようと努める宗教であります。

人類の救い主が教えたもう原則は、すべてが人類の進歩成長と幸福のための教えであります。その教えの一つ一つが、まことの人生哲学に触れるものです。私は心よりその教えを受け入れております。救い主の教えを学び、教えることは私の喜びです。回復された教会のすべての面は、人類家族の福祉に役立つのです。

私は若い方々に、勇氣をもって、イエス・キリストの福音と道德を守りなさいと申します。世は道德面の英雄を求めています。人生で最も大切なことは、この世の世界で見出される発見ではなく、道德の価値と霊的な価値の存在を信じる信念なのであります。「たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、何の得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか」(マタイ 16:26) すべてはこの言葉に尽きます。

イエス・キリストの真理の福音が最後に勝利をおさめることを信じなくては、私たちが神の子供であることと神が存在しておられることを誠をもって信じることはできません。私たちがそのことを信じるならば、現在の文化や世界の荒廢に心をわずらうことが少なくなるでしょう。なぜならば、神はもはや取り去られたり、他の人の手に渡ったりはしない教会を打ち建てたもうたからであります。神は生きておられ、その民は神やお互いに対して忠実でありますから、終局において真理が勝利をおさめることについて、思いわずらう必要はないのです。

若い男女のみなさま、その証を自分に持つならば、あたかも弾丸も矢も通さない不思議なよろいを身につけたかのように、中傷と虚偽と悪風の暗い谷間をも勇敢に進み行くことができます。目には一片の恐れもなく毅然として、頭を高くあげることができます。誇り高く健康に輝いた肉体に活気あふれる血が脈うつ時、あなたは自分の体内にさらに健全な世界が開けるのを感じることができます。あなたはすべてが終りには良きものとなることを知るでしょう。強い日光の前には闇が消えてゆくように、偉大な真理の光の前ではすべてが逃げ去ります。

真理を、導き手、伴侶となし、靈感を与える味方とする時に、私たちは無限なる神と親しくあることを知ってふるい立ち、ささいな苦勞や悲しみや人生の試練は、何ら害するところのない一時の夢のように過ぎ去って行きます。

十字架にかけられた主が墓からよみがえりたもうたことを思い起こすきょう、私はみなさまと全世界の人々に、末日聖徒イエス・キリスト教会は、復活が実際にあったのみならずそれは地上におけるキリストの神聖な使命を完成するものであったと信じていることを証しいたします。

キリストが死後も生きておりたもうこと、全人類もそのよ

うに生きて、各々は次の世において自分に最もふさわしい場所を受けることを、私は心の奥底より、確かに知っております。

私は、神が体を持つ御方であって、祈りによってみそばに近づき、答えを受けることのできる私たちの御父にましますことを、子供の時から変らずに知っております。神が信仰による祈りを聞いたもうことを知るのには、人生で最も価値ある経験の一つであると思います。私たちの祈りに対する答えは、いつもすぐに直接自分が考えているような形でやって来るとは限りません。しかし、答えは来ます。願う人のために最も良い形で、最も良い時に、祈りの答えは来ます。

しかしながら、私の願いが聞きとどけられて、すぐに直接に確信を得られた時も数多くあります。特にある時などは、あたかも天父が私のかたわらに立って話しかけたもうようにはっきりと答えが来ました。それらの経験は私の一部となってこれからも記憶と英知の続く限り永久に心にとどまるに違いありません。世の救い主は、私にとって本当にごく身近かに感じられます。神が御父であることを、これほどまでに深く感じたことは、いまだかつてありません。神は触知できない力ではなく、この世に道徳を教える力でもなく、創造の能力を有し体を持ちたもう御方、世の統治者、私たち人間の導き手であります。あらゆる人々、特に教会の若い方々に、天の御父を身近かに感じて公の時だけでなく、一人の時にも日々、天父に近づいていただきたいと思います。教会員がその信仰を持つならば、いただく祝福は大きく豊かなものです。人々の心は神が為したもうことへの感謝であふれ、恵みを豊かに授けられていることに気づくでしょう。私たちが神に近づくことができ、神から光と導きを受けることができるのは、事実確かなことです。私たちの心が照らされて、「みたま」に感動するのは確かであります。

神は教会幹部を祝福したまい、私たちは今大会において靈感到満ちた話を聞くことができました。彼らは、回復された

福音の真実なこと、父なる神と御子イエス・キリストがこの末の日に予言者ジョセフ・スミスに現われたもうたこと、完全な福音が地上に回復されたことを証しました。

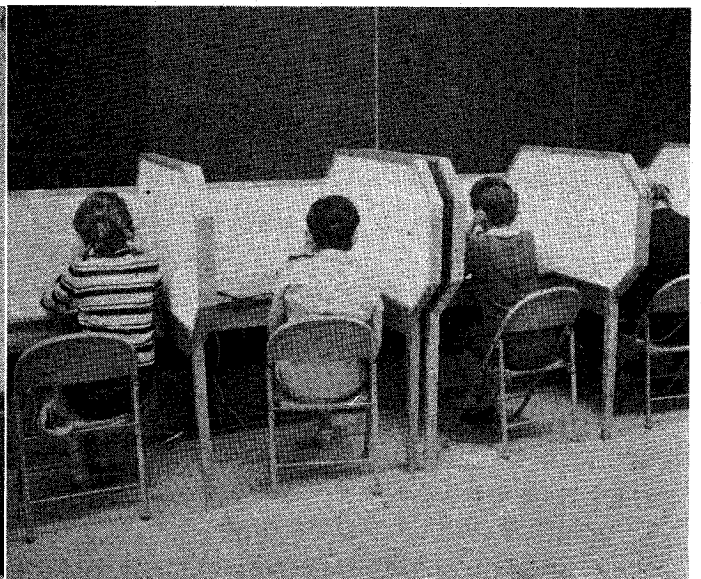
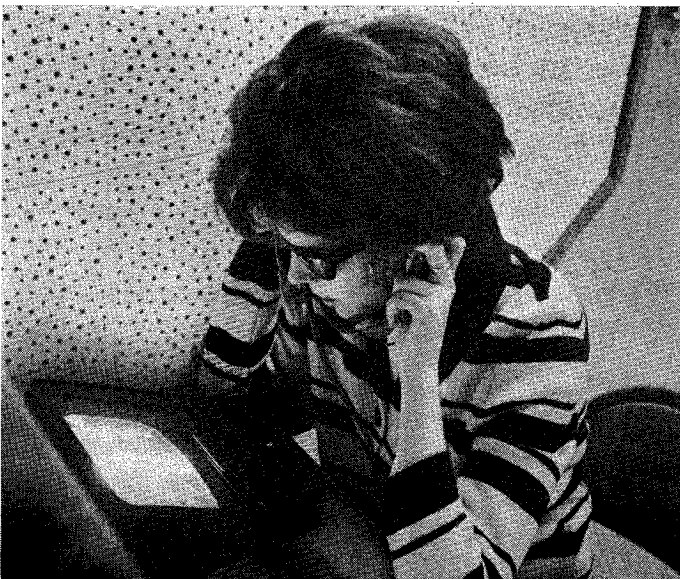
私たちは、世界中の各地で働く宣教師や伝道部長会に挨拶と祝福を送ります。あなた方の献身的な奉仕に深く感謝しております。

各地にあって国のために奉仕する教会の若人を、神が祝福したもうように。あなた方一人一人に信頼の言葉と挨拶を送り、あわせてあなたに申します。道徳的に己れを清く保ちなさい。軍人や水兵であることで、無作法や不節制や不道徳を許されはしません。戦争のひどい状態で他の人々は衝動にかられてそれらのことを為すかもしれません。しかし、神より与えられた神権を持つあなた方教会員には、それらを行なって罰を逃れるすべはありません。あなた自身の生活を美しく保つために、そしてあなたを信頼する人々のために、自らを汚れなく保ちなさい。あなた方一人一人の上に、神のみ守りと導きがあるようお祈りいたします。

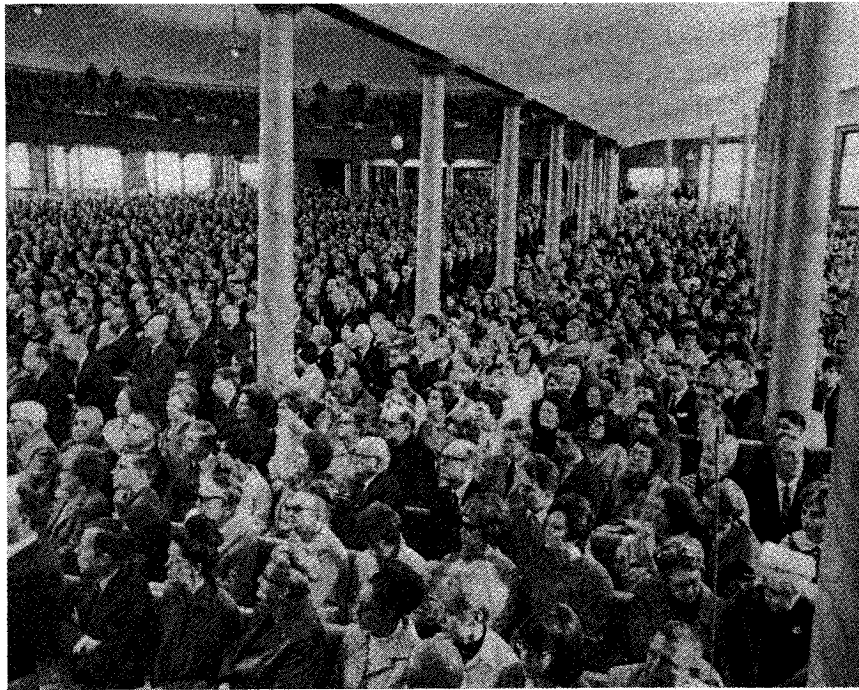
愛する兄弟姉妹のみなさま、共に働く方々、私は主が与えたもう力のすべてを尽してあなた方一人一人を祝福し、あなた方が今のこの時から、神の導きのもとにより忠実に、義務を行なおうという決意を新たにできますよう、お祈りいたします。

私の心は、あなた方の奉仕と、ここに出席されたことと、この機会にみなさまと交わる特権にあづかったことに対する感謝でいっぱいであります。私のためにして下さるみなさまの祈りと真心からの支持を感謝いたします。この福音は、私たちが自制と克己によって誘惑の多い古い世を越えて、今ものちの世にも真実である霊の中に生きるための機会を与えています。

神があなた方一人一人の生活と、あなたの家庭と、教会活動を祝福したもうて、キリストのために己れを失うすべての人に安らぎを与えたもうよう、主なる救い主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。



万人の福音



大管長会第一副管長

ヒュー B. ブラウン

ペテロ第一の2章9節に記録されているように、使徒ペテロは、聖徒達に宛てた書簡で次のように述べています。「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民神につける民である」Ⅰペテロ2：9（しかし、あなたがたは選ばれた世代、権威ある神権者、聖なる国民、特別な民である。〔欽定訳〕）

この特性は今日の聖徒にあてはまるものであると衆目の一致を見るか否かは別として、少くとも我々が良い意味において特別な民であることは、ほとんどの人が認めるに違いありません。とは言っても、我々を異なった民だと言う人がほとんどかも知れません。しばらくの間、私はこの違いについて考察し述べてみたいと思います。

国家と国民の間に存する対立は、互いの無理解という事実によって由来するものであります。

ここで「理解もなく」という詩を引用しましょう。

年が移り行く毎に
罪と見做されるほど
美德に誤った考えを抱き
それに固執する。
かくて、人は理解もなく起ちて倒れ
生きて死す

神よ、人にわずかながらの
光明を与え給え、
人が理解し得ぬものを
裁かせたもうな。

神よ、人を互に近づかしめ、
汝に近づかしめたまえ
かつ、理解せしめたまえ」

（トーマス・ブラッケン著、ハルシアンハウス「インスピレーション」より1928年 P.188）

私は、これから神の父たること、人の兄弟たることという2つの主題について述べてみます。聖典には、永遠の生命とは神とその遣わしたまいイエス・キリストを知ることであると記されています。

人について、ダビデと同じ質問をしてみましょう。「人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか。人の子は何者なので、これを顧みられるのですか」（詩篇8：4）さらに、関連した質問をします。「神と人はどんな関係にあるのでしょうか」

ジェームス E. タルメージ博士はこの点に関して、要約した答を述べています。

「この限り無き気高さを持つ人間は何者なのか。私は知る限りの事実に基き、この質問に答えてみたい。人間は、宇宙のいかなる惑星、太陽よりも神の目には偉大で重大で高価なものである。すべては人間のために創造された。宇宙の万物は神の手により創造された。人間は神の子であり、わずかながらこの世界で統治する権限を与えられている。統治権を拡大することが人間に与えられた特権である。諸天は神の栄光を表わし、大空はみ手のわざを示す。地球および宇宙の創造物は我々の想像を絶する雄大なものであり、しかも、それらは次のように宜うた創造主の言葉にある、いと高き目的を人間が認めるための手段として存在し、かつ必要なものである。『見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり』」

次に神に関して話し、教えられ、信じられてきたことに簡単な検討を加えてみましょう。

19世紀初頭、神は義を愛し、邪悪を忌みたまうこと、愛と嫌悪は当然感情であるのに、神は霊であり、形無く、体を有せず、部分無く、感情無き存在であると信じられていました。

聖典には神は、自分の形に人を創造されたと教えられているにもかかわらず、形無き存在であると主張していたのです。実際、使徒パウロは、イエス・キリストは神の本質の真の姿であると述べています。それでは我々は無形の存在の形に創造されたのでしょうか。

神は決して抽象的概念ではないと我々は主張しています。神は概念でも、極めて抽象的な原則でも、人格の無い勢力や力でもありません。神は形を持ちたまひ、生きたもう御方があります。不完全である人間は神の神秘をすべて知ることはできません。しかし、神が我々に似ておりたまうことは知ることができます。なぜなら、神は御子イエス・キリストの神聖な人格に託して我々に啓示したもうたからであります。実に神は我々の父なのであります。

神が自分の形に人を創造された時、自らの形を失なわれたわけではありませんでした。神は今もなお人の形をしたまい、我々の崇める聖められた完全な体を有したもうのです。聖典は首尾一貫して、御父と御子は別個の方であると述べています。古代の聖典および予言者が主張した教義すなわち人

は神の形に創造され、神は意識、意志、慈悲、公正といった人間の持つ性質を有したもうお方であることを我々は再確認しています。言い換えれば、神は昇栄し、完全になり、栄光化されたお方なのであります。

故ブリガム H. ロバーツ七十人最高評議員は、その晩年の書物で、福音の原則に関し述べています。それを引用して解釈してみます。

前世、現世、来世の人間に関して、靈感を受けていない人の教えと信条では、人の体は神により創造されたが、人の存在の起源は地球であると教えている。肉体が創造される前あらゆる人々は英知として存在していた。英知とは、創造されしにあらず、また造られしにあらず、実にかかるべきものにあらざるなり、我々が霊もしくは靈魂と呼ぶ英知は、創造された存在でなく、永遠の存在であり、独立して存在するものである。かように、人は、神聖かつ永遠の資質を備えているのである。

末日聖徒イエス・キリスト教会（モルモン教会）は、啓示の岩の上に建てられた、ひときわ高く、予言者を有し、靈感を受けた教会であると主張しています。当教会は、人に不死不滅と永遠の生命をもたらすという神の目的に貢献するよう人を召します。これは神聖な協力であり、全ての人ができることであります。これは、「人の兄弟たること」の意味を増し加えるものであり、単なる人生哲学ではなく、前世、現世、来世の神の御計画または青写真であります。

福音は、人に永遠の進歩をもたらす終りなき教育機構であります。事実、教育は我が宗教の一部であります。我々は、神の栄光は英知なりと信じています。

主は言われています。「またわれ汝らに一つの誠命を与う。すなわち汝ら互いにこの王国の教義を教ゆべし」（教義と聖約88：77）

ここで、質問をしたいと思います。神と人の間に交通はあるのでしょうか、またかつてあったのでしょうか。もし、かつてあったなら、なぜ今はないのでしょうか。

これは啓示の問題におきかえることができます。

19世紀初期のほとんどすべてのキリスト教会には神から啓示を与えられ、天使が訪れて知識を与え、天父の御意を述べることのできる予言者と呼ばれる人が人々の間にいた時代はあったが、伝え聞くところによれば、それらすべてはすでに終っているという考えが流布していました。

古えにおいて、絶えざる啓示があったという信仰は万人に受け入れられたものであったようですが、正統派のキリスト教会は、現在では啓示はあり得ず、キリストの十字架上の死と使徒達の死以来啓示は無く、将来にわたっても啓示を与えられることは無く、聖典は完成され他の聖典は出現せず、閉じられて、天使は無く、天の開かれることは無く、神に話をする権限を与えられた人はいないと主張し続けています。これらすべてはすでに終ったと主張するのであります。

聖典には、幾人かの予言者が神と顔を合わせて話をしたことが記されています。(出エジプト33:11)たとえば、出エジプト記に、モーセは、あたかも人がその友と顔を合わせて話をするように神と顔を合わせたと言われています。出エジプトの3章6節で主は述べられた。「わたしは、あなたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」教会は、イエス・キリスト御自身を隅のかしら石として、神より靈感を受けた使徒たちや予言者たちという土台の上に建てられていると主張しています。

一般に、我々が予言者と言うと、心の中では、将来の出来事を予言する者、これから起こるであろう事を予告する者と考えます。事実、それは予言者の職務の一部であり、予言者に期待されていることの一部であります。しかし、予言者は本来人々の教師であり、神につける事を解説する者であるべきなのです。全能者の靈感が必ず予言者に与えられ、それによって予言者は理解し、それをその時代の人々と将来の世代に恐れず述べるに違いありません。予言者は、他人に見させる聖見者であり、人々に導きを与え、時代に光を与えるため神より遣わされた教師であります。これは予言者の基本的な職務であります。

我々は、聖書の教えに基づき、アダムからキリストが地上に居りたまう時まで、すべての福音の神権時代に天から啓示が与えられたことは、決して異常なことではないと言明します。紀元一世紀の初期より、背教のため一時代啓示が無かったことを認めます。末日聖徒イエス・キリスト教会の設立者は、神から、偉大で、人間の力の及ばないような啓示を受けたことを言明いたします。事実、彼は御父と御子の訪れを受け目のあたりに見たのであります。そして、その後、天使が現われたのです。

すべての人には、活動し、支配する特有の本質もしくは霊というその人自身が存在しています。鈍いものであるかあるいは輝けるものであるか、わずかであるかあるいは巨大であるか、純粋であるかあるいは汚れているか、この霊は、目で見、声で語り、人それぞれに特有な形で現われます。これを我々は人格と呼びます。

人の救いに関して、神は自らの意志により、ある人々、天使をその行った善悪あるいは行い得る善悪にかかわらず、永遠の地獄へおとし、ある人々には永遠の生命と栄光を与えるよう前もって運命を決めたもうた、それは人々の運命が神の律法により決められているからであると教えている人々がいます。神が救おうとなさる者に対しては、神はいやおうなしの慈悲により救いに導き、地獄へおとそうとなさる者は、たとえどんなにものがろうとものができることができないというのであります。祈りは救いと何ら関係無く、従順は罰を和らげることができず、義に飢え渴くことが祝福と、無関係なのであります。定められた者は、永遠に死ぬしかないのであります。キリストを知らずに死んだ者、たとえば異教の民は、地獄におとされるしかない、とこの信条を解説した人は言い

ました。

またある人々は、キリスト教の洗礼を受けずに幼児期に死んだ子供は、終り無き地獄へおとされねばならないと説いています。ある人々は、洗礼を受けずに死んだ子供を聖別した地に埋葬することを拒否しています。事実「地獄の半エーカー」という特別の埋葬場所がある墓地が存在しています。我々は謙遜に、しかしながらはっきりと、キリストの贖いによりもたらされた永遠かつ啓示された真理、すなわちすべての人は福音の律法と儀式に従うことにより救われ得ることを言明しています。

ここで、救いという言葉と地獄に落ちるという言葉の意味について触れましょう。古えの時代、一部は今日でも続いています、この二つの言葉は天へ到達することと地獄へ定められることを意味すると教えられていました。前者すなわち天へ到達することとは、時と空間を超越した神秘的な無限の状態のどこかへ到達することであり、後者は、多くの人々が定められるところであるが、終り無き苦悶と永遠の苦痛の場所であるのです。

もし、人がわずかの差で天に到達したら、天使や最も聖き聖徒の享受しているあらゆる歓喜に与ることができると信じられていました。もし、わずかの差で天に到達できなかったら、逃れることのできない永遠の苦しみを受け、極悪人や卑しい悪魔と共に耐えねばならないのです。

一方では皆等しく栄光を受け、一方では皆等しく厳しい罰を受けるという、天へ到達することと地獄へ定められることの教義に対し、我々は公平な神は、全人類の来世には段階的な状態を用意したもうたということを断言しております。

この点に関して、回復された教会は、使徒パウロの言葉にのっとり、教えています。すなわち、人が住む多くの栄光の王国があり、各人の英知の性質、素質、程度に適した範囲があるのであります。パウロは、日の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光がある、人は来世で各栄光に住み、天の星の輝きが違うように、人も、その英知、知識、経験、獲得したもの、傾向、熱望の違いに応じて、限り無き種類のある場所と状態に住まうのであると教えています。

ルカ伝10章には「思いをつくし……主なるあなたの神を愛せよ」と記されています。これはキリストの戒めの一部でしかありませんがよく記事や話で強調されます。我々は精神をつくし、心をつくして神を愛することの必要性をよく耳にします。しかし、キリストが思いを含めて教えたもうたことには目的があるのです。人の抱く神に対する概念は、精神の限界から来るものでなければなりません。すなわち、英知の程度により決定されるのであります。人はその理性により、神に彼自身の最も高貴な理想を託すのであります。そして、彼が熱心で信仰厚い人なら、その理想はさらに高まるのです。知的活動は人を常に変えます。それは、神に対する概念が常に高められるからであります。人の思いは、いったん神の概念を理解すると、吸収し、喜びを満面に表わし、崇め、努力し

たいと燃え、熱し求めるであります。人が考えるこの神への愛は、精神と心から神を愛する気持が伴えば、救いに通じる道を照らすでしょう。主は、神への愛と隣人に対する愛をすべての戒めのうちで最も高い戒めとされました。

すべての教会員は福音の原則を理解し、受け入れています。そのうち最も高いものは、主イエス・キリストへの信仰であります。

我々は、救いにかかわる儀式を受け、完成への道を歩まねばなりません。救いは、永遠にわたって知識を求めることです。人は無知にしては救われません。救いは人生哲学以上のものであり、前世、現世、来世の神の御計画または青写真なのであります。

イエス・キリストの福音は、啓示を受け、人にチャレンジを与える宗教であり、人に不死不滅と永遠の生命をもたらす

ため、すべての人が神と共に働くよう召しています。

イエス・キリストの福音は、単に過ぎ去った古えの世界に属するものでなく、現在、真実である力強い力なのであります。それは、我々の生活に意味と目的を持たせる力であります。

確かに、いろいろな意味で我々は特別な民であり、異った民であります。我々は他の人々より良い人だとは主張しません。我々自身の違いがあり、困難があり、死すべき人間であります。しかしながら、我々には使命があることを明言します。したがって、全世界の人々にイエス・キリストの回復された福音のおとずれを知らせるため、広範囲な宣教師制度があります。私は、そのおとずれが真理であることを、へりくだってイエス・キリストの御名により証しいたします。

アーメン。





救い主の

復活の証拠

大管長会第二副管長

N. エル ド ン タ ナ ー

私は、大管長会、12使徒評議員会、その他の教会幹部を代表して、ラジオ、テレビを通して参加していらっしゃる皆様を、このうるわしい復活祭の朝に由緒あるタバナクルに心からお迎えしたいと思います。

私たちは今日、死すべき人間の歴史に起こった最も偉大な出来事を記念するのです。それは、私たちの主、救い主であり、神の御子、世の造り主であるイエス・キリストの復活です。主は私たちに御自身の命を与えるためにこの世に来て、よみがえられました。

キリストが死よりよみがえられたことにより、すべての人類の墓よりの復活が確かなものとなり、人に天父の御許にたち返る機会が与えられました。そうです、アダムとイヴの息子、娘たちはすべて、死からよみがえり、復活するのです。そして各人の備えに応じた栄えを受けます。

誕生、生命、死そして私たちの主、救い主の御言葉は、旧約聖書、新約聖書、私たちの末日の聖典であるモルモン経、教義と聖約、高価なる真珠などの、すべての聖典の中心となるテーマです。主の御言葉なくして、何が聖典といえましょうか？すべて主の御言葉以外のことは、その意味と目的を失い、無用のものとなってしまいます。

予言者ジョセフ・スミスは言いました。

「私たちの宗教の根本となる信条は、十二使徒及び予言者たちの、イエスが死に、葬むられ、3日目によみがえり、そして天に昇られたという証である。他の事柄で私たちの宗教に関することはすべて、その信条の添えものにすぎない」（教会歴史記録第3巻 P. 30）

事実、贖い主の偉大な御言葉がなかったら、私たちは目的を失い、寄りどころや希望がなくなってしまいます。

キリスト教の世界では、キリスト教の源である救い主の十字架上のはりつけと復活を記念するので、私はこの最も重要な機会に、予言とその出来事のいくつかを再び考えてみたいと思います。

救い主が十字架上にはりつけになる数世紀前、ダビデ王は言いました。

「……悪を行う者の群れがわたしを囲んで、わたしの手と足を刺し貫いた。

彼らは互にわたしの衣服を分け、わたしの着物をくじ引にする」（詩篇22：16、18）

イザヤも数世紀前に言っています。

「……これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、……しかも彼は多くの人の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。」（イザヤ 53：12）

キリストが降誕するずっと以前に、アルマは尋ねられました。

「アミュレクが死者の復活について語り、善人も悪人も人は皆死からよみがえって、それぞれの行いに応じて裁判を受けるために神の御前に引き出されると言ったのはどう言うことであるか」(アルマ 12:8)

この質問の後の話で、アルマは説明しました。「……人々の霊と体とが再び相合することを言う……」(アルマ40:18)

イエスはまた御自身の死と復活の時にについて予言して、再び使命を述べられました。マタイ、マルコ、ルカ、そしてヨハネは次のようにイエスの言葉を記録しています。

「わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは世の命のために与えるわたしの肉である」(ヨハネ 6:51)

また「……イエスが弟子たちに教えて『人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえらるであろう』と言っておられたからである。

しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた」(マルコ 9:31~32)

しかし、キリストは御自身に与えられた使命の目的とこれから起こる事柄をよく知っておられました。そして時が近づくにつれて、非常に心が騒ぎました。時に追いつめられているように感じて、キリストは祈られました。

「……父よ、この時からわたしをお救い下さい。しかし、わたしはこのために、この時に至ったのです。父よ、み名があがめられますように。」すると天から声があった、「わたしはすでに栄光をあらわした。そして、更にそれをあらわすであろう」(ヨハネ 12:27~28)

キリストが過ぎ越しの祝いに使徒たちと共にいた時、何が起きたかを考えてみましょう。

「そして、一同が席について食事をしているとき言われた、『特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている』、弟子たちは心配して、ひとりびとり、『まさかわたしではないでしょう』と言い出した。イエスは言われた「十二人の中のひとりで、わたしと一緒に同じ鉢にパンをひたしている者が、それである。」(マルコ 14:18~20)

この後、彼らはオリブ山へ出かけて行き、それから、ゲッセマネという所に来ました。使徒たちをそこへ残して、ペテロ、ヤコブ、ヨハネを連れて行かれ、彼らに言われました。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていないさい」そして少し進んで行き、地にひれ伏し、もしできることなら、この時を過ぎ去らせてくださるようにと祈りつけ、そして言われた、「父よ、あなたは、で

きないこととはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」(マルコ 14:34~36)

イエスがペテロ、ヤコブ、ヨハネのところへ戻って来ると彼らは何が起きたかまったく知らずに、眠っていました。イエスは彼らから二度三度と離れて行って同じ言葉で祈りました。しかし、イエスが戻って来るたびに、彼らは眠っていました。三度目に戻って来て、まだ眠っているのを見たイエスは言われました、「まだ眠っているのか、休んでいるのか。……時が来た。……」(マルコ 14:41) どんなにか、イエスは孤独だったことでしょう。

この後すぐに、イスカリオテのユダが、自分の主に接吻をしながら裏切るのでした。イエスがどのようにして、大祭司のもとに連れていかれ、そこでどのように偽証をたてられたか私たちはよく知っています。しかし、そこでなされた証言は皆一致しなかったのです。イエスが自分は神の御子イエス・キリストであると答えると、彼らはイエスをあざけり、つばをかけ、また、打ちたたいて、「言いあててみよ」と言いました。「……すると、彼らは皆、イエスを死に当るものと断定した。」(マルコ14:64)

ユダヤでは議会で死刑に処することができなかったので、イエスはピラトのところへ連れて行かれました。ピラトはイエスにいろいろ尋ねた後で言いました。「わたしはこの人になんの罪もみとめない。」(ルカ 23:4) すると、群衆はイエスを十字架につけるように要求しました。イエスがガリラヤ人であると知って、ピラトはイエスをヘロデのところへ送りましたが、ヘロデもイエスに何らの罪も認めることができず、送りかえして来ました。ピラトは再びイエスを調べました。少くとも三度、殺人の罪を犯したバラバのかわりにイエスをゆるしてやるようにピラトは群衆に言いましたが、そのたびに彼らは「……バラバをゆるしてくれ」と言い、イエスについて尋ねると、「彼を十字架につけよ」(ルカ 23:18, 21) と叫びました。

ピラトがついに水を取り、「群衆の前で手を洗って言いました。『この人の血について、わたしには責任がない。おまえたちが自分で始末をするがよい』すると、民衆全体が答えて言った、『その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にいかかってよい。』」(マタイ 27:24~25) こう書かれているところはとても興味が引かれます。

十字架にはりつけにされるために引き出された時、イエスはむちで打たれ、いばらの冠をかぶらせられました。十字架につけられた救い主は、苦しみの中からも神のような口調で叫びました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」

また十字架につけられている時に、慈悲を願う犯罪人の一人に、この重大な宣言をしたのです。「あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」(ルカ 23:43)

イエスが墓の中に横たわっている間に、祭司長パリサイ人たちはピラトのもとに集まって言いました、「長官、あの偽り者がまだ生きていたとき、『三日の後に自分はよみがえる』と言ったのを思い出しました。ですから、三日目まで墓の番をするように、さしずをして下さい。そうしないと、弟子たちがきて彼を盗み出し、『イエスは死人の中から、よみがえった』と、民衆に言いふらすかも知れません。そうになると、みんなが前よりも、もっとひどくだまされることになりましょう」「ピラトは彼らに言いました。『番人がいるから、行つてできる限り、番をさせるがよい』」(マタイ 27:63~65)

使徒やイエスに従った人々が、自分たちの指導者が十字架につけられたと知った時の、憂い、落胆、悲しみがどんなものか、想像してみてください。彼らは後に残され、何をなすべきかわからず途方にくれたことでしょう。彼らはイエスと共にいて、御言葉を聞いていたにもかかわらず、イエスが再びよみがえるであろうと言った時には、その意味を理解していなかったのです。彼らは目標を失ったと思い、ペテロが「わたしは漁に行くのだ」というと、他の人々も「わたしたちも一緒に行こう」と言いました。(ヨハネ 21:3)。彼らはもとの職業にかえる準備をしていました。

復活の後すぐに、体を示されたこと、あるいはイエスが文字通り復活されたという動かしがたい証拠を簡単に調べてみましょう。

三日目の朝早く、マグダラのマリヤと他の人々が遺体を埋葬しようとして墓にやって来ました。墓をのぞいて、空だとうわかった時の驚き、恐れ、当惑はどんなものだったでしょう。墓のところにいた御使いは言いました。「恐れることはない。あなたがたが十字架におかかりになったイエスを捜していることは、わたしにわかっているが、もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。……」(マタイ 28:5~6)

彼らは弟子たちのところへ急いで行って、よみがえられた主はガリラヤに行かれ、そこで主に会えるだろう、と告げるように言われました。彼らの恐れと、それにもまさる喜びを想像して見て下さい。その途中で、彼らはイエスに会いました。それから、急いで使徒たちのところへ行って、体験したことを報告しましたが、使徒たちは信じませんでした。しかし、ペテロとヨハネは墓へ急いで行き、彼らの体験が真実であることを知りました。エマオに行っていた二人の弟子がイエスに会って話をしました。同じ晩に、使徒たちは並んで座って、ここ数日の間に起こったことなどを話していると、突

然、救い主が彼らの中にお立ちになって言いました。「やすかれ」「彼らは恐れ驚いて、霊を見ているのだと思いました。そこでイエスが言われました。『なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか、わたしの手や足を見なさい。まさしく私なのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ』」こう言って、手と足とお見せになりました」(ルカ 24:36~40)

その場にいあわせなかったトマスは、イエスがあらわれたことを言われても、信じようとはしませんでした。1週間の後、キリストは十一人の弟子たちのところにあらわれ、そこにはトマスも一緒にいました。主が話されると、「……トマスはイエスに答えて言いました。わが主よ、わが神」

「イエスは彼に言われた、『あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者はさいわいである』」(ヨハネ 20:20~29)

その後、イエスは500人以上の人に御自身をあらわしました。パウロがキリストの訪れを受けて、その教えを述べる者として召されたと証した時に、彼らの大半はまだ生きていました。

復活した主があらわれたもうた時、重大な二つのことがこのアメリカ大陸に起りました。モルモン経によると、レーマン人である予言者サムエルがキリストの十字架上のはりつけと復活について予言したように、三日の間地の面に暗やみがあり、大きな恐ろしい破壊がありました。都会は崩壊し、多くの人が殺され、恐れと悲嘆の中で彼らは言いました。

「この大きな恐ろしい時が来ない前に、悔改めをして予言者らを殺さず、石でこれを撃たず、また追い出さなければよかったものを。このようなことをしなかったならば、われらの母や美しい娘や息子たちは命を助けられて、……」(Ⅲニーファイ 8:25)

この大きな破壊の後に、救われた多くの人がバウンテフルの地の神殿のまわりに集まり、その時天から出てくるような声を聞きましたが、三度聞いて初めて、声の意味がわかりました。「わが喜ぶ愛子を見よ。われはこれに由りてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に聞け」(Ⅲニーファイ 11:7)

それから彼らに、天から一人の男の方が降りたもうのが見えました。このお方は彼らに、御自身の手と足を示して、言われました。「見よ、われはイエス・キリストなり、予言者らがこの世に來ると証をしたるその者なり。」「われは最初よりすべて御父のみこころに従えり」

イエスの招きにより、「そこで群っている人々は近よって……またイエスの手足にある釘あとに触れた。……この御方が予言者たちによってこの世に來ると誌されたお方であるこ

とを確に知り、また証をすることができた」(Ⅲ ニーフай 11:10~11, 15)

そして、十字架上のはりつけと復活の後、1,800年たってから私たちには、近代の予言者ジョセフ・スミスの証が与えられています。彼は、森の中でひざまづいて祈っていた時のことを次のように言っています。「私は自分の真上に太陽にも増して輝やく一つの光の柱を見た。そしてその光の柱は次第に下りてきて、光はついに私の上にふり注いだ。」

「……そして、その光が私の上に留った時、私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有したもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまひ、他のお一人を指して『これはわが愛子なり、彼に聞け』と仰せられた。」(ジョセフ・スミス 2:16~17)

これは、この時満ちたる神権時代に、実際に復活した主とまみえ、話した一人の青年の証です。この青年は、古代の予言者のある人々と同様に、自分の血をもってその証を結び固めました。これらは、キリストを知り、キリストに従った者のうちのわずかな人による証です。

しかし、今日の世界においては、実に多くの人々が文字通りの復活があったことを信じがたいと思っています。そして、彼らの前に示される証や証拠が動かしがたいものであるにもかかわらず、彼らには、復活がどのようにして起こったかがわからないために、信じがたいのです。トマスが疑ったように、彼らも見ないからといって、信じないのです。

私たちは、科学的に信じられないが、信じて受け入れなければならないことが多いことを皆よく知っております。自然の法則と神の法則が、人間の理解できる範囲内だけに限られていたら、私たちはどこにわが身をおいたらよいのでしょうか。私たちは、こう戒められてきたのです。「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない」(箴言 3:5)

救い主、世の造り主の御言葉とその教えを受け入れ、信仰により、理解できない事を受け入れて、不死不滅と永遠の生命への準備をすることによって、私たちはどんなに賢明な者となることができるのでしょうか。私たちの信仰は、エルサレム及びこのアメリカ大陸で、キリストにまみえ、話をしたすべての人々の証によって、強められるのです。

違った国で違った時代に住んでいながら、多くの予言者や他の人々がすべて同じ御方の同じ物語について語り、証しているのに、誰が、この物語がでっちあげであり、想像による作り事などと信じられるのでしょうか。この物語は真実なものであるに違いないのです。キリストと予言者たちによって語られた死と復活を信ずる者には、どんな安らぎと、喜び

と、平安が与えられるのでしょうか。

キリストは地上での御自身の使命について語っています。「……これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ 1:39)

さらに、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとひ死んでも生きる。また生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない……」(ヨハネ 11:25~26)

また、「このことを驚くには及ばない。墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえり、悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくる時が来るであろう」(ヨハネ 5:28~29)と言っておられます。

死と復活が、すべての人の上に起こる時が近づいています。さばきを受けるためではなく、生命を受けるためによみがえるには、私たちはどんなことをしなければならないのでしょうか。どのようにして、主の御名を身に受けたらよいのでしょうか。主によって、神の御許に帰るには、何をすればよいのでしょうか。

主の答えは簡単、明瞭です。悔い改めて、バプテスマを受け、福音を信じ、そして「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべき」なのです。(ヨハネ 14:15)

福音とは何ですか。それは、救い主がもたらした、弟子たちに教えたもうたよきおとずれです。救い主の福音は回復されました。弟子たちを召されたように、全世界に行ってすべての人に、平和と親善のメッセージを宣べ伝えるようにと召された人々によって、その福音は今日主の教会で教えられています。

すべての人類は、福音の教えと、その教えを生活にいかす方法を学び、不死不滅と永遠の生命を得られるように、熱心に努力しなければなりません。

私たちがこれらの真理を受け入れ、主の教えに従って、信仰深い者に与えられる祝福を享受できますように。

主は生きておられ、主の教会が今日この地上にあり、選ばれた予言者により管理されていることを証します。「あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」(使徒 1:11)と言われているように、聖典に記されている予言がすべて成就することを証します。

主が再降臨される時に、主とまみえるための用意ができ、この地上における業を終えた時に、私たちが主と永遠に住む価値のある者となれますように、謙遜にイエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

引き延ばしは永遠の生命の盗人

大管長会副管長

十二使徒評議員会会長

ジョセフ・フィールディング・スミス

愛する兄弟姉妹の皆様、私たちは再びこの大会でお会いすることができました。きっと、お集りの皆様の喜びはあふるるばかりであると思います。またラジオ、テレビを通じてこの大会の模様をお聞きの皆様にも、私たちは心からの歓迎の意を表したいと思います。私はただいまから申し上げますことに主の祝福があらんことを願ひ祈っております。

引き延ばしを福音の原則にあてはめるとすれば、永遠の生命の盗人と言えます。この生命とは天父と御子の御前で生活することです。

私たちの多くは、たとえ教会員であっても、福音の原則と戒めを守るのに急ぐ必要はないと考えています。

ニーファイは末日の聖徒たちについて次のように書いております。

「またまことに『われらは明日死ぬかも知れないから、飲んだり食ったりして楽しめ、そうすればわれらは幸福で満足である』と言う者が多くあり、『飲み食いをして楽しめ、しかし同時に神をおそれよ。神は小さな罪を犯すことは許したもう。それであるから少々偽を言い、人の言葉につけ込んで欺き、隣人をおとし入れる穴を掘れ。これは少しも悪いことではない。われらは明日死ぬかも知れないから、すべてこのようなことをしても差支えない。たとえ、われらに罪があると認められても、神はわずかにわれわれを鞭うちたもうだけであって、われらは結局神の王国に救われる』と言う者も多くある」(Ⅱニーファイ 28:7~8)

これは世の人々や「あなたの門のうちにいる 他国の人」(出エジプト 20:10)に対する言葉だと思っはなりません。教会員に対して言われた言葉であり、さらに、ニーファイは末日には、サタンに従う者が多くいるであろうと警告しているのです。ニーファイ第二書からさらに聖句を引用し、読みたいのですが、章と節をお教えします。どうか皆様が家庭に帰られたら、モルモン経を開き、ニーファイ第二書28章20~29節をお読みになってください。

私たちは末日に住んでおります。ニーファイが言ったような話を皆様は実際にお聞きになったことはありませんか。主は小さな罪なら見過したもうだろうと考えて「安隠として肉欲」にふける理屈をつけ、自分を欺いている人がたくさんいませんか。悪魔の力を拒み、悪魔などいないと考えている人が私たちの中にいませんか。彼らは、地獄の苦しみを精神的なものにしてしまっ、地獄などありはしないと言っはいませんか。これらのことが教えられているのを聞いたことがありますか。サタンは、この方法で人々の心を混乱させ、教会

員もサタンのこうかつなこじつけからは完全には抜け切れないのです。

悪癖を身につけるのは容易なことですが、いざそれを捨てるとなると、そう簡単にはゆきません。私たちは、死ねば悪癖を墓にすてられると、考へてはいませんか。死ねば、墓で体が清められて、復活する時には完全で清い体になると考へていますか。私たちのうちのある人々は、死ねば清められると言っ自分の行為に理屈をこじつけ、そう考へています。

アルマは非常にはっきりと教義を教へています。コリアントンに対して、次のように述べました。「お前は、もはや回復に關することを教わっているから、このまま自分の罪深い境涯から幸福な境涯に回復されると思っはならない。罪悪は決して幸福を生じたことではない……」。

お前から出るものはお前にかえる。それであるから回復と言う言葉はかえって罪人をますます罪があるとして少しもこれに寛く當ることはない」(アルマ 41:10, 15)

救い主も次のように述べておられます。「あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう」(マタイ 7:2)ある人々は、些細な罪など大したことではないと考へ、戒めを守るよりも、むしろ自ら好んで罪を犯しその罰を受けようとしているのです。もし、「わずかの鞭うち」ですませられれば、ラッキーだと考へるのです。けれども、罪は贖われねばならないことを忘れてはなりません。賠償しなければならぬのです。私たちが悔改めを拒み、福音の祝福に与えることを拒んだら、その代償を払わねばならぬのです。

罰はなま易しいものではありません。特に良心に悩まされるのは耐え難いものです。苦しみを受けて幸福な人はいるでしょうか。義の道を歩めという知識と勧告が与えられてきたにもかかわらず、自らの意志で神の戒めを破ったから罰せられるかも知れないと四六時中考へているとしたら、それは幸福でしょうか。罪人が、自らの犯した罪の悔改めを知り、キリストとキリストの御業を受け入れて、キリストの愛による犠牲によってもはや罪に苦しむ必要がないことを知ったら、その罪人はどう考へるでしょうか。

永遠の父なる神は、人々のために三つの偉大な王国を用意なさいました。ここで、これらの王国について論ずるつもりはありません。ついでに、星の光榮に行く人は、正直でなかった人、わが名を知ると告白したるもわが言を聞かざる人。(教義と聖約 41:1)、虚言を言う人、魔法使い、不義を行う人、真理の道を拒む人であると言へば、それで十分です。

月の光栄へは、正しく、道徳的に清い者であって福音を受け入れなかった人、また律法なく死んだ人が行きます。

日の光栄に入り、昇栄に与るには、すべての律法を守らなければなりません。主は次のように言われました。

「これを以て、日の栄を受くる備えを為さんために、地はあらゆる不義より必ず聖められざるべからず。またわが汝らに与えたる律法、すなわちキリストの律法によりて聖められざる者たちは別の王国、すなわち月の栄または星の栄の王国をつがざるべからず」(教義と聖約 88:18, 21)

私たちが清められるには、「神の口より出るすべての言」(教義と聖約 84:44)に従って生活し、信仰をもって守らなければならないという誓約があります。「これらの者は、イエスの証詞を受け入れ、その御名を信じ、その葬られたまひし様に従い……バプテスマを受けし人々なり……すなわちかく誠命を守ることによりあらゆる彼らの罪を洗い潔め、聖霊を授くる権能を結び固められ按手聖任せられたる者の按手によりて聖霊を受けんためなり。而して、これらの者は信仰によりて打ち勝ち、御父が正しく且つ真実なる者に皆注ぎたまふ約束の聖き「みたま」によりて結び固めらる」(教義と聖約 76:51~53, 54~60も参照)そして、約束の聖き「みたま」により結び固められない人々、正しく真実でない人々は、これらの偉大な祝福に与ることはできません。

主に仕えるのに早すぎるといふことはありません。両親はその子供たちに小さい時から、自分の誤ちに責任がもてるよう教えるべきです。子供が生まれた時から義しく教えられていたら、いつも義の道を歩む人に成長するに違いありません。子供のころから主を求めようとしなない者は、困難に陥った時に、いくら叫んでも見放されるのです。イスラエル人やニーファイ人の歴史を読んでみてください。彼らは幾度神の戒めに背き、罰を受けたことでしょうか。彼らの罪のゆえに受けた困難の際、主は彼らの叫びを何と遅々として聞かれたことでしょうか。

「彼ら、彼らの神なる主の声に耳傾くこと遅かりし故に彼らの神なる主は彼らの祈りに耳傾けて事ある時に彼らに答うることを遅くす」(教義と聖約 101:7)と主は近代のイスラエルの民に述べられました。

あなたがたは、日の光栄の王国に入り、永遠の生命に与りたいと思っていますか。そうであれば、与えられた主のすべての戒めを守って下さい。バプテスマと按手確認は、神の王国に入る儀式です。けれども、これらの儀式自体は私たちを昇栄させるものではありません。

バプテスマを受けて教会に入った人はすべて、主の戒めを守る義務があります。バプテスマは「新しき且つ永遠の誓約」(教義と聖約 22:1)ですので、私たちは誓約を履行する責任があるのです。課せられたすべてのことを果たし、信仰をもってふさわしい生活をする、次に、他の誓約に与り受け継ぐ者に課せられる義務を受ける特権に与るのです。そして、彼は「長子の教会」の会員になることができるので

す。彼らは、御父からすべてのものを与えられる人であって御父の完きと栄光を受けるのです。これ程、価値のあるものがあるでしょうか。けれども、それは力なしでは得られません。

私たちはよく、主がジョセフ・スミスに対して述べられた次の言葉を引用するのを聞きます。「人は無知にして救われること不可能なり」(教義と聖約 131:6)何に対する無知なのでしょう。世の哲学でしょうか。いいえ、福音の真理、すなわち救いがもたらされる救いの原則と儀式に対する無知です。理解するだけでなく、それらに従って生活しなければなりません。それらの知識自体が私たちを救いに導くのではなく、私たちが従うことにより救いが得られるのです。そうすれば、全き知識とそれに伴う知恵、力、統治する力が得られるのです。そして完き祝福は、主の宮居でしか与えられません。

主への畏れ(愛)は、知識の始まりであるけれども、愚かな者は知恵と導きを見くびると言われております。

「われまた汝らに一つの誠命を与う。すなわち、汝ら今より後祈りと断食とを続けて行ふべし。またわれ汝らに一つの誠命を与う。すなわち、汝ら互いにこの王国の教義を教ゆべし」(教義と聖約 88:76~77)

私たちはアルマの言葉を忘れないでゆきたいと思います。

「現世は、人間が神に逢う用意をしなくてはならぬ時期である。現世の生涯は、人間が各々働きを遂行せねばならぬ時期である。私が前にあなたたちに話したように、あなたたちに証を立てた人々は非常に多いので、私はあなたたちがこの世を去る時まで悔改めを引き延ばさないようにねんごろにすすめる。永遠の来世に行く準備ができるように私たちに与えられている現世の生涯の光陰を有益に用いなかったならば、後から夜のような暗やみの生涯がやってきてそこへ入ったら何の働きもできるはずがない。あなたたちは、このおそろしい危機に陥ってから『私は悔改めて私の神に立ち帰る』と言うことはできない。あなたたちは、本当にこう言うことはできない。なぜならば、あなたたちがこの世を去る時あなたたちの肉体を離れる霊は、永遠の来世に於て再びあなたたちの身体に宿る力を持っているからである」(アルマ 34:32~34)

主は常に慈悲深く、思いやりのある御方です。私たちが主に近づけば、主は私たちに近づいて下さいます。「……熱心にわれを求めよ。さらば、汝らわれを見出さん。求めよ、さらば与えられ、叩けよ、さらば開かるを得ん。」(教義と聖約 88:63)

私たちに一番難しいことは、熱心に求めることです。私たちの求めはうわべだけのものです。私たちは努力をしなくとも、主は聞いて下さると思っているようです。熱心に、愛の気持で導きに従うならば、永遠の生命への道を見出すことができるでしょう。

願わくは、すべての人がこの警告に耳を傾けますように、贖い主、イエス・キリストの御名によりて祈り奉る。

アーメン。

人の戒め

アルビン R. ダイヤー副管長



兄弟姉妹の皆様、再び私たちはこの偉大な教会の大会において、大いなる感化を受けているのです。私は皆様と共に、マッケイ大管長がこの放送を聴いて下さることを、本当に感謝しています。

かつて、予言者ニーファイは、人の戒めにまどわされた人類の不幸な有様について述べています。彼の言葉によれば、

「実に人の誠命に聞き従い、神の権能と聖霊の賜とをしりぞける者は禍である。」(Ⅱニーファイ 28:26)

主は民に、末の日の悪の力について警告しています。「人々の身も霊も亡ぼさんとす。」(教義と聖約 10:27)

私たちは、悪が人の慎みや、道德の標準を識別する力を墮落させるという警告の必要をよく理解できます。

かつて「見よ、人はわれわれのひとりのようになり、善悪を知るものとなった」(創世3:22)と言って、人に善悪を判断する力を与えた神の宣言は、今や問題になりつつあります。人は人の戒めにより、自分たちで「新しい道德」と呼ぶことに決めたあるものを造って、善悪を判断する力を破壊しようとしているのです。もし私たちが、誤まった教育をしようとしている悪の教義を受け入れれば、道德は崩壊のうきめにあうことでしょう。そして、それは腐敗した社会秩序しかもたらないのです。

「新しい道德」は、人間の必要に応じて正しい行動と悪い行動を決めるというおきてを採用し、その必要が誤まったものであっても関係なく、正と邪、善と悪に区別をつけないこ

とです。

もし私たちがこの教えを受け入れれば、この社会は、不正に個人を支配するという原則に基づいて、大きな抑圧を受けるにちがいありません。共産主義の理論が、アメリカ及び全世界に、この抑圧をもたらそうとしているのは、よく知られているところです。

これらよく宣伝のゆき届いた教えの陰にかくれて、にせの目的が、非常に早い速度で進みつつあります。まず、最初に私が述べたいことは、性教育あるいは家庭生活の教育です。学校ではありのままの性が強調され、広く論争の的とされ、両親と指導者の間に深い関心と呼んでいます。

この種の性教育を計画している人々は、両親や社会の反対に対処するために、実験的な方法をとって、この計画を強化しています。この件に関して、そのような教材の使用を拒否するために、公衆が真剣に関心を持つように、奮起させる必要があります。そして、生理学や衛生学の分野でも、公立学校にあるような健全な道德教育を、もっとしっかりと確立する必要があります。

国家教育協会やアメリカ医学協会の、成人教育プログラムに関する報告によると、合衆国性教育評議会(SIECUSとして知られている)、学校保健教育研究会(SHESとして知られている)など、その他家庭生活の教育課程に結びついた組織の活動が活発になってきているということです。

立派な出版社が、おどろくほど詳しく、この種のまだ開拓

されてない市場で、フィルムやあらゆる教材を専ら用意して競争をしています。この扇情的な市場には、おそろしい危険がふくまれています。

非常に若い人の、生命に対する誤まった考えは、彼らが感情的に必要とする前に、生殖作用について教えられることから来るものです。無知な性を減らし、非合法的な妊娠や、性病、その他関連ある問題をなくすためにという名目で、教室で性教育の間違った教育をしていては健全な結果を得る筈がありません。実際の経験を通じて、その結果が健全なものとは全く違う逆のものにすぎないことが明らかになってきています。

この理論を実践している諸外国の誤まった経験に基いて、ある地域では、すでに教室内の性教育が実施され、浸透しつつあります。他のところでも、目下研究中のところや、指導プログラムが開始されたところがあります。合衆国中の議員が、その法案を法律にするようにと迫られています。幸いなことに、いくつかは、否決されております。

ルック誌の記事の中に、一外国の性教育について述べ、さらに、アメリカが新しい制度にかなりの立ちおくれを見せている、という意味のことが載っていました。この記事には、教室を完全に性のさらしものにしようという人々のゆがんだ道徳感が一杯でした。この制度を完成するために、両親のある責任を国家が引き受けるという意味で、福祉国家になる必要がある、と記事は提案しています。記事によると、

「福祉国家では、両親の経済的責任を国家が引き受けています。私たちの国でも、このような社会になりつつあります。あなたも、他の国の中に、あなたにとって益となるものを見つけることができます。性教育においては、地方によって非常によいプログラムがありながら、アメリカのほとんどの地域では、まだなにも実施されていないのです。」

「避妊の社会が、今この国にあります。が、産業界と自動車業界が少し、押し戻されていると同様に、この社会も遅れをとるかもしれないのです」⁽¹⁾

「新しい道徳」によれば、若人は自分の性問題を、教師や両親の助けを借りずに、自分で解決しなければなりません。何が道徳的で、何が道徳的でないのか、あるいは、道徳は完全に必要なかどうかは、生徒自身が決めることなのです。もっと驚くような、悲しいことは、性教育を、完全に道徳的責任や恐れ、理性のないものとするために、努力が払われていることです。

熟練した者が行おうが、未熟な者が行おうが、人間の生殖器官や機能を絵入で説明したり、直接性道徳の標準にさからう様な教育をするのは福音と相反するものであり、教会ではそのようなことには反対しております。それらには、異性、生命、誕生、親を尊ぶ気持ちが欠けています。

私たちは、学校で性教育が徹底して行なわれてきた外国の結果と経験により、アメリカがこの教育を行なったら、どん

なことになるか判断できます。

次の統計はある国にあてはまるものです。

- ・国民の85%は、性は結婚と関係ないと信じている。
- ・98%が結婚前に関係を持っている。⁽²⁾
- ・聖壇にぬかづいた花嫁の50%は、すでにその時妊娠している。⁽³⁾
- ・大半の女性は、自由な堕胎を望んでいる。⁽⁴⁾

まぎれもなく、この国の性教育の影響のためと思われる。性病に関する報告が、「世界のどの文明国よりも、りん病や梅毒が広まっている」⁽⁵⁾という事実を物語っています。他の報告では、単に「悲劇的である」⁽⁶⁾とだけ述べています。しかしまだ、性教育の計画者は、この計画が性病を抑えるであろう、ということを私たちに説明しようとしています。

SIECUSの主張により、性教育によってなくなるといわれている私生児の出生が、前述の国では、実際50%近くも増加しています。

この制度では実際に小さい頃からいわゆる洗脳をするだけでなく、個人に道徳の重要性を教えずに選択をさせる必要があります。

「新しい道徳」という傘をさして前進することは、センシィティビティ・トレーニング（感性にのみうったえる扇動的な教育）をすることになります。これは、人間の行動を形成する道具として、福音の原則と相反する目的のために使われるのです。これらのうちのある方法により、道徳や慣習、礼儀という伝統をうち破るヒステリーが起こりやすくなりました。この方法は、特に若い人に非常な悪影響を及ぼします。

（グループ教育、集団の力、自己批判、人間の潜在能力研究などによる）個人の性格や個性に影響を与えるクラス内のコミュニケーションのために工夫された群衆心理やセンシィティビティ・トレーニングをよく調べてみると、人々にどんな不幸がおこったのかという疑問がおきてきます。

神が子供たちに与えたもうた最大の賜は、個人の自由意志です。それは、霊的成長の基となるものであり、憲法を作っている原則であり、それによって学校制度も維持されているのです。さらに、この自由意志は、センシィティビティ・トレーニングという教育方法により、危険にさらされています。

ここに、グループを批判するうえでの3つの主要点をあげます。これによると、いかに個人の権利が失われるかがわかります。

- 1 参加者が遠慮なく他人を試験するという雰囲気。これは自力でものごとを行うことを無視するものです。
- 2 個人が守っている従来の価値感をうち破り、その代りに扇動的な集団決議をとり入れます。これはグループの力に屈服することです。
- 3 グループのメンバーは序々に従来の道徳を忘れ、自分たちが「新しい道徳」と称しているものに従がいつつあり

ますが、これには道徳など含まれていないのです。

こういうことをよく聞きます。「病人によく効く治療なら健康な者にはもっとよく効くはずである」しかし、健康な者に薬を与えたり、手術をするような医者には、私は、災あれと言いたいのです。

グループ批評会という、毛沢東の率いる紅衛兵が編み出した方法を思い出します。そこでは参加者は、すべて各自の自由意志をくじくために、公衆の面前で告白したり、互いに非難しあうようにすすめられています。ナチの洗脳のやり方を思い起こす人もいるでしょう。センスイティビティ・トレーニングは、共産圏でよく使う手です。

性教育やセンスイティビティ・トレーニングは、悪用されれば、プライバシーの侵害になるばかりか、個人は無視され煽動的な集団決議の場を与えることになります。これは、人の自由意志をくじくものであり、邪悪な考えです。

証会や、神権会及び宣教師報告会、口頭評価、自己反省、告白といった、教会がとっている行動方法は、個人の尊重を強調し、個人の権利を保護するものです。

教会のインスティテュートやセミナーで、センスイティビティ・トレーニングが教育方法から除外されていることは興味深いところです。

3番目に、悪の力と団結して現在問題が大きくなりつつある恐ろしい動きは、婚姻法が大きくゆがんできたことです。それは不道徳な行ないを自由にしようとしているのです。保健厚生文部省の医学担当の役人は、不貞を不貞とは考えず、結婚生活以外の不道徳な行ないとしか見ていないのです。

25,000件の離婚の審理にあたった著名な判事は、未熟な早婚について述べています。彼は言っています。「もし人々が自動車や家を買う時の様に、結婚についてももっと時間をかけて慎重に考えたら、その結婚生活はもっとよいものになっていたことでしょう。」しかし、彼は最後に、「試験結婚」の期間を設けるように提案しています。しかしこれは、彼のそれまでの適切なアドバイスを打ち消すようなものです。この提案に関する彼の意見は、「そして、試験結婚についてよく言われていますが、これは特に、薬が広く使われるようになってからです。」⁽⁸⁾

道徳の上に立って試験結婚制度の効用について考えられますか？この考えはまさに「新しい道徳」の思想にかなうものであり、私たちがよく警戒していなければならない悪い原則です。

「若人とアルコール」運動が勢力を増しつつあります。アメリカ医学協会発行の「今日の健康」誌に、「子供に飲酒について教えるべきか」というテーマの討論が載っています。討論に参加したすべての人が、アルコール中毒予防のためと称して、若人にそれも4才児にまでもアルコールを教えることに賛成しました。

参加者の一人は、次の様な意見を述べています。「両親は

子供に、すべてにおいて健全な環境を与える責任があります。この環境は、アルコールを含めて、広範囲に渡っています。」⁽⁹⁾

このプログラムが、間違った方法でなくそうとしている不幸を、逆に多くしているだけだということは、これらの著名な専門家にも、はっきりわかっていないに違いありません。

道徳的な慎しみとか高潔といったものに逆らう性教育のゆがんだ原則や、センスイティビティ・トレーニング、若人とアルコール、神聖な結婚をゆがめるものなどによって私たちに迫りくる悪影響に対して、私たちは無頓着であってはいけないのです。私たちは、こういう計画に力強く対抗するために、父親参加の父母の会や、教育委員会、教科書審議会、正しい法律の協力を得て、力を結集しなければなりません。

私たち両親には、子供に真理と正義の原則を教えるという重要な役割があることを思い起こすことができますように。

神の靈感により、私たち一人一人を保護するために次の言葉が与えられています。「絶えず徳を以て汝の想を飾るべし、然る時は、汝の自ら信ずること神の前に強くなりて」(教義と聖約 121:45)

主は私たちに、福音のおきての規範に従って生きるように言われました。「またわれ汝らの欺かれざらんために、あらゆるものに規範を与う。そはサタン普くこの地に在り、出で行きて諸々の国民を欺けばなり。」(教義と聖約 52:14)

悪魔について語っている次の予言をいつも心にかけましょう。「彼は、いと高き者に適して言葉を出し、かつ、いと高き者の聖徒を悩ます。彼はまた、時と律法とを変えようと望む。」(ダニエル 7:25)

もし神の王国に自分の場をしっかりと設け、自分の子供を害悪から守ろうとするなら、私たちは正義の道を歩み、イエス・キリストの福音の規範にそって人生を歩まなければならないことを証します。

イエス・キリストの御名により、証します。 アーメン

脚 注

- (1) 「ルック」誌 1969年2月4日号 P.53 J. ロバート、モスキン「避妊の社会」
- (2) 同 上 P.50
- (3) 「U. S. ニュース アンド ワールド リポート」誌 1969年3月17日号 P.48以後
- (4) 「ルック」誌 P.50 より引用
- (5) 「アメリカン オピニオン」誌 1969年3月号
- (6) 「U. S. ニュース アンド ワールド リポート」誌より引用
- (7) 同 上 P.51
- (8) 「パレード」誌 1969年2月16日号 P.8
「理性の報告」より引用 トム・ウィリアムズ判事
- (9) 「今日の健康」誌1969年2月号 P.46 以後

はじめて会って旧知の友

——それがモルモンの特質です——

エドワード Y. 岡崎 鈴木 正 三 神 崎 良 太 郎

私たち伝道部長会は処理すべき山のようなビジネスに囲まれながらも、いつも楽しく神さまの仕事にたずさわっています。私たちににとってひととき楽しいときは、心が励まされたり高められるよい経験や教えられることの多い話をビジネスの合間に聞くとときです。

先日伝道部長会で「本当のモルモンであればはじめて会った方でもお互いに旧知の友のごとくにすぐ親しい気持ちが生れてくる。また、まったく見知らぬ人でも、本当のモルモンの生活をしている人であれば、告げられなくとも、なんとなくその人がモルモンであることがわかる。」といったような話が出てきました。そのときの話を2～3お話ししましょう。

*ベトナムでの傷病兵を沖繩の病院に見舞ったときの話です。あまり親しげに話あっていたからでしょうか。お隣りの方が「あなた方は昔からのお友だちですか」「いいえ、今日はじめて会ったばかりです。」「本当ですか。まるで旧知の友だち同志のように思えました。はじめて会ってどうしてそんなに親しくなれるのでしょうか」「お互いにモルモンだからでしょう」

*YW・MIAの百年祭に日本沖繩伝道部の代表として参加する早瀬姉妹はハワイにおられる宣教師の中西姉妹のお母さんにいろいろとお世話をいただきました。米国本土に出立する彼女を名残り惜しげに見送ったお母さんは帰途2～3日で結構ですから私のところに滞在するようになんとかお取り計りください。」と手紙を私たちに書いてこられました。勿論、彼女たちは今回はじめて会った仲にすぎませんでした。

*岡崎姉妹はあるとき、友だちに頼まれてまったく見知ら

ぬお宅を訪問して家事を手伝うことになりました。そこのご主人は妻を亡くされて子供の世話などに困っておられました。彼女は、玄関に一步踏み入れたとたん、この家はなにかモルモンの家庭のような気がすると感じました。しかし、ご主人は酒も煙草ものんでおりました。何日かたってその家のお手伝いを終える日がきました。その家を去るとき、ご主人はいわれました。「失礼ですが個人的なことをおうかがいしてよろしいですか」「ええ、どうぞ」「あなたはモルモンではありませんか。」「はいそうですが」「やっぱりそうでしたか。あなたがこられたとき、すぐそんな気がしました。お恥しいですが、私もモルモンです。」

兄弟姉妹たち、モルモンの一つの特質はこのように会ったばかりでもすぐ親しくなり、昔からの友だちのようになることにあります。あなた方は各々に似たような経験をお持ちでしょう。今の世は人の心が冷えて、何年も席を同じくしていてもなかなかお互の心がわからず親しくなれないものです。本当にこの点私たちは信仰を通して大いに恵まれています。

私たち伝道部長会がお伝えしたいメッセージは、いつでもどこでもモルモンの人と会うとき、このような喜ばしい気持ちが生れるように日常の生活において、モルモンの標準をしっかり守って欲しいということです。モルモンとは名ばかりでモルモンにふさわしい生活をしていない人にはこのような経験はできないでしょうし、またいわずともモルモンであることがわかるような、よい雰囲気以身をつつむことはできないでしょう。イエスの教えをよく守って幸福な毎日を送られるように念じています。



＜阿倍野支部の「ベニスの商人」＞

MIA 演劇祭開かる

(近畿地方部)

豪 雨注意報が盛んに報ぜられていた6月27日、ちょうど雨の最も激しかったその夜の10時半頃、大型トラックが阿倍野支部の玄関に横づけにされた。そして何やら大きな荷物が、ドサッと下ろされた。京都支部よりはるばる、明日28日のMIA演劇祭のために使う舞台装置が運ばれて来たのである。人間の成し得るあらゆる努力を尽してやっと開幕の運びとなった近畿地方部の演劇祭……ふり返ってみると色々なエピソードがある。ある支部では目下建築中だったために、ほとんど暇を見つけることが出来なかった。にもかかわらず彼らは寸暇を惜しんで建築の合間を見ては、お互に励まし合いながら猛烈に練習した。ある支部では最近数少なくなった蒸気機関車の効果を出すために、わざわざテープレコーダーを引っさげて山陰の山奥、福知山線まで遠征して「なま」の音を録音して来たのである。

ある支部は舞台装置の費用を稼ぐために、アルバイトを探してやっと上演にまでこぎつけた。とにかく、どの支部も良く努力された。中には、良くもまあこんな小さな支部が、ここまで皆んな力を合せたものだ……とついホロリとする場面も多々あった。ドラマを見るのは楽しい。が、しかし優劣をつけるとなると、ドラマに対する評価は実にむづかしい。特に教会に於けるドラマのコンテストはむづかしいのである。時間的、距離的、経済的等々、あらゆる条件が上にのしかかって来るからである。最も理想的な方法は、一日掛りで全支部の演劇を一ヶ所に集めて行ない、それを採点することである。しかしそう簡単に岡山や高松や京都より舞台装置を運んで来るわけにはゆかない。となると定まったMIAの日に地方部の役員が各支部を訪問して、それぞれ採点をして最終日に集計を行ない最も優秀な支部を選ぶこととなる。今回はその方法で最も良い支部を二つ選

んで6月26日の地方部演劇祭で演じてもらうことになった。かくしてMIA演劇祭の幕は切って降ろされたのである。

日時：6月26日(木) 6時45分P.M.

場所：阿倍野支部リクレーションホール

上演：「ヴェニスの商人」(阿倍野支部)

「幸福な男」(京都支部)

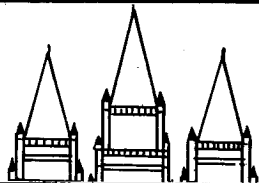
開会までには約200名近くの会員達でうずめつくされた。照明効果も一頃と比較すると抜群に良くなって目を見はらせる。勿論、音楽、衣裳、メーキャップ、大小道具も本格的である。特に目立ったのは演技力の水準が非常に上っていたことだ。その中でもとりわけ秀れていたのが東京より移って来た、最優秀主演賞獲得の島田邦男兄弟(阿倍野支部)である。彼の一举手一動に観客はうなった。それにしてもドラマの評価はむづかしい。それは総合芸術だからである。一つのドラマを採点するためには俳優の演技はいうまでもなく、演出、音楽、照明、衣裳、メーキャップ、大小道具、脚本等、兄弟姉妹の陰の力を細かく分析しなくてはならないからだ。その上に教会の場合は支部のあらゆる条件を考えてやらねばならぬからである。今回はどの支部も実力が迫中していた。そして優劣をつけ難かった。いや優劣をつけるにはむごすぎる程、どの支部も良く頑張ったのである。でも楽しい中にも勝負の世界は厳しい。この演劇祭の終りには今年のドラマの総決算をするべくあらゆる賞が与えられた。

最優秀支部、最優秀主演賞、助演賞、演出賞、舞台装置賞、その他諸々の賞がこの演劇祭を通じて努力された人々に与えられ華やかに幕を閉じた。

若いモルモンに素晴らしい証と熱っぽいエネルギーの余韻を残しつつ……

—晴 兆 記—

近畿地方部



系図祭

*真面目なモルモンの会員であれば誰しも「シオン山の救い手」と成ることを心より望む。もっともっと系図を探究し、もっともっと先祖を救いたいと思うのである。

しかるになぜ、ファミリーグループシート及び、ペディグリーチャートの提出がそんなに少ないのか？なぜ実際に額に汗して探さないのか？返って来る言葉／＼……いそがしい。むづかしい。じゃまくさい。十分な時間がない。費用がかかりすぎる。等々……これでは、いつまでたってもシオン山の救い手とはなり得ない。……なぜ気持は十分あっても実績が上らないのか／＼ どうすれば、思いだけでなく、実際に皆が筆を動かすことが出来るか／ 幾多の問題を持って6月28日地方部系図祭は下記の如きプログラム内容で開かれた。

近畿地方部系図祭

日時：6月28日（土）午後6:00～9:00

場所：岡町支部

管理：中村晴兆地方部長

司会：稲垣篤一評議員

特別講師：渡部正雄兄弟（横浜支部）

6:00PM～7:00PM 系図資料の展示及び閲覧。ファミリーグループシートの書き込み実地指導。何でも聞きましようの時間。

7:00PM～9:00PM 講演とコーラスとスライドの夕べ。

今回の系図祭には日本伝道部の横浜支部より特別

に系図のエキスパート渡部正雄兄弟を講師としてお招きした。

6:00PM～7:00PM 系図資料の展示及び閲覧には、会場狭ましと古い古文書、過去帳、個人記録、アルバム、日記帳、掛図、天皇の系図（掛図）など系図に関係あるあらゆるものが展示され集った人々の興味を大いにそそった。シートの書き込みの実地指導に於いては教会の最古参、周藤兄弟、稲垣兄弟、渡部兄弟達の文字通り長老格が懇切丁寧に指導を行なった。講演とコーラスと、スライドの夕べに於いては、周藤兄弟と渡部兄弟の力強い証があり、聞き入る兄弟姉妹達の心を振るい立たせた。又、神戸支部の素晴らしいコーラス“明けゆく空”が一層我々の士気を高めたのである。今回の系図祭のハイライトは何と云っても、はるばる横浜からこの会のために、はせ参じて下さった渡部兄弟の貴重なスライドである。彼のカバンの中に所狭しと詰め込まれたスライドがあり、その中特に素晴らしかったのは氏が最近アメリカのモルモン教会の神殿をすべて回って撮影して来た時の物である。系図の貯蔵庫や系図教会のスライド等を見る者の目をぐっととらえて離さなかった。この教会に系図の探求が消えない限り教会の真実性は永遠に取り去られることはないだろうと熱弁を振るいながらスライドを説明して行く渡部兄弟に、我々は胸を打たれ、増々、真理の教会に対する証が強まって行ったのである。

そして集まったすべての兄弟姉妹が必ずシオン山の救い手となるのだという強い決意を持ちつつ“我ら天に又会う時を”歌ってそれぞれ家路についた。

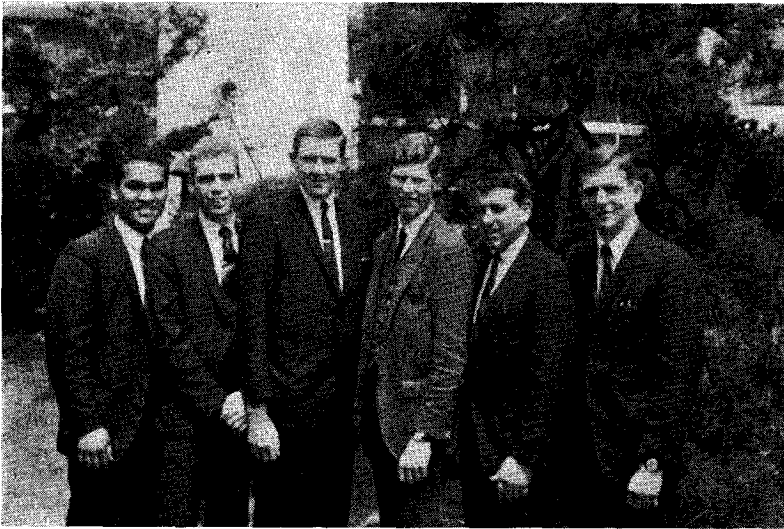
—晴兆記—

*結 婚 3月21日 名古屋支部、白木守兄弟と横浜支部、富岡祐子姉妹が（写真中）4月29日 阿倍野支部、矢野義高兄弟と岡田勝子姉妹が（写真右）6月6日 名古屋支部、中島初男兄弟と岡崎和子姉妹（写真左）が結婚されました。



新伝道地紹介

函館・秋田・長岡



主の祝福を受けて、函館、秋田、長岡(新潟)の三都市に伝道が始まった。

モルモン経、ジョセフ・スミス見神録などのパンフレットをたずさえ、六人の宣教師が、伝道本部より各地へ旅立った。

昨年開かれた七都市に続き、福音は各地に広がっていく。

写真左より ロバート・ハナマイカイとユジン・ダーリー長老(長岡) ケント・バートンとカーク・バグリー長老(秋田) ダン・ハイナとジェムズ・ホワイトサイズ長老(函館)

♪♪♪♪♪ 歌 う 宣 教 師 ♪♪♪♪♪

6月27日 青色のブレザー、グレーのズボンに身をかためた4人の宣教師が、出発した。彼らの胸には、天使モロナイの像が金色で刺しゅうされている。

真の教会を教えるポスターをたずさえ各地を旅する。公園、集会場などで聖なる歌をうたい、ポスターを使って福音を説き、真理を求める人々を宣教師に紹介する。

すべて心の歌は、われの喜びなり。

然り、義しき者の歌はわれに対する祈りなり、彼らの頭に祝福を与えてその応えとなさん。

(教義と聖約25章12節)

写真左より ハリス・ロジャー、カリー・ディーン、マーツュー・ダン、マック・ウィリアム長老



日本伝道部扶助協会主催

ファッション・ショー

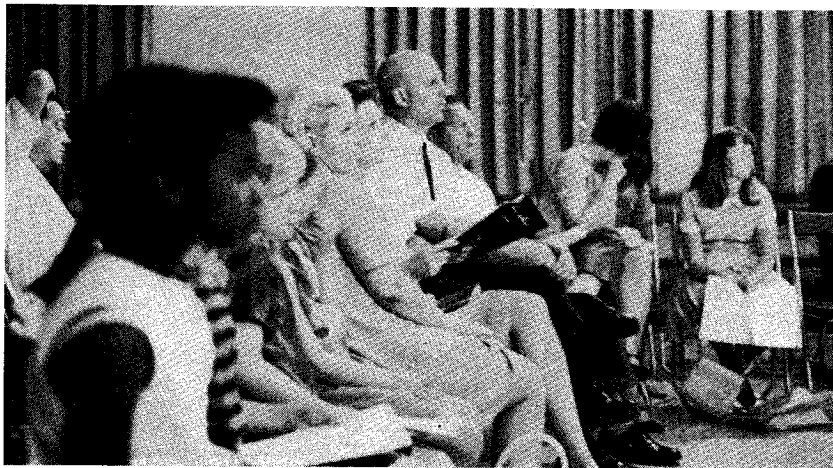
開かれる

6月28日(土)伝道部特別資金のための「ファッション・ショー」が開かれました。その目的は、伝道部扶助協会の資金を活動によって作り出し、現在各地に発足しつつある新伝道地の扶助協会や、まだ会員の少ない支部を援助するためです。

プログラムは3部より構成され、第一部 ドレスメーカーキング・コンテスト、第二部 キモノ・ショー、第三部 貴女のためです。午後3時半より2回公演しました。バザー以外の大きな催物を開いた経験もなく、色々と困難なことに出逢いましたが、姉妹たちは、力を結集してその責任を果たしました。

第1部は加藤静姉妹の担当で各支部の姉妹からドレスメーカー・コンテストに応募する28点の作品が集まりました。作品はいずれも優秀で、甲乙つけがたく、全員に扶助協会のステッカーをつけたメジャーが参加賞として贈られました。

第2部は雨宮きん姉妹の担当でした。キモノに対する見識は専門的で各種の着物を集めました。福田濃兄弟ご一家の浴衣で幕が



あきました。ウール着物につづいて、福島支部よりかけつけてくださった大河内英子姉妹の三味線演奏があり、会場はますます日本情緒に満ちてきました。つづいて訪問着の着付けが紹介されました。外国の皆さんはどの様にして着物を着、何本ひもを使い、帯はどんな風に結ばれるのかと興味を持っていたら幸いです。ナレーターの説明の中で盛岡支部、木下美容院の美容師さんが、てきぱきと着付けられて行くあり様をごらんになりながら感歎の声をもらしていらっしゃいました。つづく伝道部長夫人エルシー・ビルス姉妹とローリー・ビルス姉妹の訪問着、色留袖の着物姿を会場は割れんばかりの拍手で迎えました。斎藤ご一家の日本の正装紹介、さらに文金高島田の打掛け姿の花嫁衣裳とつづくショーに着物になれる日本の姉妹達もしばし陶醉し打掛が白から黄金に変わると会場は息をのむばかりでした。

た。その後お色なおしの深紅の振袖も披露されました。前日から、上京されていた盛岡支部の木下姉妹が、ショーの美容と着付けを担当されました。

第3部は、Design for You で、佐藤栄子姉妹他4人のデザイン・スタッフがデザインしたものを各支部で縫製しました。各支部推薦のモデルさんたちによる街着からリゾート、カクテル、イブニング、ウェディングと進むステージは効果的な照明の中で美しく、展開されました。200の席を用意した会場はせまく、まだまだ立っている人もたくさんいらっしゃいました。ショーの後で会場ロビーに飾られた生花を見、おすしとフルーツ、ジュースで美しい青空のもとで食事をしました。サービスメンの方々や兄弟たちの協力をうけて約400枚近いチケットが売れました。後援して下さったビルス伝道部長及び伝道部長会の方々、また東中央地方部長、各支部長の方々に心より感謝いたします。(佐藤栄子記)



最も実践し難い教え

リチャード・L・エバンズ

「神 我らを愛したまいし故に
御子にして贖い主なるイエス・キリストを送り、
御子の歩みし模範によりて
神に至る唯一の道を我らに示したまえり。」¹

愛は、我々が強調する言葉である。神のその子供達に対する愛、我々を死より贖うために死にたもうた御子の愛、そして次に大いなる、最も実践し難い教えは、我々の隣人に対する愛である。「愛はキリスト教の中で最も実践し難い教えである」²とウイリアム・ペンは言った。おそらく愛は人生で最も実践し難い教えであろう。利己的な愛は決して愛ではなく、別のものである。子供達を愛する父親は、いつも子供達の一番ためになることをしてあげようとする。ある人が他の人を本当に心から愛している時も、その人は相手の一番ためになることをいつもしてあげようとするであろう。そこにはわがま、や利己心はない。そのように、神は我々を愛するが故に救い主をお送りになり、愛する人々と共に我々を永遠の生命へと導く福音をお与えになった。それ以上に大きな賜があるであろうか。また神は我々を愛するが故に、その勧告と戒め——共に我々のためになるもの——に従うことを通して神への愛を示すことを、我々に期待なさっている。「諸君の国を愛しなさい。それは神が諸君に与えたもうた安住の地である。……諸君の国を大きく美しく興しなさい。……人類を愛しなさい。諸君の家族を、伴侶を、隣人を愛し、喜びも悲しみも分け合いなさい。互いに親しんだ故人を愛しなさい。……」³とギゼッペ・マッケーニは説いた。我々は、この世を幸福で、なごやかで、親切心に満ちたものにしよう。我々はこの世で信仰と感謝をもって愛する人々と睦く生きよう。我々はこの世にあって、隣人を己のごとく愛し、心から自分自身をも愛し尊重できるようにしよう。家族を、友人を、そして愛する人々と共に約束されている永遠の生命——いずれも神より授けられた最大の賜——を我々に与えて下さる神に感謝したまえ。ヨブはこう述べた。「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる。」⁴

- 1 エドワード・P・キンボール、「神、我らを愛し、御子を送りたもう」
- 2 ウイリアム・ペン、「孤独の実」
- 3 ギゼッペ・マッケーニ、「イタリアの青年に告ぐ」1848年7月25日イタリアのミラノでの演説
- 4 ヨブ記19：25

聖徒の道

1969年 8月20日発行

振替口座 東京 76226番

発行人兼編集人 ウォルターR. ビルス

発行所 東京都港区南麻布5-8-10

末日聖徒イエス・キリスト教会 電話 (442)7438

印刷所 太陽印刷工業株式会社

定 価 100円

予 約 一年間1,000円 (外国4ドル50セント)

電報受信略号「トウキョウ」マツジツ